

清水一泊百五両

若城
八千代

登場人物

- 宝太郎…清水屋の主、思いやりのある優しい男。
宝二郎…宝太郎の息子、気が弱く、自分に自信がない。
お文…宝太郎の女房、朗らかでいつも笑顔な楽道家。
お豊…清水屋の女中頭、態度がデカい。妄想癖がある。
源太…渡世人、曲がった事が嫌い。妹と生き別れの父を探してる。
お千代…源太の妹。宝二郎に惹かれる。
平太郎…小間物職人、宝太郎の弟、腕はあるが酒好きで口が悪い
お咲…平太郎の娘、しっかり者。
お静…平太郎の二度目の女房、読み書きができる
半次…盗賊不知火小僧の一の子分らしい。スリ、贋金作りなど悪事を働く
竹庵…腕のいい医者。若い女性が好き
権蔵…やくざの親分だが、悪になりきれない。幼馴染のお文の事が好き。
お亀…元清水屋の女中。生き甲斐を探すために職を変える。空気が読めない
佐吉…目明し、正義感溢れる少しうざい男。不知火小僧を捕まえるのが夢
新吉…駆け落ちしてきた客。子供の頃に清水屋に泊まった事がある
お光…江戸の料亭水月の一人娘、新吉と駆け落ちしてきた。新吉が大好き。

序幕◆

いいなり地蔵前 板付き 手紙を読んでる宝太郎と竹庵。

竹庵…なるほど、それでここまでやってきたわけか

宝太郎…ええ、初めは驚きました。まさかあいつから便りをくれるなんて…

竹庵…まったくじゃ、がさつで頑固者で子供の頃から転んだり、喧嘩したりで怪我ばかりのあいつが手紙とはな

宝太郎…そうでしたね。私はどちらかというと、家にいる事の方が多かったですから。

竹庵…似ているのは顔だけで気性はまったく違ったからのう。じゃが…

謝りたい、仲直りしたいとは書いてあるものの…これは、要するに金の無心じゃろ

宝太郎…あいつは職人ですからね、いろいろと物入りなんですよう…親子三人暮らしていくのに

それなりに苦労をしているのかもしれない…嬉しいですよ。こうして兄である私を頼ってくれるなんて

竹庵…しかし人気の少ないこんな地蔵の前呼び出すなんて何を考えとるのか…

宝太郎…竹庵先生、もう二十年ぶりになります。…たった二人きりの兄弟なのに、私だって…

どんな顔して逢えばいいか…人目を忍んでしまうのも無理はないかもしれませぬ。

竹庵…そうじゃな。人の縁も、仕事も、思いも、全て長い年月が関わつとる。年月かけて実を結ぶんじゃ

桃栗三年柿八年、柚は九年の花盛り、枇杷は九年でなりかねる。梅は酸いすい十三年！

スイスイ泳げや清水の海をハイ！すーいすい」とな？

竹庵と宝太郎 すーいすいで平泳ぎの格好。

二人顔を見合せて笑う。

宝太郎…子供の頃からの竹庵先生の決まり文句でしたね
竹庵…宝太郎や何も心配はいりやあせん。きっと仲直りはできる。わしもお前たちが仲良くなってくれたら…ん？

懐をこそそと漁り出す竹庵

竹庵…ありや？こらいかな

宝太郎…どうしました？

竹庵…清水屋に薬箱を忘れてしまったらしい。うっかりしておったわい

宝太郎…それはいけませんね、大切な商売道具だ。今から私に取りにいきましょう

竹庵…いやいや、あんたは弟を待たなきやいかんじやろうて。かまわんよ。じゃ、ちよいと行ってくるでな。

宝太郎…夜道は危ないのでお気をつけて

竹庵 去る 見送る宝太郎

宝太郎……まだ暮れ六つには間があるか…

宝太郎 地蔵の前で

宝太郎…お地蔵様、私に関わる全ての人が幸せになりますよう…お願いいたします。

お千代ふらふらしながら、やってくる。宝太郎と目があい、会釈をして地蔵の前へ

お千代…お地蔵様、お願いです。お父つつあんと一日も早く巡り合えますように…

その様子を見ている宝太郎。胸を押さえながら苦しむ、お千代

お千代…ハアハア…、う、ううう

宝太郎…お嬢さんどうしました？

お千代…すみません…持病の癩で、つく、ハアハア

宝太郎…それは難儀な事でしょう。ちよいとお待ちなさいよ。

懐から、薬を出す宝太郎。

宝太郎…あたしも癩持ちでね。さ、これを飲めば痛みは治まりますよ。

お千代…すみません…

薬を飲むお千代

宝太郎…落ち着いたかい？

お千代…本当にありがとうございます。おかげで助かりました。

宝太郎…いいんだよ、困った時はお互い様だ。そりやあそうと、今お地蔵様に話していたことを

聞いちまったんだが…お父つつあんを探しているとか娘さん一人で大変だろう。

お千代…はい、…兄さんと二人で旅をしていたんですが、三熊野神社のお祭りでスリにあい、
そのまま兄さんとはぐれてしまつて…、

宝太郎…ああ、あの祭りは毎年人がたくさんだからね：

お千代…ご存知なんですか？

宝太郎…ええ。昔、家内とよくいきました。それで、お父つつあんとはまたどうして？

お千代…：小さい頃に生き別れになったまま、それきり一度も会った事ありません。

今までずっと兄さんと探してきましたけど、見つからなくて：

宝太郎…そうかい、兄さんとはぐれてしまったんじやあ、何かと不安でしょう：兄さんの名前は？

お千代…：お恥ずかしいのですが、渡世人で名前を疾風の源太といひます。

宝太郎…何が恥ずかしいものか、妹さんを連れての兄妹旅、それ相当に苦労はつきもの

お前さんを守るために握っている刀なんだ、そんな事をいっちゃあ、罰があたりますよ。

お千代…すみません：

宝太郎…私はね、清水屋の主で宝太郎と申します。お嬢さん、これを持ってお行き。

宝太郎、懐から切り餅を出す。

お千代…これはお金：受け取れません！私、そんなつもりで話をしたわけじゃ：

宝太郎…勘違いしないでくれ。何も施しであげようってお金じゃない。

お千代…いいです！本当に、大丈夫ですから

宝太郎…まあまあ、よくお聞きなさいな。お前さんは若い娘さんだ、お金がなく野宿なんてしたら

何があるかわかりやあししない。お金があれば、一晚二晩、身も心も安心して過ごす事ができるだろう

お千代…でも：そのお金は大事なお金じゃないんですか？

宝太郎…ああ、弟に渡すための五十両だ。だが、この場所でお金を渡せばそれで終い…

二十年ぶりの再会だったのにそれじゃああんまりにも寂しいじゃないか。

この場にお金がない事で一緒に帰り、積もる話をしたあとで渡す事だつてできるんだ。

お前さんがこれを受け取ってくれる事だね…

お千代…それじゃあ、このお金、清水屋さんまでお預かりします。そして、必ずお返しいたしますね。

宝太郎…ああ、この宿場には顔の広い目明しもいる、お前さんの兄さんが宿場にくるまで清水屋で

ゆっくりするといいいよ。お嬢さん名前は？

お千代…お千代と申します。おじ様、いえ…清水屋の宝太郎さんこのご恩は一生忘れません。

本当にありがとうございます。

宝太郎…かまやしないよ。お千代さんか…いい名前だ。

現れる半次

半次…ようやく見つけたぜ…こんな所に居やがったのか

宝太郎…はて、すみませんがどちら様でしょうか？

半次…とぼけるんじゃないやねえぞ！　なんだ、まだ娘がいたのか？そいつでいい、さつさとよこせ！

宝太郎の後ろに隠れるお千代

宝太郎…ちよいとまっておくんない、藪から棒に一体何の事を仰っているのか…

半次…何寝ぼけた事をいつてやがる！

七首を抜く半次 悲鳴をあげるお千代

宝太郎…待ってください！ そんな物騒なものを出して、一体どうするおつもりですか！？

半次…さっさと贖金作るか、娘をよこさねえか！

宝太郎…落ち着いて下さい！あなたは誰なんですか！

半次…てめえ！不知火小僧を舐めてたらただじゃおかねえぞ！

宝太郎…不知火小僧…？ あの義賊と言われた、あなたが不知火小僧さんなんですか！？

お千代…そんな…

半次…だったらどうした！！

七首で切りかかる半次、腕を抑える宝太郎

お千代…宝太郎さん！

宝太郎…お千代さん逃げなさい！ 私の事はいいから早く！

お千代…でも…

七首半次にを止めるお千代

宝太郎…お千代さん！いいから逃げるんだ！

半次…離せ！くそ！離せねえか！

お千代…宝太郎さん！すみません！

逃げるお千代

半次…てめえ！待ちやがれ！ くそ！

宝太郎…お願いですから危ない真似はやめてください！！

半次宝太郎を刺す

宝太郎…うっ…

半次…しまった！

倒れる宝太郎

半次…くそ！殺すつもりなんてなかったのに…おい！おい！しっかりしろ！

懐の手紙に気が付き、中身を広げ見る半次

半次…こいつは…なるほど、そういうことか…

竹庵の声

竹庵…おい、宝太郎やー

半次…くそ！

逃げ出す半次

竹庵…遅くなってすまんかったなあ、お豊さんの話が長くて長くて…

倒れている宝太郎に気が付く竹庵

竹庵…宝太郎！
【木】

暗転

二幕目

前幕より三日後 清水屋 店先 お豊とお咲 板付き

お咲…お豊さん！よろしくお願ひします！

お豊…はい、じゃあ。清水屋の女中頭であるこのお豊さんが、いろいろとお店について教えてあげるからな

まずお客様がきたら、松の間、竹の間、梅の間どこがよろしいですか？って聞いて

お部屋が決まったら、宿帳に名前をかいてご案内よ。

お咲…なるほど！ところで、松の間、竹の間、梅の間って何が違うんですか？

お豊…お咲ちゃん、いい質問ね！全然違うのよ！まあ、どこに泊っても風呂食事つきは変わらないけど…

部屋の質が違うの。

お咲…お部屋の質…

お豊 上手の奥を指さしながら

お豊…ほら、あっちが客間に続いているお部屋で、一番奥のお部屋が松の間！

床の間の飾り物も価値のあるものだし、畳もぴかぴか！しかも九の間もあるのよ

お咲…九の間も！？松の間だけで？ そんなにあります？

お豊…障子をあげれば。富士山が見えるの！山(八間)と一間で九の間！

自分で言っていてうけるお豊、苦笑いのお咲

お咲…なるほど、じゃあその手前が竹の間ですかね？

お豊…そうそう、奥から松・竹・梅って並んでるからわかりやすいかもね。

お咲…竹の間はどんなお部屋なんですか？

お豊…床の間の飾り物は、まあまあ、畳も、まあまあ、襖も、まあまあってところかね

お咲…じゃあ、一番手前の梅の間は…

お豊…床の間の飾り物はガラクタだし、襖はボロボロ、畳はボロボロ…

お咲…いいとこ何もないじゃありませんか！

お豊…まあ、その分安く泊まれるのよ。そして…

下手を指さして

お豊…こつちが裏口に通じてるの。奉公人は、こつちから出入りをしてちょうだいね。

お咲…わかりました！ お豊さん、これからよろしくお願いします！

お豊…ま、わかんない事があつたら、あたしに聞けばいいから、何でもきいてちょうだい。

お咲…はい！ありがとうございます！ じゃあ、まずはいつお客様がきてもいいように、お掃除からですね！

お豊…掃除したつてお客なんかこないけどね

お咲…え？ だって、老舗で評判のいい旅籠だつて…

お豊…そう言われていた時もあつたわよ、でも今じゃ落ちぶれて、客足はぱったり…

お咲…どうしてそんな事になつちやつたんですか？

竹庵が正面口からやつてくる お咲のお尻をさわる

お豊…そもそもはあの疫病神のせいであつたうちのお店は…

お咲…きやああ!!!

竹庵…おや、いつもよりハリがあると思ったら、お豊さんじゃなかったか。

お豊…竹庵先生！やめてくださいよ！うちの新人女中にセクハラするのは竹庵…いやあ、すまんすまん！ つい手が滑って…

やってくる宝二郎

宝二郎…竹庵先生、お待ちしていました。こちらへどうぞ

竹庵…ああ、宝二郎。どうじゃな？宝太郎の様子は

宝二郎…それがぐったりしてしまっていて…

二人、話をしながら奥へ行く

お咲…何なんですか！あの人！

お豊…ああ、医者竹庵先生よ。この界限じゃ腕のいい医者で有名なの。…女好きなのがたまに傷なんだけどねえ

お咲…ほんとにあの人お医者様なんですか!?

お豊…信じたくない気持ちにはわかるけど、素晴らしい方なのよ。医者としては、ね
お咲…あの、お豊さん！もしかして、清水屋にお客様がこない理由って、ケガをされた旦那様と

何か関りがあるんじゃないですか？

お豊…お咲ちゃんするどいわね。…これは今から三日前の事なんだけど…

佐吉がやってくる

佐吉…おうごめんよ！邪魔するぜ！

お咲…あ、いらつしやいませ！

お豊…お咲ちゃん、こんな奴に挨拶なんてすることないわよ！

佐吉…相変わらずだなお豊さん。お、おめえさんは新しく入った女中さんかい？

お咲…はい！お咲と申します！

佐吉…俺は目明しの佐吉つてもんだ。この宿場の平和を守る十手持ちだよ

お豊…なあにが、平和を守るだよ！あんたなんかただの疫病神じゃないか！

佐吉…そんないいぐさはねえだろ

お豊…清水屋の主である宝太郎さんがいいなり地藏前で何者かに刺された。

懐の五十両は無くなつていて、その日待ち合わせていたことで弟の平太郎さんが手配された。

世間じゃ、骨肉の争いだ、兄弟で金銭でもめごとだつて、悪い評判がたちまつて

たったの三日で、奉公人はやめるし、客はこないし、もう清水屋は散々なんだよ！？

それもこれもみんなあんたのせいじゃないか！だから疫病神だつていつてんだよ！

佐吉…お豊さん落ち着けて、それはお門違いつてもんだろ、俺は俺の仕事を全うしただけの事だ。

お豊…ふざけんじやないよ！あんたは、旦那様が証言をしても、まともに取り合つて

くれなかつたじゃないか！清水屋が落ち目になつたのも全部あんたのせいなんだよ！

まくし立ててぜーはーぜーはーしてるお豊の背中をさすお咲

お咲…佐吉の親方、どうして旦那様の証言を聞いてくれなかつたんですか？

佐吉…悪いが、あれは証言じゃねえ。五十両は行きずりの旅の娘に渡した。

刺したのは不知火小僧だなんて、そんな荒唐無稽な話、信じられるはずはねえ
お豊…何でよ！うちの旦那様は、心の優しい仏のような宝太郎さんだつて

世間でも評判なんだから、旅の娘にお金あげたつて何も不思議はないでしょ！

佐吉…だからだよ。心の優しい宝太郎さんだからこそ、弟をかばつて作り話をでっちあげたと睨んだんだ。
それが証拠に、平太郎の家に行ったらぬけの空だった。猫の子一匹いやしねえ、
女房も娘も行き方知れず…大方、親子三人で夜逃げでもしたんだろうな

お咲の様子がおかしい

佐吉…今日は、弟の行方に心当たりはねえか、宝太郎さんに話をしようと思つてな。

お豊…旦那様は今、もうろうとしていて、喋れるような状態じゃないんだよ

佐吉…そうかい、じゃあ…しゃべれるようになったら又くるよ

お豊…もうこなくていいよ！

佐吉…お豊さん、宝太郎さんが自分を刺したと言つてる不知火小僧だがな

盗みはするが、世間じゃ心優しい義賊と言われているんだ…そんな奴が、人を刺したりするわけねえ
…宝太郎さんは嘘をついてる。てめえを刺した弟をかばうなんざ、本当に仏のようなお人だよ。

お咲…

佐吉…本当の仏になる前に、この十手にかけて平太郎を捕まえてやる…それじゃあな。

去っていく佐吉

お豊…ああああ！腹が立つ！何が、本当の仏になる前に、この十手にかけて平太郎を捕まえてやる…だよ！
ほっとけ！ちよいとお咲ちゃん、塩まいてやるから塩もってきて！

思いつめてるような顔のお咲

お豊…お咲ちゃん？お塩！

お咲…あ、はい！すみません…

塩をとりに行くお咲

お豊…よし！おとといきやがれ！疫病神！！！！

勢いよく塩をまくお豊、そこにやってきた権蔵。塩がかかる

権蔵…！！おい、何しやがる！

お豊…げ！ハマゴン！！

権蔵…馬鹿野郎！だれがハマゴンだ！俺は浜名湖の権蔵だぞ！塩なんか振りまきやがって…

お咲…すみません…

権蔵の体をつねぐいで塩をおとすお咲

お豊…申し訳ありません、少々お待ちください！若旦那様！若旦那様！！！！！！

呼ばれてやってくる宝二郎

宝二郎…浜名湖の親分さん、。本日はどのようなご用件で…

権蔵…決まってるじゃねえか、いつも通りみかじめ料だ、シヨバ代払ってもらおうか？

宝二郎…すみません、実は、お父つつあんがあんな事になってしまい、掛け取りの支払いにまわしてしまい
親分さんにお払いできる分がないんです…

権蔵…何だと？それじゃあ何か？ 日頃から、目をかけてやっつてるこの浜名湖の権蔵様を差し置いて

他の店の支払いにあてちまったってのか？冗談じゃねえぞ！

宝二郎…申し訳ありません！しばらくの間待ってもらえませんか！

権蔵…あのな宝二郎。しばらくなんて日には暦のどこ探してもものつちやあいねえんだよ。

これからもここで商売をしてえなら、足をそろえて払ってもらおうか？

お豊…耳です！

宝二郎…お客様もこなくなつて、本当に今大変な時なんです、勘弁してください

権蔵…ふん、やつぱり宝二郎おめえじや父親の代わりは荷が重すぎるわなあ？

宝二郎…親分さん…

権蔵…やりくりもできねえで、鼻もまわらねえんじやしようがねえよ

お豊…首です！

権蔵…うるせえな！さつきからいちいちいち

お豊…だつて！

権蔵…とにかく、そんな気弱な様子じゃ本当に清水屋がつぶれちまうぞ！ 宝太郎がいなきや
ダメな宿屋なんだつて、思われてもいいのかよ！

宝二郎…：

奥から竹庵とお文がやってくる。 もじもじしている権蔵

竹庵…それじゃあ、お文さんやあとのことは頼みましたぞ。

お文…はい、竹庵先生。ありがとうございます。あら、権ちゃん！
権蔵…へへ、文ちゃん。相変わらず可愛いなあ

さつきと違う様子の権蔵になぜ？となってるお咲

文…もしかして、宝ちゃんのお見舞いにきてくれたの？

権蔵…え、あ、ああ！そうなんだよ。宝太郎の具合は大丈夫かい？

お文…それがまだもうろうとしてて…

権蔵…そうか、早く元気になるといいな！

お文…ありがとうございます。

権蔵…それとな、これ…

懐から、手土産の和菓子を出す権蔵

権蔵…文ちゃん甘いもん好きだろ？だから、これよかったら…近所で評判の大福なんだけどう

こしあんがとつてもうまくて…

お文…ごめんね。私、大福は粒あんって決めてるの

大福を落とす権蔵 邪魔にならないように回収するお豊

権蔵…そ、そうかあ！はは、わかった。すまねえな…粒あんだな、粒あん…へへ覚えた。

お文…権ちゃん、今お店がいろいろ大変なの…もしもの時は力を貸してちょうだいね

権蔵…当たり前だ！文ちゃんのためなら、たとえ火の中水の中！困った時はいつでも俺が助けてやるからな！

お文…ありがとう。うふふ、やっぱり持つべきものは幼馴染ね

権蔵…そうだな！あは、あははははは

お文…うふふふふふ

一緒に笑って笑うお豊

お豊…あははははは

権蔵にキツと睨まれておとなしくなるお豊

権蔵真面目な顔つきで、お文の手を握る

権蔵…文ちゃん…！おめえは俺の事を幼馴染にしか思ってたねえだろうが、俺はガキの頃から、おめえの事を…

医者見習いのお亀がバタバタとやってくる

お亀…竹庵せんせー…

竹庵…おお、亀どうした！

お亀…竹庵先生！ 長屋のお米ばあさんが、腰が痛いつてわめいています！

竹庵…そりゃ、いかん！あの婆さんは急いで行ってやらんとうるさいでな！

お亀…あと、大工のトメさんが腹いたで、お松さんのところの吉坊が風邪ひいて寝込んでいるそうです！

竹庵…ああわかった、今いくよ。ほれ！権蔵！お前もいくぞ！

権蔵…くそ！話の首をおりやがって！ 邪魔したな！あばよ！

怒りながら竹庵に連れられて行く権蔵。

お亀…首じゃなくて腰だと思えますけどー

お文…お亀、近頃見ないと思つてたら…どうしたの？その姿

お亀…あれ？お豊さんから聞いてませんか？あたし、本当にやりたい事を探す為

今じゃあ竹庵先生に弟子入りしたんです！

お豊…あれ？この間は蕎麦屋にいなかったっけ？

お亀…そこはもうやめました！

宝二郎…飴売りをしてたのを見たような…

お亀…それは、そのあとですな

お豊…つたく、あんたはあつちこつちフラフラと…

お文…でもすごいわ。お医者様の弟子なんて

お亀…へへ！医者見習いつてやつでさあ！

お豊…そんなたいそうなもんじゃやないだろ、ただの使いっぱしりじゃないか

お亀…まあ、何事も最初は覚える事がたくさんですからね。年月を重ねて実つていくんですよ！

桃栗三年柿八年、柚は九年の花盛り、枇杷は九年でなりかねる。梅は酸いすい十三年！
スイスイ泳げや清水の海をハイ！すーいすい！

みんなですーいすいをする。お咲も

お文..竹庵先生の十八番ね。

お豊..で？本当にやりたい事ってのは見つかったのかい？

お亀..いやあ、まだ何とも..お？新しい女中さん？

お咲..お咲と言います、よろしくお願いします！

お亀..あたしはお亀ってんだ。元清水屋の女中で、今は竹庵先生の弟子！人生は一度きりだからね

本当にやりたい事を探す為に日々生きてるんだよ！

お咲..素敵です！ 生き方を決めるって..憧れます！

お文..そうね！ 私も頑張らないと！ まずは、お部屋のお掃除とかしてみちゃおうかしら！

お咲..女将さん、私もお手伝いします！

お文..ありがとうお咲ちゃん！ 清水屋をピツカピカにするわよー

お咲..お！

お文とお咲 奥へ行く

お豊..さてと、どうしたもんですかねえ。

大福を三人で食べながら相談するお豊・宝二郎・お亀

宝二郎…正直いって、私は平太郎おじさんがお父つつあんを刺したとは思えないよ。

本当に刺した人が見つければ、誤解もとけて客足も戻るかもしれない：

お豊…そうですね、あと気になるのは、消えた五十両ですけど：

お亀…旦那様は、旅の娘に渡したって言うてるんでしょ？ あと、刺したのは不知火小僧だって

お豊…あんた良く知ってるわねえ

お亀…へへ、地獄耳のお亀たあ、あたしのことでさあ！

宝二郎…でも、不知火小僧って。極悪非道なお金持ちから金を盗み、貧しい人たちに分け与える義賊なんだろう？

お豊…そして、七化けという異名を持つ、変装の名人：

お亀…本当にそんな大泥棒が存在するのか、はたまた、旦那様も出まかせなのか：

三人 大福を食べながらうなる ※なんかしょっぱいねとか言いながら

お千代がやってくる

お千代…すみません、ごめんください！

宝二郎…！！！！ 綺麗な人だ。

顔を見てひとめぼれする宝二郎 音楽 大福を落とす

冷めた目でみているお豊・お亀

お千代…あの、こちらは清水屋さんでしょうか？

お豊…はい、さようでございますよ。

お千代…よかった…！ 兄さん！兄さん！ ここが清水屋さんですって

源太やってくる

源太…何だって、お千代でかした！ ごめんなすって！
お豊……！！ 素敵な人！

顔を見てひとめぼれするお豊 音楽 大福を落とす
冷めた目でみているお亀

お亀…ちよつと、お豊さんも若旦那も、呆けてどうすんですか！

いらっしやいませ。お泊りでしたら、そちらの宿帳にお名前をどうぞ

源太…いえ、あつしらは客じゃねえんですよ、この店の主の宝太郎さんにお礼を言いたくてやってめえりやした。

お千代…宝太郎さんはご無事でしようか？

お亀……旦那様は、三日前に何者かに刺されてしまい、命に別状はないものの、未だに目を覚ますことはなく
寝たきりの状態です。

お千代…そんな…ごめんなさい…！ 私、三日前に宝太郎さんに助けていただいたんです！

兄さんとはぐれてしまった私に親切にしてくださいさって五十両のお金まで…その時に、男の人が
刃物を持って襲い掛かってきたんです。

宝二郎…そんな…

お千代…宝太郎さんのおかげで、私は逃げる事ができました…兄さんとも再会できて、この五十両を
清水屋さんに返しにきたんです！本当に、ありがとうございます…

お豊…それじゃあ、旦那様は本当に旅の娘さんに五十両を渡していたんだ…
宝二郎…あの！ お父つつあんを刺した男というのは一体どんな人だったんですか？
お千代…それが…不知火小僧と名乗っていました。

お豊・お亀・宝二郎 顔を見合わせる

暗転

三幕目

前幕の翌日 清水屋 店先 宝二郎とお豊 蔵から屏風をはこんでくる

お豊…若旦那様、足元気をつけてくださいね！

宝二郎…ああ、このあたりでいいかい？

お豊…そうですね、こちらへんにおいて…

お文がやってくる

お文…何してるのー？

宝二郎…おつかさん！ええと、模様替えをしようかなと思って、ねえ？お豊さん

お豊…そうですね、お客様に楽しんでいただけるといいなあ…

お文…じゃあ、私もお手伝いするわ

宝二郎…大丈夫だよ！おつかさんは、そうだ！ええと、店番をしてくれませんか？

お文…え、でも私も模様替えを…

お豊…女将さん、あとはお願ひします！若旦那様！いきましょ！

宝二郎…ああ！

二人奥へ行く お文 一人になって座る、不思議そうに屏風を眺めてる

宝二郎※録音…不知火小僧を毘にかけるだつて！？

前日の回想シーン 照明が変化して 宝二郎・お豊・お亀・源太・お千代がくる

お亀…そうです！ お千代さんの返しに来てくれた五十両を使いましょう！

源太…銭を餌にして釣ろうって寸法かい

お亀…ええ。清水屋の松の間に、極悪非道な悪い渡世人が泊まって

「不知火小僧なんて恐ろしくも何ともねえ、大泥棒だというのなら、この俺様の懐の五十両を

見事盗んでみやがれ！」と、清水屋で好き放題している噂を流すんです！

お千代…それで、顔を知ってる私が、屏風に身を隠し見張って、怪しい人がきたらつかまえてもらうんですね

お亀…そうです！ お千代さんしか、不知火小僧の顔を見てないんですから！頼みましたよ！

お千代…頑張ります！

宝二郎…でもなあ、七化けで変装の名人なんだろう？ うまくいくのかなあ…

お亀…若旦那様、何を弱気なことを言ってるんですか、大体ねえ、いいなり地蔵の前がいくら

暗いからって、自ら不知火小僧だ！なんて名乗るようなやつですよ？ 底がしれてます！

源太…裏稼業の噂じゃ、不知火小僧にやり込められた大店の連中が、五十両の懸賞金をかけているらしい

未だに捕まっていないところを見ると、腕も立つんだらうな…

お豊…大丈夫ですよ！つかまえたなら、店の噂もなくなるし…しかも、懸賞金が五十両！ 清水屋も安泰ですね！

宝二郎…うーん、なんだか不安だなあ…

お千代…あの、それで…悪い渡世人役っていうのは、誰がするんですか？

お亀…そりゃあもちろん

源太を指さすお亀

源太…え？あつし？

お亀…そう、あつしです。ほら、ちよつと練習してみましよう。清水屋で好き放題している

悪い渡世人つぼさがほしいですからね。

源太…練習？

お千代…兄さん頑張つて！

お亀…おうてめえら！舐めてんじやねえぞおお！くおら！どうぞ

源太…おうてめえらなめてんじやねえぞこら…

お亀…ちがう！！もつと！悪い顔して、てめえるあああああつて巻き舌で

源太…え、てめ、てめえ…できねえよ俺

お亀…しようがないですねえ、じゃあ、旅籠の女中を虐げる！えーと…

満面の笑みで挙手するお豊

お亀…お豊さんでいいです。はい、おうこら、女中さつさと酒もつてこねえか！どうぞ！

源太…ほんとにやるんですか？…おうこら、女中さつさと酒もつてこねえか！

お豊…はいよるこんで！

お亀…喜ばない！

お豊…いやです！堪忍してください！あ、だめ、そんな、まって、あああああれええええええ

一人で帯をとり源太に片方を渡して、回るお豊。回ったり戻ったりヨーヨーみたいに

お亀…よし、作戦は明日からです。あたしは、知り合いの瓦版屋さんに頼んで噂を流してもらってきますから
皆さん、よろしくお願いします！では、解散！

まわりすぎて気持ち悪くなってるお豊 お亀 はける

宝二郎…よろしくお願ひします！ お豊さん、お千代さんが隠れられそうな屏風、どこにあるか知らないかい？
お豊…ううう、おそらく蔵の奥の方だと思ひますけど…

宝二郎…それはいけな、ちよいと手伝っておくれ
お豊…えー…わかりました…

宝二郎 お豊 奥へ行く

源太…お千代、俺達も部屋に行くか

お千代…兄さん、私…とっても不安なの。

源太…俺だって不安だよ…不器用な俺にできるんだろうか…てめるるあ

お千代…そうじゃないの！ 私たちのお父つつあんの事よ！

源太…ああ。

お千代…泥棒だけど、困ってる人を助ける義賊だって信じていたのに…

源太…お千代…

お千代…兄さん、私…どうしたらいいか…

源太…心配すんな、俺達の親父がそんな非道な真似をするわけがねえ。だが、もしも、もしもだぜ？

万が一、本当に親父が腐った野郎になっていたのなら、息子の俺自ら引導を渡してやる…

お千代…兄さん…

照明変化 回想終了 お静があたりを気にしながらやってくる

お静…あのーすみません…

お文…いらつしやいませ。お泊りですか？

お静…あ、いえ、ええと、そうじゃなくてですね、あの…

奥からお咲の声

お咲…女将さん—女将さん—

お文…は—いい、こっちよ—

慌てて逃げていくお静 やってくるお咲

お咲…女将さん、行灯の油が切れそうなんですけど…

お文…あら、それはいけないわね。油屋さんにお使いにいつてきてもらえるかしら？

お咲…はい！わかりました！

お文…その間に私はお客様のお相手を…あら？

お咲…どうしました？

お文…今、お客様がいたはずなんだけど…あれえ？

お咲…女将さん、旦那様につきつきりですら寝てないから、疲れが出たんじゃないですか？
たまにはゆつくり休んでくださいね？

お文…ふふふ、ありがとう。お咲ちゃん。

お咲…では、いつてきます！

お咲出ていく。 入れ替わりでお豊・宝二郎。お千代がくる。

お豊…女将さん！ お掃除のおかげで松の間をがより一層、綺麗になりましたねえ。

お文…うふふ、そうでしょう？

お豊…今度は竹の間をお掃除してピカピカにしちゃいませよー！

お文…そうね、私、がんばる！

お豊。お文を連れて入る

宝二郎…お千代さん、こちらへ…

お千代…ここに隠れて見張ればいいんですね。…なんだか、ドキドキします。

宝二郎…あの、やはり…お千代さんが見張りをするのは、危ない気がします。私が代わりに見張りましょう

お千代…でも、若旦那様は不知火小僧の顔を知らないですよ

宝二郎…知りません。…でも、あなたを危ない目にはあわせたくないんです…

お千代…優しいんですね。お父様の宝太郎さんとよく似ています。

宝二郎…似てませんよ。私はお父つつあんみたいに、商売もうまくなければ、人を惹きつけるような

秀でた何かがあるわけじゃない、気弱で自信のない、ダメな男なんです。

うなだれる宝二郎を見て

お千代…宝太郎さんと、宝二郎さんは違います。お父様のように、ならなきやいけないわけじゃない
あなたはあなたのいいところがあるんですから…

宝二郎…お千代さん…

お千代…私は、会ったばかりですけど、若旦那様と話をしていると、とても暖かい気持ちになれるんです。
春の日差しのような、木洩れ日のようなその優しさに寄り添いたくなるほどに…

宝二郎…あの、よかつたらこれを…

簪を差し出す宝二郎

お千代…綺麗な簪…

宝二郎…叔父が小間物屋をやっている、手先の器用な方なんです。私も、幼いころから教えてもらっていて…
心を込めて作りました。受け取っていただけますか？

お千代…髪に、差してください。

宝二郎…私ですか？

お千代…ええ。

髪に差す宝二郎、二人見つめ合い 音楽盛り上がる 歌

(一)

陽だまりのような暖かさ

ふれたぬくもり

見つめあうそれだけで

寄り添う心

いつからかこの胸に

夢中に、なるあなたがいたの

名前呼ばれるだけで照れくさい

(2)

一目あなたを見た時に

ふと気づいたんだ

耳まで染めてしまうくらい

寄り添う心

いつだって弱虫で

むなしいほど自信なんてなかった

名前を呼ぶだけで照れくさい

(サビ)

いつからかこの恋が

無情にも消えてしまわぬよう

何度でもあなたに恋をする

照れて宝二郎が奥へ行く 追いかけてようとするお千代 お豊がやってくる

お千代…きゃ!

お豊…ちよつと! 何二人していい気分で歌ってるんですか! ずるいですよ!

お千代…すみません…

お豊…溢れんばかりの思いを歌に乗せることがゆるされるのであれば! 私だって!

源太さんを思って1曲!

さつきと同じイントロが流れる 歌い始めでお亀の声で歌えなくなる 音楽もカットアウト

お亀…ごようだ!ごようだ!

お豊…ちよつと!人がせつかくいい気分で歌おうと思ってたのに!

お亀…ごようだ!ごようだ!

お千代…お亀さん、何がごようなんですか？

お亀…いやー、竹庵先生のところをやめて、佐吉の親方のところで下っぴきとなったんですがね

さすがは瓦版屋だ！細工は流流仕上げを御覧じろ！ 清水屋に泊ってる

極悪な渡世人の話でもちきりですよ！

お豊…誰よ、五郎二郎って

お千代…それじゃあ、不知火小僧がやってくるかもしれないね！

お亀…へい！そろそろネズミがかかる頃合いかと思ひましてね。様子をみにめえりやした！

お豊…なんかよくわかんないけど、そろそろくるってことね！

お亀…へい！

屏風に三人で隠れる やってくる新吉おお光 こそこそ喋ってるお亀とお豊

お亀…二人連れですわね…

お豊…五郎二郎か？

お千代…女の人もいますよ

見つめ合う二人

新吉…おみっちゃん：親の許さぬ恋におち、儂く散るのは恋の花…この世の縁は薄けれど

お光…未来は一蓮托生の

新吉…死出の山路の高いのも

お光…三途の小川が深いのも

新吉…死なばもろともあの世迄

お光…蓮の台の半座を分けて二人仲良く…

新吉…おみっちゃん！

抱き合う二人

お亀…あのー、お泊りのお客様でしょうか？それとも、旅芸人の方？

新吉…あの、二人で泊まりたくてやってきました！

お亀…ふうむ、もしかして…噂を聞いてやってこられたんですか？

お光…噂？何のことでしょう

新吉…おいら、この清水屋さんに子供の頃泊まった事があるんです！ だから、最後に泊るなら

清水屋さんがいいなってる。な？おみっちゃん

お光…ええ、そうなんです。

お亀…最後？

お豊…生憎と松の間は埋まってしまってます。梅の間でしたらすぐにご案内できます！

新吉…わかりました、ありがとうございます！

なぜか、裏口の方へ行く二人

お豊…お客様！？ そっちは裏口ですよ！お部屋はこちらです！ご案内いたしますね！

上手側に連れて行くお豊

新吉…いえ！大丈夫です！ 泊まった事があるので、おいらたちだけで行けます！おかまいなく！
お豊…そうですか？

お豊が離れたのを確認して、こそこそ話の新吉とお光

新吉…おみっちゃん、あの裏口を抜けると心中岬と呼ばれる場所があるらしい…今宵、そこで旅立とう…
お光…ええ、新吉さん…どこまでもついていきます。

新吉…：親の許さぬ恋におち、儂く散るのは恋の花…この世の縁は薄けれど

お光…未来は一蓮托生の

新吉…死出の山路の高いのも

お光…三途の小川が深いのも

新吉…死なばもろともあの世迄

お光…蓮の台の半座を分けて二人仲良く…

新吉…おみっちゃん！

抱き合う二人

お豊…お客様―？

新吉…失礼します！

奥へ行く新吉とお光

お豊…ねえ、どう思うあれ？

お亀…二人連れだし、違うと思うけど…お千代さんどうでした？

お千代…私の会った男の人とは違いました。

お豊…じゃあ、ただの旅芸人か！

佐吉がやってくる。

佐吉…こら亀！ おめえ何油売ってんだ！

お亀…佐吉の親方、違いますよ！ 不知火小僧を捕まえる為に、ここに罾を張ってるんです

佐吉…何馬鹿な事いってんだ！ いいか、世の中にはなあ、困ってる人が山ほどいるんだ！

お亀…へーい

佐吉…捜査は足だ！

お亀…捜査は足だ！

佐吉…怪しいと思ったらしよっぴけ！

お亀…怪しいと思ったらしよっぴけ！

佐吉…いくぞ！ 亀！ あの夕日に向かつて！！！！

お亀…まだ昼間ですけど！！！！！！

走り去っていく佐吉とお亀

お豊…お亀も大変だねまったく

お千代…随分と熱い目明しさんなんですな

お豊…お千代さん、熱いんじゃないやありません、あれはあつくるしいんです。

お咲が戻って来る

お咲…只今もどりました！

お豊…お咲ちゃんご苦労様。

お咲…お客様、どうされましたか？何かお部屋に不具合でも…

お千代…いえ、大丈夫です。ちよつとお喋りをしていただけなので。お部屋はとも過ごしやすいですよ。

お咲…良かったです、お豊さん、私油を片付けてくるので、何かあったら、呼んでくださいね！

お豊…わかったよ。

お咲…では、失礼します！

お咲 奥へ行く

お千代…お咲さん、でしたっけ？

お豊…ええ。昨日入ったばかりの新人女中です。

お千代…そうなんですわね、しっかりしてるし、氣遣ってくださってほんと、いい方ですね

お豊…ええ、まあ、女中の中の女中と言われる私には負けますけどね…ただ、荷物も少ないし

訳アリかな？とは思ってるんです。

お千代…訳アリ…？

お豊…もしかしたら、家出娘なんじゃないかと。

権蔵がやってくる

権蔵…おう！邪魔するぜ！！

宝二郎がくる

宝二郎…権蔵親分さん、申し訳ありません、みかじめ料の方はもう少し待ってもらえませんか？

権蔵…おう、宝二郎今日はそれで来たわけじゃあねえんだ。

宝二郎…とおっしゃいますと？

権蔵…噂に聞いたぜ、今、清水屋の松の間に極悪非道な渡世人が泊まって、好き放題してるっていうじゃねえか！この浜名湖の権蔵様が筋を通してやろうと思ってるな！

お豊…またややこしい事に…

権蔵…おうおう、旅がらす！いいから出て来やがれ！

源太がひよこつと顔を出す。

権蔵…てめえか！この俺様は、この土地の大親分、浜名湖一家の権蔵様よ！

仁義をきる源太

源太…おひげえなすって！

権蔵一歩下がる

源太…早速のおひげえ、ありがとさんにござんす、てめえ生国と発しますは信州小諸

疾風の源太と申しやす!

権蔵…ん? お、おう…随分と礼儀正しいな…

お豊…昨日練習したじゃないですか!もつと悪そうな顔して!

源太…へ、へい!おうてめえるうるるう!舐めてんじゃねえぞおお!くおら!

怪訝な顔の権蔵

源太…:さつさと酒もつてこねえかあああああ!

怪訝な顔で首をかしげる権蔵 見てられない宝二郎 がんばって!と応援するお千代

自ら襲われに行くお豊

お豊…あれえええええごむたいなああ!!!

権蔵…やっぱり悪い奴だな!清水屋に迷惑をかけるたあ、許しやあしねえ!おう旅がらす!

今すぐ出て行かねえか!

源太…え、いやそいつは…

権蔵…俺が力づくで追い出してやらあ!!!

源太を追い出そうとする権蔵

権蔵の手助けをするといいながら、出て行かせないようにする宝二郎

源太…わ！ちよつと！やめろ！

宝二郎…お手伝いします！

力比べのようになるが圧倒的に宝二郎の方が力が弱い

お豊…こうなったら…女将さんー！！女将さんー！

お文…はーい

お文が出て来る もじもじ権ちゃんになる

お文…あら、権ちゃん

勢い余ってふつとぶ宝二郎と源太

権蔵…よう文ちゃん、へへ、今日も可愛いな。

お文…ありがとう

権蔵…あのよう、今日は粒あんの大福、買ってきたんだ！

お文……ごめんね、今宝ちゃんが元気になるようにって願掛けで大好きな大福を絶ってるの。

ショックで大福を落とす権蔵 拾うお豊

権蔵…そ、そうか…願掛けでな、わかった。

しゅんとしながら、店を出ていく権蔵 入れ替わりで竹庵がやってくる

竹庵…なんじゃなんじゃ、権蔵のやつがしょんぼりして出て行ったが何かあったのか？

宝二郎…竹庵先生、実はかくかくしかじかで…

竹庵…なるほど。そりやそうと、清水屋の店の前で、困つとる女の人がおったからつれてきたぞ

お豊…困ってる女の人？

竹庵…おーい、入っておいで

お静がやってくる

お文…あら、あなたはさっきの…

お静…はじめまして、平太郎の女房のお静と申します。

竹庵…なんと、お前さんが？ それで、平太郎はどこにおるんじゃ？

お静…それが、どこに行つたかわからないんです。そればかりじゃありません、娘のお咲の
行方もわからなくなつてしまいました…。

お文…お咲って、お咲ちゃん？

お豊…お咲ちゃんです！

宝二郎…お咲さんだよ！

呼ばれたと思つて出て来るお咲

お咲…はい。御用でしょうか？

お静…お咲！？

お咲…お静さん！？

宝二郎…意外と早く会えましたね…

お千代…灯台下暗しですね…

お静…無事でよかったです…心配したんだよ？

お咲…しらじらしい！あたしの事を女郎屋に売ろうと思つていたくせに！

ぎよつとするまわり

お静…お前…やっぱりあの時の話を聞いていたんだね。そうじゃないんだ、そんな事をさせないために

父ちゃんは清水屋の…

さえぎるように怒るお咲

お咲…旦那様を刺したつていうの！？あたしを売れなかったかわりに！それで、お金まで奪うなんて

信じられない！もうあなたの顔なんてみたくないわよ！さっさとここから出て行ってちょうだい！

周りがなだめるが、お咲は興奮してお静を追い出そうとする
止める周り　ごちやごちやしてるなか、竹庵がお咲のお尻をさわる

お咲…きやあああ！！

竹庵…やっぱり若い子がハリが違うのう

お咲…何するんですか！

竹庵…まあまあ、落ち着きなされ。お咲ちゃんや、あんたの怒る気持ちもようわかる…じゃがな？

お静さんがあんたを心配してきたことには何の変わりがあるものか

お咲…いやです！納得できません！

竹庵…まったく父親に似て頑固じゃなあ、人の縁も絆も、長い年月で実っていくもんなんじや。あ、それ♪

桃栗三年柿八年、柚は九年で花盛り、枇杷は九年でなりかねる梅は酸いすい十三年！スイスイ泳げや清水の海をハイ！すーいすいとな！

清水屋　手拍子

お咲…だから何なんです？

竹庵…ありや？響かんかったか？

お千代…あの！　良かったらお咲さん、一緒に奥のお部屋でお話しませんか？

源太…お千代、おめえ

宝二郎…そうですよ、よかったら、客間でこの大福でも召し上がってください。

お豊から、大福を取り上げ、お千代に渡す宝二郎

お豊…あー

お千代…ありがとうございます。ね、いきましょ？

お咲…：はい。

奥へ行くお千代とお咲 大福にみれんがあるお豊

お静…すみません…

竹庵…かまやせん、平太郎もよく頭に血が上った時はあの歌と踊りで気をそらしてやったもんじや
宝二郎…お咲さん、随分と怒ってましたもんね。

お静…：お咲は、前のおかみさんの娘なんです。やっぱり、血がつながっていないと
うまくいかないものなんですね…

お文…さつきお咲ちゃんが言っていた女郎屋に売るといふ話は、何の事なんですか？

お静…それが、亭主の平太郎が博打にはまりまして…それで五十両もの借金をこさえちまって…
源太…博打なんてな、堅気のお人がするもんじゃねえつてのに…

お静…でもそれを肩代わりしてくれるって人が現れたんです。

照明変わって回想シーン 酒を飲んでる 平太郎と半次

平太郎…いやあ、おかげでたすかりました！ もう博打はこりごりでさあ

半次…いいんですよ、困ったときはお互い様だ。そりやそうと、平太郎さんは腕のいい小間物屋さんとか、簪とか小物とか器用に作られるんでしょ？

平太郎…へへ、とんでもねえ。まあ、自慢じゃねえが…あつしの作る小物や簪で何人の人が見ほれたか…
半次…なるほどねえ、ちよいとこいつを見ておくんなさい。

懐から贋金の小判を出す半次 受け取り見る平太郎

平太郎…ん？何です？ こいつは…小判。じゃあねえ。偽物だな。

半次…なんですって！ これは贋金…しまった、騙されちまったか、でも、一目見ただけでよくわかりましたね

平太郎…へい、こいつは表のさざなみ模様が荒い、溝の深さも幅も揃っていいえし、何より裏の刻印が
つぶれちまって、明らかな偽物だっすぐにわかりましたよ。

半次…いやー、さすがだ！ たいしたもんだ！

平太郎…とんでもねえ、まあ、あつしだったら本物そつくりにする事もお茶の子さいさいですがね？

半次…ほう、本物そつくりに？ 作れるんですかい？

平太郎…へい、もちろんでさあ！ 作ってさしあげましょう！

半次…その言葉、嘘じゃねえだろうな？

雰囲気のかわる半次

平太郎…へ、いや、へへ、やだなあ、冗談ですよ、冗談！

半次…何が冗談なもんか、今てめえがその口が言ったんだぞ？ 本物そつくりに作ると…

吐いた唾きを飲みやあしねえだろ？

平太郎…待つてくれ！ 贖金なんてバレたら、死罪だ！そんな事できるわけねえ！

半次…バレなきやいいんだ、本物そつくりで作れるてめえなら、何の心配もいらねえじゃねえか

平太郎…いや、でも…

半次…ああ、そうかい。だったら仕方ねえな…この話は忘れてくん

平太郎…ああ。すまねえ

半次…その代わり、おめえの娘を売って金にしろ

平太郎…え？

半次…肩代わりした五十両、きっちり払ってもらうからな？

平太郎…：そんな

半次…いいか、平太郎。逃げようなんて馬鹿な考えを起こすなよ？この不知火小僧、地獄の果てまで

追いかけて、決して逃がしやあしねえからな？

照明もどる

源太…不知火小僧！？ そいつがそう言ったんですか？

お静…はい、去り際にそう名乗っていたと…

源太 考え込む

竹庵…そうか、それで宝太郎に金を無心をしたというわけか

お静…私が言ったんです、兄さんに頼ったらどうかって…でも

照明変化 回想シーン

平太郎…冗談じゃねえ！今さら兄貴に頭なんて下げられるか！

お静…じゃあどうするのさ、五十両なんて大枚なお金、右から左へおいそれと出てくるような額じゃないだろ！
それとも何かい？ 言われるままに贖金を作るのかい？

平太郎…そんなことできるわけねえだろ！

お静少し考えて

お静…ああ、そうかい。だったら仕方ないね。お咲に頭を下げて身を売ってもらおうじゃないか

ガタンと物音がする、お静が様子を見に行こうとする

平太郎…大事な一人娘には代えられねえ…わかった、兄貴に頭を下げよう、お静、手紙をかいてくんな。

お静…お前さんならそう言ってくれると思った。ちよいと待っておくれよ

照明もどる

竹庵…なるほど…平太郎を焚きつけるための、芝居をお咲ちゃんが勘違いしてしまったというわけじゃないか

お静…ええ、平太郎を送り出して家に戻ってみれば、お咲の姿がなくなっていて、あちらこちらを

さがしても見つからず、うちの人に知らせようと清水屋にきてみれば、清水屋の主が何ものかに刺された、手配されているのは平太郎と…

落ち込むお静 裏口から忍び込む平太郎

お静…そりゃあ、うちの人は酒癖が悪くて、下品で頑固者で、足は臭いし、いびきはうるさいし、足も臭いし、おならだって何食べたらそんな匂いになるんだい！ってなくらいに悪臭で、着物は脱ぎっぱなしだし、足は臭いし、だらしないし、ちゃんと片づけてって言ってもあーあ、今！今やろうと思っただのになああ！やるき失せたあ！って屁理屈こねくりまわして本当に足のくさい腹立たしい男なんですけど！

シヨックをうける平太郎

お静…でも！職人の腕は確かで、誇りをもってる、筋の通ったいい男なんです！

いくら仲違いをしてたからって、兄を刺すような真似、するわけありません！

宝二郎…そうです！おじさんはお父つつあんを刺してはいません。これだけは、はっきりと断言することが出来ます！おじさんの作る簪や小物は、とても繊細で美しく、私は幼い頃から教わって来て

尊敬しています！ 下品で足は臭いけど、繊細で優しい人なんです！

複雑な気持ちの平太郎 お千代が戻って来る 平太郎慌てて隠れる

お千代…あら？

宝二郎…お千代さん、お咲さんどうでした？

お千代…それが…宝太郎さんを刺したのが平太郎さんじゃないってことはわかってもらえたんですけど
お静さんとは会いたくないって言うてて…。

お千代、大福のあまりをお豊にあげる、うきうきでもぐもぐお豊

お静…：わかりました、近くの宿をとっているので、今日はいったん戻ります。

お文…お静さん、もう少しお話ししたいので一緒にいいですか？

お静…：ええ。

お文…大丈夫ですよ、きつとうまくいきます。

お静…そうでしょうか？

お文…そうですよ。そうに決まっています。そう思えば、そうなんです。

お静…そう思えばそう。

お文…ええ、宝太郎ちゃんもきつと助かる。お咲ちゃんとお静さんもうまくいく、…そう思えば、そうなんです。

それぞれ思いを馳せる

お静…お咲といつかは、親子になれますか？ そう思えば…

お文…なれます。だつて、そうなりたいって思える心がきつと伝わるはずですから。

お静…はい…：ありがとうございます。

お文…では、行ってきますね。

お静とお文 連れだつて雑談しながら出ていく。

竹庵…：やれやれ、平太郎のばかたれはどこで何をしとるのか。さて、宝太郎の様子を見に行くかな
宝二郎…：ご一緒します！

竹庵と宝二郎が奥へいく　大福を食べてるお豊　お千代が下手を伺う

源太…お千代、どうした？

お千代…さつき誰かがいたような気がして…気のせいかしら、不知火小僧のことが気になりすぎて
ちよつとのことでも過敏になっていてみたい…

源太…そのことなんだが、なあ、おめえが見たつていう不知火小僧は、おそらく偽物だ。

お千代…偽物！？　不知火小僧じゃないつていうこと？

源太…ああ、さつきのお静さんの話を聞いて確信したぜ。平太郎さんは、不知火小僧を名乗る男から
贋金を作れと脅されていたらしい、それができないなら娘を売れと言ってきた
おかしいと思わねえか？　天下の大泥棒がなんで、わざわざ贋金なんて作らなきゃならねえ

お千代…そうね、それに、お咲さんを女郎屋に売るだなんて…

源太…ああ、俺の知ってる親父はそんな事はしやしねえ！　安心しろ

お千代…良かった…：そういうえば、あの時宝太郎さんを襲った人、誰かと宝太郎さんを間違えているみたい
だったわ…：もしかして、平太郎さんと間違えて…？

半次がやってくる　大福をもごしながらお豊が対応

お豊…いらつしゃいませーお泊りですか？

源太のうしろに隠れるお千代

お豊…生憎、今梅の間しかあいてないんですよねえ

半次…そこでかまわねえ、さっさと案内しろ…

お豊…言っておきますけど、畳も襖もポロポロですよ？あとで文句言わないでくださいねー？

半次…うるせえ！いいから案内しろ！

お豊…はいはい、わかりましたよ。どうぞ、こちらでございます！

お豊、半次を案内する

源太…あれ？今のお人…

お千代…兄さん、あの人…あの人よ

源太…どうしたお千代、震えてるぞ

お千代…あの人…あの人…宝太郎さんを刺したんです…

暗転

四幕目

宝太郎が刺された日の回想　竹庵の録音の音が響くなか、走って来る平太郎。

平太郎…そんな…兄貴が…兄貴が…

半次…このまま逃げるつもりか？

やってくる半次　驚いて腰を抜かず平太郎

半次…平太郎、まさかおめえに兄貴がいたとはなあ？　あまりにそっくりなんで間違えちまったよ

平太郎…よくも兄貴を…人殺し！

半次…おいおい、いいのか？そんなデカい声を出したりして…俺はおめえが兄貴に送った手紙を

持つてるんだぞ？　五十両を無心してること、日にちも、場所も、おめえが指定してるんだ

…ましてや、懐の五十両は無くなってる、誰がどう見たって、おめえが兄貴を刺したと思うだろうなあ？

平太郎…

半次…いくらおめえが違うと言ってみたって死人に口なし、それに五十両をもらった娘だつて

馬鹿正直にわざわざ返しにきやしねえだろ、黙ってりや大金が手に入るんだからな？

わざわざ戻って来ることおめえ…諦める平太郎

平太郎…女房と娘には手を出さねえでくれ！頼む！

半次…悪いようにはしやしねえ…なあ、平太郎。これから仲良くしていこうぜ？

絶望する平太郎　にやつく半次が半ば無理やり平太郎をつれていく　照明　変化　前幕の夕刻頃

お豊…え！！梅の間に泊ってる人が旦那様を刺した不知火小僧なんですか！？

宝二郎…お豊さん、声が大きいですよ！

お豊…すみません…えー、でも、そんな恐ろしい人が泊まってるだなんて…源太さん、あたし怖いですう

するよるお豊を、無意識にいなす源太　コケるお豊

源太…だがそいつは偽物じゃねえかと思うんですがね。

宝二郎…偽物って、なりすましという事ですか？

竹庵…まあ、確かに世間じゃ貧しいものを助ける義賊と言われてるが…とてもそうは見えんからのう

お千代…どうして清水屋さんにきたんでしょうか？

お豊…極悪非道な渡世人作戦にくいついたとか！

竹庵…もしくは、宝太郎が生きていることを知って、口封じとして、とどめを刺すためにやってきたか…

宝二郎…そんな！だったら佐吉の親方に知らせにいきましょう！

竹庵…落ち着かんか宝二郎、何の証拠もないのにあいつにシラを切られたらおしまじやろ！

お千代…でも…不知火小僧を名乗って、宝太郎さんを刺したのはあの人に間違いないんです！

私、はつきりとこの目で見たんですから！

お豊…あの疫病神のことだから、旅の人の言う事を簡単に信じるかどうか…

源太…証拠なんてどうでもいい、俺が始末をつけりゃあいい話だ！

刀を握り意気込む源太

竹庵…待ちなされ、そんな事をすりやあ源太さん、お前さんがお尋ね者じや。あとに残った
お千代さんはどうするんじや

源太…：へい

お豊…どうしたもんですかねえ…

頭を抱える一同　そこにお咲がくる

お咲…皆さん灯りもつけないで、何してるんですか？

宝二郎…ああ、お咲さん。ちよつと源太さんたちに旅の思い出話を聞いていたんですよ

お咲…そうなんです、もう日も暮れますから、灯りつけますね。

行灯の明かりをつけるお咲　新吉・お光がやってくる　人がたくさんいてぎよつとする

素通りして裏口へ向かおうとする新吉・お光

お咲…あの、どちらへ？

新吉…あー、えーと、お風呂に行こうかと…ね？おみっちゃん

お光…そうなんです、ねー、新吉さん

お咲…お風呂はそっちらじゃありませんよ。ご案内いたしますね

新吉…いえ！大丈夫です！思い出しました！

お光…お構いなく

そそくさと去っていく新吉とお光

お豊…何かあの二人も怪しいのよねえ…あ、そうだ！忘れてた！お咲ちゃん悪いんだけどさ

太和屋さんに仕出しお願いにいつてきてくれる？ ほら、うち板さんみんなやめちゃったでしょ
お咲…わかりました、いつてきます！

お咲 裏口から出ていく

宝二郎…刺した証拠じゃありませんけど、お静さんの話に出ていた、平太郎おじさんに見せた

贖金を、もしも今もまだ持っていたとしたら、それが奴の悪事の証拠になるんじゃないでしょうか！？

源太…確かにそうだ！

竹庵…その手でいこう！ 隙を見て荷物を調べるんじゃない！

佐吉が駆け込んでくる

佐吉…おい！てえへんだ！てえへんだ！！

竹庵…何じゃ、騒がしいのう

佐吉…番所に来たんだよ！とんでもねえものが！

お豊…あれ？とこでお亀は？

佐吉…あいつだったら方向性の違いだとか何とか言って辞めていきやがった。それよりも、これだよ

こいつを見てくれ！

懐から予告状を出して広げる 受け取り、読む宝二郎

宝二郎…暮れ六つを、知らず鐘の音、松が枝に、不知火灯り、鴉を鳴かす。…これは何でしょう？
源太…そいつはもしや、不知火小僧の予告状じゃ…

佐吉…おお、よく知ってるな！そうなんだよ。義賊と言われた不知火小僧は、毎度、盗みに入る前に
七五調の予告状を送って来る…まさにこれがそうなんだ

お豊…でも…これってどういう意味があるんですか？

佐吉…これは、暮れ六つの鐘が鳴った時に、松が枝…つまり、清水屋さんの松の間だな
そして、鴉つてのは旅鴉、松の間に泊ってる旅人は…

お千代…兄さん！

源太…あつしのことですかい？

佐吉…そういうこつた、松の間に泊つた極悪非道な旅人を、不知火小僧が現れて懲らしめるって
ことだろうな？

源太…くそ！舐めた真似しやがつて…

お千代…親方さん、違うんです！兄さんは本当は極悪非道な人なんかじゃなくて…

佐吉…大丈夫だ、お亀から話は聞いている。不知火小僧をおびき寄せるための芝居なんだから？
俺も力になってやろうじゃねえか。

宝二郎…佐吉の親方がいれば、心強いです！ありがとうございます！

佐吉…任せときな！

半次がやってくる　　ぴりっとする一同　緊張しながら声をかけるお豊

お豊…あ、あのお客様…お出かけでいらっしやいますか？

半次…おう

お豊…どちらに行かれるのでいらっしやいますでございましょうかでしょう？

半次…どこだつていいだろう！

半次 出ていく 驚いてひっくり帰るお豊

佐吉…あいつは…七首半次じゃねえか

お千代…親方さんご存知なんですか？

佐吉…ああ、あいつは番所にも手配書がまわつてきてる…七首半次という、小悪党だよ。

この間までは鼠小僧の名を騙っていたが…まさか、今回は不知火小僧を名乗るとはな

源太…思い出した！あいつに三熊野神社の祭りで財布をスラれたんだよ俺は

佐吉…巾着切りやゆすり、何だつてするからな…

宝二郎…今回も何か仕掛けてくる気でしょうか？

お豊…何だか不安で仕方がないんですけど…

お千代…でも、今ならお部屋を調べる事ができます！ 帰ってくるまでに、贖金を探しましょう

竹庵…ああ、よしそれじゃあ、半次のあとをつけて尾行するもの、梅の間で家探しをするもの、

松の間で待ち伏せするもので別れようじゃないか。

【壹】 源太…俺が奴の後をつけよう、いざという時には戦えるからな。

【弐】 佐吉…尾行だったら俺に任せてくんな。なんせ、仕事柄慣れてるんでね。

【参】 竹庵…まあ、この中じゃわしが尾行した方が目立たなくていいじやろ

宝二郎…でしたら、梅の間の家探しは私が

お千代…私も一緒に探します！

【壱・貳】竹庵…うんうん、だったら、わしは宝二郎たちの警護にまわろうか

【参】佐吉…よし、俺は警護にまわろう

【貳・参】源太…お願いいたしやす、それじゃあ、あつしは松の間で、待ち伏せすりやあいんですね
【壱】佐吉…じゃあ、俺は松の間で待ち伏せして捕まえてやろう！

宝二郎…お願いします！

お豊…あのー、あたしは何をしたらいいんでしょう？

竹庵…お豊さんは、待機じゃ

お豊…待機？ なんかもっと、尾行とか、聞き込みとか、追撃とかないんですか？

源太…お豊さん、おめえさんがここで待機してくれりゃあ、どれだけ安心かわかりやせん。お願いいたしやす！

お豊…源太さん…♡わかりました！このお豊、一日千秋の思いで待つております。

宝二郎…それじゃあ、お千代さんいきましようか？

お千代…はい！ よろしくお願いします。

竹庵…ああ、源太さんも佐吉も頼んだぞ？

佐吉…へい！

源太…へい！

各自 ばらばらに移動 一人になるお豊

お豊…さてと…待機ね、待機、んー…待機って何て退屈なのかしら。んー、だめだ。

近頃、色んな事がありすぎて疲れてるのかしら？ねむ、ふあくあ…ちよつとだけ…
ほんの、ちよつとだけ…

ものの数秒で寝てしまうお豊　少しして、新吉とお光が出て来る

新吉…誰もいないみたいだ…今だったら…

お光…きゃ！　だれかいるわよ！？

お豊の様子をうかがって

新吉…心配いらぬ、眠ってるよ…今なら、大丈夫だ。おみっちゃん、ついてきてくれるかい？
お光…新吉さん、当たり前じゃない…私は、新吉さんと一緒なら、あの世にだつてついていくわ

見つめ合う二人

新吉…親の許さぬ恋におち、儂く散るのは恋の花…この世の縁は薄けれど

お光…未来は一蓮托生の

新吉…死出の山路の高いのも

お光…三途の小川が深いのも

新吉…死なばもろともあの世迄

お光…蓮の台の半座を分けて二人仲良く…

新吉…おみっちゃん！

抱き合う二人　平太郎出て来て驚く　目があう　抱き合つたまま挨拶をする

新・光…こんばんは
平太郎……こんばんは

同じ方向に避けてしまい、うまくすれ違えない
最終的に新吉とお光のアーチをくぐる平太郎 裏口へ向かう新吉・お光

平太郎…あのー、そちらは…

新吉…裏口で何も言っていないって言うんですよ！？わかっていますよ！

お光…私たちはわかってて行くこうしてるんです！

新吉…もう放つといってください！

新吉たちの声で目が覚めるお豊

お豊…なあーに？もう、うるっさいわねえ…

慌てて裏口から逃げようとする平太郎 通せんぼする新吉とお光

新吉…ダメですよ！おいらたちが先です！

お光…順番は守ってください！

平太郎…何が！？

お豊…んー？あれ？旦那様？ …まさか、幽霊？いや、そんなわけない…ということは、不知火小僧だあああ！！

お豊の声にみんながやってくる 逃げ惑う平太郎 最終的にはお豊が馬乗り

お豊…旦那様に化けるなんて、ふてえやろうだ！
宝二郎…お豊さん待ってください、もしかしたらこの人は…

お咲が帰って来る

お咲…只今帰りました…父ちゃん！？

平太郎…お咲！

宝二郎…やっぱり！平太郎おじさん！

慌てて、平太郎からどくお豊

お咲…あたしを連れ戻してきたの？ そんなにあたしに身を売ってほしいの！？

平太郎…そうじゃねえんだ、そもそも、俺もお静も、おめえを女郎に売ろうなんて思っちゃいねえ…

お咲…じゃあ、ここには何しにきたのよ！

平太郎…いや、それは…

気まずい雰囲気 そこにお文が帰って来る

お文…ただいま

お豊…女将さん、おかえりなさいませ。

お文…すっかり話し込んでしまった、お静さんとてもいい方でもうお友達になったのよ。ついでに

いいなり地蔵様にお参りしてきたの。宝ちゃんがよくなりますように…あら？

平ちゃん？平ちゃんじゃない！ 良かったあ、みんな心配していたのよ。

ね、お咲ちゃん お静さんにも早く知らせてあげないと♪

宝二郎…この状況でそう言えるの、おつかさんくらいだよ。

不思議そうなお文、苦笑いとゆるい雰囲気の一同 そこへ半次が帰って来る

半次…おい！客が戻ったつてのに、この店は出迎えもねえのか！？

お咲…すみませんお客様！すぐに足湯のご用意をいたします！

お咲 上手へ 半次 平太郎をにらみながら上手へ

【壺】 源太、 【弐】 佐吉 【参】 竹庵も戻って来る。

【壺】 源太…女将さん、背中に何かついてますぜ

【弐】 佐吉…あれ？お文さん、背中に何かついてますぜ

【参】 竹庵…こりや、お文さんや背中に何かついてますぞ

お文…え！やだ、虫？とつてとつて！

背中に紙がはさまっている。

宝二郎…これは…手紙でしょうか？

お文…まあ、お静さんからかしら。奥ゆかしい方ね

宝二郎…そんなわけないでしょ！

【壺】 源太、【弐】 佐吉 【参】 竹庵、手紙を広げる

【壺】 源太…こいつは不知火小僧の予告状だ！

【弐】 佐吉…これは不知火小僧の予告じゃねえか！

【参】 竹庵…こりや、不知火小僧の予告状じゃないか

驚く一同

宝二郎…え？だって、予告状ならさつき届いてたって…

お豊…若旦那様、読み上げてください！

宝二郎…わかりました…

紙を広げ読みだす宝二郎

宝二郎…暮れ六つを、知らず鐘の音、梅が枝に、不知火灯り、うそひめ鳴かす。…あれ？
お千代…最初の予告状だと松の枝だった所が、梅の枝に変わってます！

宝二郎…それに、鴉じゃなくうそひめ？

お文…うそひめって、ウソの別名よね。ほら、鳥の

お千代…待ってください！という事は…

宝二郎…暮れ六つに清水屋の梅の間に不知火小僧が現れて嘘つきを懲らしめるってことですね！

お豊…梅の間の嘘つきって言ったなら…

みんなが半次を見る　お咲がやってくる

お咲…お客様、足湯の支度ができましたのでどうぞ？

半次が匕首を抜いて、お咲を捕まえる。

お咲…きやあ！！

平太郎…お咲！

半次…本物がくるとあったんじゃあ、仕方ねえや…

源太…てめえ、卑怯だぞ！

半次…うるせえ！おい、松の間の旅鴉、この娘の命が惜しければてめえの持つてる五十両をよこすんだ！

源太…：

源太、お千代に目配せをする。お千代　五十両を懐から出す

半次…そこにおけ！

言われるがままに五十両をおくお千代

半次…おい、お静！

裏口から申しわけ無さそうにお静がやってくる 驚く新吉とお光

お千代…お静さん…

半次…そいつを拾って俺の所に持ってこい。

拾って半次にお金を渡すお静

半次…ふん！刻限にはまだ早いが、ずらかるとするか…不知火小僧の間抜け面が拝めなくて残念だったよ。

お咲を連れて行こうとする半次 お静がすがりつく

お静…待つておくれ！話が違うじゃないか！協力したらお咲には手を出さないって約束しただろ！
だから嘘の予告状だって書いたのに…それじゃああんまりじゃないか！
半次…騙される方が悪いんだよ！いいから離せ！

振り払われるお静

平太郎…お静！
お咲…おつかさん！

裏口付近で震えてる新吉とお光に一喝

半次…どけ！

新・光…ひいひいひい

お千代…待ってください！…人質なら、誰でもいいんでしょう？だったら私になります。

源太…お千代何言ってるんだ！

お千代…お咲さんにはあんなに心配してくれるお父つつあんやお母さんがいる…

それに、私…宝太郎さんに恩返しをしたいの。

宝二郎…いいえ！お千代さんを危ない目にあわせるわけにはいきません！私が人質になります

清水屋の跡取りである私の方が、利用価値があると思いませんか？

お文…何をいうの！だったら私が…

お豊…いいえ！ここは女中頭のこのお豊が！

どうぞどうぞという雰囲気

お豊…なんでよ！！

半次…バカバカしい、茶番はそれくらいにするんだな？

行きかける半次の前に立ちふさがるお静

お静…お咲は大事な娘なんだ！　ここから先は一步たりとも行かせやしないよ！
半次…この女あああ！！

半次切りつける　平太郎がお静をかばって手を切られる

平太郎…！！！！！！

宝二郎…おじさん！

お文…平ちゃん！

お静…お前さん！　あんた…利き手が使えなくなったらどうするんだい！

平太郎…職人にとりゃあ、腕は命だ…だがな、家族より大事なものなんてありやあしねえんだよ！

お咲　隙をついて半次から五十両とって抜け出す

お咲…！！

半次…てめえ！舐めた真似しやがって！！

追いかける半次だが、権蔵とお亀が来て通せんぼになる

権蔵…文ちゃん！！　不知火小僧が清水屋を狙ってるんだって！助けにきたぜ！

お文…権ちゃん！

半次…なんだてめえら！！

権蔵…おめえが不知火小僧だな？覚悟しろい！

お豊…またややこしくなるぞ…

権蔵…男の中の男、浜名湖の権蔵！

お亀…その一の子分、お亀！

権・亀…相手になってやらあ！

決めポーズの二人

お文…権ちゃんかっこいい！！日本一！

権蔵…文ちゃん！

デレデレする権蔵 後ろから切りかかる半次

お亀…親分あぶねえ！

寸でのところで、刀を受け止める権蔵

半次…なかなかやるじゃねえか…

権蔵…不意打ちたあ、桔梗なやつめ！

お亀…卑怯です！

権蔵…俺の目の白いうちは

お亀…黒です！

権蔵…清水屋に足は出させねえ！

お亀…手です！

権蔵…五の六のうるせえんだよおめえは！

お亀…四の五のです！

半次…金をよこさせえか！！

平太郎たちの方へいく半次 割って入る佐吉

佐吉…そうはさせねえ！

半次…くそ！おい娘！こつちへこい！

お千代を捕まえに行く半次 立ちふさがる宝二郎

宝二郎…お千代さんは私が守って見せます！

半次…ふざけやがって！！！！

切りつける半次、中に入る源太

源太…腹くるんだな！？てめえだけは許しやあしねえ！！

殺陣が始まる お亀がへつぴり腰で足をひっぱるが
竹庵が半次に足をひっかけて転ばせたり

お文の鼓舞で張り切る権蔵
どこかコミカルな殺陣
暮れ六つを知らず鐘が鳴る
灯りが消える 暗転

お文…きやああああ！

権蔵…文ちゃん大丈夫だ！俺がついてる！

お豊…行灯の火が消えました！ 暮れ六つの鐘が鳴りました！不知火小僧が現れます！

宝二郎…皆さん！気を付けて！

平太郎…半次はどこだ！

お咲…父ちゃん！

お静…お前さん！！

お亀…いた！誰ですか！足踏んだの！

新吉…お光…やだあああ死にたくないよー！

明転 いつまにか行灯の明かりがつく 半次 なわで縛られ頭には財布が乗っている

【壺】源太、【貳】佐吉、【参】竹庵の姿はない

宝二郎…いつの間！？

お千代…不知火小僧が現れたってこと？

権蔵…ん？なんだこりや、小判が入っているが…全て贋金じゃねえか！近頃、偽の小判で賭場荒らしが増えていたが…てめえがやってたのか！こら！不知火小僧！

周りの人たちが違う違うとジェスチャー

そこに【壱】源太、【貳】佐吉、【参】竹庵がやってくる

【壱のバージョン】

源太…すいやせん！ 尾行の途中で半次の野郎を見失っちまいました…

お豊…え？ どういうことですか？

源太…あちらこちら探し回って、ようやくみつけたと思ったら…料亭に入っって

芸者を呼んでどんちゃん騒ぎをはじめやがった

宝二郎…料亭でどんちゃんさわぎ…

源太…へい、あまりにも遅いんで覗いて見りや、肝心の半次の姿がねえ、芸者衆に話を聞いて見りや

金だけ貰って騒いでてくれって頼まれたんだそうで、いやー、一杯食わされちまいやした

お千代…え、それじゃあ…

源太…暮れ六つになっちまったが、どうにかして半次の行方を…

半次を見つける源太

源太…なんだ！ いるじゃねえか！

みんなの視線が源太に集まる

源太…：…なんですかみんなしてそんなジロジロみて、あつしの顔に何かついてますか？

お文…あのー、懐から出てるそれは？

源太…へ？ あれ、なんだこりや！

源太の懐から、手紙と五十両の包みが出て来る。

源太…まやかしの、不知火消えて、清水屋の、花は実りて、寿ぐ黄金…

一同顔を見合わせる

お豊…不知火小僧だ！！

笑顔の一同、悔しそうな半次、訳の分からない権蔵と源太

暗転

【式のバージョン】

佐吉…やられた！ あとをつけていたんだが途中で半次の野郎を見失っちゃまってな

お豊…え？ どういうことですか？

佐吉…どうもこうもねえよ。巻かれたのかと思って、探していきやあ…料亭に入っっていつて

芸者末社を総揚げでどんちゃん騒ぎをおっぼじめやがったあの野郎

宝二郎…料亭でどんちゃんさわぎ…

佐吉…ああ、あまりにも遅いんで覗いて見りや、肝心の半次の姿がねえ、芸者衆に話を聞いて見りや

金だけ貰って騒いでてくれって頼まれたんだと…いやー、一杯食わされちゃったよ…

お千代…え、それじゃあ…

佐吉…暮れ六つになっちゃったが、どうにかして半次の行方を…

半次を見つける佐吉

佐吉…なんだよ！ いるじゃねえか！

みんなの視線が佐吉に集まる

佐吉……なんだよ、そんなにジロジロみて、俺の顔に何かついてるか？

お文…あのー、懐から出てるそれは？

佐吉…へ？ あれ、なんだこりや！

佐吉の懐から、手紙と五十両の包みが出て来る。

佐吉…まやかしの、不知火消えて、清水屋の、花は実りて、寿ぐ黄金…

一同顔を見合わせる

お豊…不知火小僧だ！！

笑顔の一同、悔しそうな半次、訳の分からない権蔵と佐吉

暗転

【参バージョン】

竹庵…やられたわい！ 偽物にすっかり騙されてしもうた

お豊…え？ どういうことです？

竹庵…どうもこうもありやせん。ちよつと綺麗なお姉ちゃんに見とれてるすきに、あやつめ料亭に入って行って芸者

末社を総揚げでどんちゃん騒ぎをはじめよつた！

宝二郎…料亭でどんちゃんさわぎ…

竹庵…そうじゃ、あまりにも遅いんで覗いて見りや、肝心の半次の姿はどこへやら、芸者衆に話を聞いて見りや

金だけ貰つて騒いでてくれって頼まれたんじやと…いやー、売れっ子芸者の雛菊さんキレイじゃつたなあ

お千代…え、それじゃあ…

竹庵…おつといかんいかん、暮れ六つになつてしもうたからな、何とかして半次の行方を…

半次を見つける竹庵

竹庵…なんじゃ！ おるじゃないかここに！

みんなの視線が竹庵に集まる

竹庵……ん？ どうした？ そんなにジロジロみて…

お文…あのー、懐から出てるそれは？

竹庵…へ？ ありや、なんじゃこりや！

竹庵の懐から、手紙と五十兩の包みが出て来る。

竹庵…まやかしの、不知火消えて、清水屋の、花は実りて、寿ぐ黄金…

一同顔を見合わせる

お豊…不知火小僧だ！！

笑顔の一同、悔しそうな半次、訳の分からない権蔵と竹庵

暗転

エンディング【い】妹をお願いしますEND 源太

登場人物

お豊・源太・お千代・宝二郎・新吉・お光

清水屋店先 お豊が板付きで源太の草鞋を抱きしめてる

源太…あれー？おかしいなあ？ここに置いておいたはずなんだが…

源太 上手前から入り

源太…あ！お豊さん、あつしの草鞋返しておくんないよ

お豊…だって、だって…これを返してしまったら源太さん、行ってしまわないでしょ？

源太…へい、お世話になりやした。

お豊… 一目見た時から、私はあなたに心を奪われていました。お願いです！

あたしも一緒に連れて行ってください！

源太… お豊さん… 申し訳ねえがそいつは、かぶりを縦に振ることはできやしねえ…

清水屋さんにとって、おめえさんはなくてはならない存在だ。

それに、おめえさんは堅気、俺は渡世人だ。住む世界が違うんです、

どうかあきらめてやっておくんない。

お豊… ううううううう！！！！

泣き崩れるお豊 奥で聞いていたお千代と宝二郎

草鞋をはく源太

宝二郎… あの、お千代さん…！！

お千代…若旦那様…

二人見つめあうが何も言い出せない宝二郎

新吉…お世話になりました！

新吉とお光がやってくる

お豊…ご出立ですか？

新吉…はい、江戸に戻ろうと思います！

お豊…昨夜は騒ぎに巻き込んでしまい、申し訳ありませんでした。

お光…いえ、貴重な体験ができました。ね、新吉さん

新吉…ああ、殺されるかもしれないと思ったら、猛烈に死にたくないって思えてきて…

不思議ですよ、心中するためにここまでやってきたっていうのに

お豊.. そうなんです.. 心中.. 心中! ? やっぱり何か怪しいと思ってたんですよ!

お千代たちのそばに駆け寄る新吉お光

新吉.. あなた方のお互いを思う心、感動しました!!

お光.. 命がけで相手を思う強さ.. 私たちに足りないものがわかりました。

新吉.. 身分や育ちなんて、関係ない、今まで生きてきた世界が違ってたって

そんなことはどうでもいいんだ。だって、こんなに好きなんだから..!

お光.. もう一度、お父つつあんにお願いしてみようと思います。

新吉さんと一緒にさせてくれって.. ね?

新吉.. ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ...生きていれば、何度だって

やり直せる...

お光.. これはほんのお礼です。

お光、包みをお豊に渡す

お豊.. ありがとうございます。

新吉.. 本当にありがとうございます。さあ、おみっちゃん、おいらと一緒に

行こうじゃねえか

お光.. ええ。

仲睦まじく出ていく二人

お豊…お幸せにー…あらやだ、五両も入ってるじゃない！ お千代さんの持ってきた五十両に

不知火小僧がくれた五十両、そして、この五両…昨夜一晩でこんな大金が…

はあ…清水一泊百五両だわね

宝二郎…源太さん！ 私はお千代さんが好きです！意気地のない、気の弱い気性の私ですが

お千代さんと一緒にいたら強くなれる気がするんです！…必ず幸せにします。

どうか、一緒にさせてください！

お千代…私も！若旦那様のそばにいと暖かい気持ちになれるの…このまま離れるなんて嫌

ずとずっと一緒にいたいわ。でも、私が残ったら兄さん一人になってしまう…

源太……かわいい妹のためだ、兄ちゃんのことなんて気にするな。まあ、ずっと

兄妹二人で旅をしてきたんだ。寂しくないと言ったらウソにならあな。

お豊…だったらあたしが一緒に…

源太…お断りします

お豊…そんなあああ!!!!

泣き崩れるお豊

源太…若旦那…妹をお願いします。

宝二郎…任せてください。

源太…お千代。今まで散々苦勞してきたんだ…必ず幸せになるんだぞ。

お千代…うん!

源太…兄ちゃんとの約束だ…

お千代…兄さん…

二人指切りをする　鈴の音が聞こえる。

源太…なんだ？

宝二郎…お父つつあんだ！　枕元に鳴らせるように鈴を置いてあるんです！

お豊…目が覚めたんですね！

宝二郎…私、ちよつと行つてきます！

奥へ行く宝二郎。

源太…おめえもいつてきな。

お千代…ええ、宝太郎さんに紹介したいから兄さんも早くきてね

源太…ああ

お千代…先にいつてるから、早くきてちようだいね

奥へ行くお千代。

源太…それじゃあ、ごめんなすって

お豊…このまま行ってしまうんですか？

源太…湿っぽいのはどうにも苦手です…それに、不知火小僧はまだ遠くには

行つてねえはずだ。あのくそ親父、俺に化けるとはやってくれぬぜ

お豊…親父？

源太…いえ、何でもござんせん。待つてろよ不知火小僧、この疾風の源太、

てめえがどこにいようたつて必ず見つけ出してやらあ…俺が行くのを(木)待つてろよ

お豊見送り 暗転

エンディング【ろ】ろくでなしな父ちゃん頼んだよEND 佐吉

登場人物

お亀・佐吉・平太郎・お静・お咲・新吉・お光

清水屋店先 お亀が板付きで掃除をしてる

佐吉..邪魔するぜ

佐吉がやってくる

お亀..いらつしやいませ..あ!

佐吉..お、なんだ、おめえ清水屋に戻ったんだな。そのほうがおめえには合ってるよ

お亀..本当に佐吉の親方ですか？

佐吉..当たり前前だろ！

お亀..捜査は？

佐吉..足だ！

お亀..怪しいと思ったら？

佐吉..しょっぴけ！

お亀..いくぞ？

二人..あの夕日に向かって！

顔を見合わせて笑う二人

お亀..間違いねえ、本物の佐吉の親方だ！その暑苦しさは不知火小僧でも真似できませんね

佐吉..暑苦しいは余計だよ！ 大体なあ、俺は十手持ちなんだぜ？そう簡単に

不知火小僧の畏になんて…

お亀..まんまとハマってましたよ？

佐吉..…くそ、一生の不覚だ！

新吉..お世話になりました！

新吉とお光がやってくる

お亀..ご出立ですか？

新吉..はい、江戸に戻ろうと思います！

お亀..昨夜は騒ぎに巻き込んでしまい、申し訳ありませんでした。

お光..いえ、貴重な体験ができました。ね、新吉さん

新吉.. ああ、殺されるかもしれないと思ったら、猛烈に死にたくないって思えてきて…

不思議ですよ、心中するためにここまでやってきたっていうのに

お亀.. はあ？心中！？…また最後にとんでもねえネタぶっこんできましたね…

お静.. ごめんくださいーい

やってくる平太郎親子

お亀.. あ、いらっしやい

新吉.. あなた方の親子の情愛、感動しました！！

お光.. 親子の絆って本当に素晴らしいです！私も親子の絆を信じてもう一度、

お父つつあんにお願いしてみようと思います。

新吉さんと一緒にさせてくれって…ね？

新吉.. ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ...生きていけば、何度だって

やり直せる...

お光.. これはほんのお礼です。

お光、包みをお亀に渡す

お亀.. ありがとうございます

新吉.. 本当にありがとうございます。さあ、おみっちゃん、おいらと一緒に

行こうじゃねえか

お光.. ええ。

仲睦まじく出ていく二人

平太郎…なんだったんだ？一体…

お亀…ありゃ！あのお客さん五両もくれましたよ

お咲…そんな大金を！？

お亀…いやーこれで百五両か…さしづめ、清水一泊百五両ってところでしょか？

佐吉…どういうこった？

お亀…お千代さんの返しにきた五十両と

お静…不知火小僧の返しにきた五十両がありますから。今の五両と合わせて百五両です。

お咲…やっぱり世間の噂通り、不知火小僧は困ってる人を助ける義賊だったんだね

平太郎…ああ、俺は偽物の口車にまんまと乗せられてたつてわけか…つくづく情けねえよ

佐吉…目明しの俺がいうことじゃねえが、本物の不知火小僧に感謝するんだな

もしも、本当に贋金なんて作った日にゃあ、今頃おめえさんもお縄になってたはずだ

平太郎…：へい、まあ、あつしだったら本物と見分けがつかないほどの、精巧な小判を

作れますけどね？

お咲・お静…調子にのるんじゃない！

平太郎…へへへ

佐吉…息ぴったりの親子だな

お静…お前さん、もう二度と博打はやめておくれよ？

平太郎…ああ。わかってるよ

お咲…約束だからね？

親子三人ゆびきりをする 鈴の音が鳴る

佐吉…なんだ？何の音だ？

お亀…旦那様だ！ 枕元に鳴らせるように鈴を置いてあるんです！旦那様の目が覚めたんです

私、ちよつといつてきます！ 女将さーんー！女将さーんー！！

奥へ行くお亀

お静…ほら、お前さんも行っておいでよ。意地はつてないで、たった二人きりの兄弟なんだろ？

平太郎…：ああ、すまねえ！…：兄貴！！

奥へ行く平太郎

佐吉…良かったなあ、本当に良かった…：宝太郎さんの無事がわかれば俺も一安心だよ。

お静…ええ、親方…いろいろとありがとうございました。

佐吉…なあに、また困った事があつたらいつでも頼ってくんなよ。

お静..はい、ありがとうございます。

お咲..あの、おつかさん。ごめん..やっぱりあたし、清水屋に残る事にするよ。

まだまだこれから大変だろうし、力になりたいんだ..

お静..そう、お前が決めた事なんだからおつかさんは止めやしないよ。

まあ、父ちゃんは寂しがるかもしれないけどね

お咲..:これから親子三人で暮らしていこうと思ったのに、我儘いって本当にごめん

佐吉..いいのかい？お静さん、やっと和解できたってのに、このままお咲ちゃんと離れちゃって

お静..いいんですよ。離れていたって、親子は親子だ、うちの人にとって可愛い娘なら

あたしにとっても大事な娘、親子の絆は、そう簡単には切れやしない。そうだろ？

お咲..おつかさん..

お静.. 何しよぼくれた顔してんだい！あんた、清水屋さんの女中なんだろう？

もつと笑顔で元気よくなきゃ、追い出されちまうよ？

お咲.. うん！あたしががんばるよ！ 父ちゃんのこと、お願いね

お静.. まかせときな！

佐吉.. 不知火小僧の予告通りだ、ここにもまた、親子の花が実ったようだ..

佐吉 舞台奥を眺めながら

佐吉.. みてみる、お静さん、お咲ちゃん、清水は今日も日本晴れだぜ！（木）

後ろ姿の三人

徐々に暗転（二の木なしの刻み）

エンディング【は】吐いたため息は吸い込むEND 竹庵

登場人物

お文・権蔵・竹庵・新吉・お光

お文板付き 権蔵がやってくる

権蔵..邪魔するぜ

お文..あ、権ちゃんいらっしやい。そうよね、みかじめ料..

権蔵..いいんだ、元々金が欲しかったわけじゃねえ..今日は折り入って、

文ちゃんに大切な話があつてな..

お文..大切な話？

権蔵.. 文ちゃん、俺はな...ずるい男なんだ...宝太郎が怪我して、宝二郎だけだと

商売もうまくいかねえだろうと、わざとみかじめ料をせかしたりして...そうしたら、

文ちゃんが俺を頼ってくれるような気がしてよう...

お文.. 権ちゃんは昔からずーっと、一番に駆けつけてくれた大切な幼馴染よ。

本当にありがとう、私にとって日本一かつこい親分さんだわ

権蔵.. 文ちゃん...あのさ!オレな、えっとずっと前から、その、えっと...

しどろもどろの権蔵

そこへ、新吉とお光がやってくる

お文.. あら、ご出立ですか?

新吉..はい！江戸にもどろうと思います！

お文..昨晩は騒ぎに巻き込んでしまつて、申し訳ありませんでした。

お光..いえ！貴重な体験ができました、ね、新吉さん

新吉..殺されるかもしれないと思つたら、猛烈に死にたくないと思えてきて...不思議ですよね

心中するためにここまでやつてきたつていうのに

お文..え！そうなんですか、あら、まあ...それはそれは

お光..改めて思いました、生きているつて素晴らしい事なんだつて

竹庵がやつてくる

竹庵..そうじゃぞ、死んで花実が咲くならば寺や墓処は花盛りじゃ

権蔵..竹庵先生！？おめえ本物だろうな！？

竹庵..なんじゃ、わしを疑つとるのか？ほれ、桃栗三年柿八年♪はいすーいすいとな！

どうじゃ、短縮版じゃが、この踊りのキレはわしじやろが

踊り出す竹庵 一同笑う

お光..私、もう一度、お父つつあんをお願いしてみようと思います！

新吉さんと一緒にさせてくれって、ね？

新吉..ああ、ダメだと言われても、何度も何度も頼めばいいんだ、生きていれば何度だって

やり直せる！

お光..これはほんのお礼です！

お光、お文に包みを渡す。

新吉…本当にありがとうございます、さあ、おみっちゃんおいらと一緒にいこうじゃねえか！

仲睦まじく去っていく新吉とお光

お文…まあ、五両も！こんなに頂けません！お客様！

竹庵…とっておきなさい、命を拾ったと思えば安いもんじゃ。

お文…

新吉たちの去った方へ頭を下げるお文

竹庵…それにしても、お千代さんのもってきた五十両に、不知火小僧の五十両、そして

その五両で、いくなれば清水一泊百五両じゃな。

権蔵…文ちゃん、これでやり直せるな

お文…：私ね、約束したの。何があっても、変わらず笑顔で待ってるって、

元気になるまで、大好きな大福も我慢するからねって…でも、時々怖くてたまらない、
もしもこのまま宝ちゃんの目が覚めなかったら…

顔を覆うお文

権蔵…文ちゃん…

権蔵が肩に手をかけようとしたら、鈴の音が鳴る

お文…今、鈴の音がしなかった？

鈴の音

お文.. やっぱり！宝ちゃんの枕もとに鈴を置いておいたの！目が覚めたらすぐに呼べるように…

宝ちゃんの目が覚めたんだわ！宝ちゃん！

行きかけるお文

権蔵.. 文ちゃん！！

振り向くお文

権蔵.. :よかったな！ 今度粒あんの大福買って来るよ。

嬉しそうに頷いて奥へ行くお文

権蔵.. 先生は行かなくていいのか？

竹庵..野暮をいうんじゃないよ、せつかくの夫婦水入らずじゃ...もうちよつとしてからな。

権蔵..竹庵先生よお、うまくいかねえもんだなあ

大きくため息をつく権蔵

竹庵..ため息をつくときと幸せが逃げるぞ

権蔵..そんな事言たつてよお

竹庵..人生いろいろ、長く生きてりや様々な出会いもあるじやろ。

そのうちきつといい女に巡り合えるよ。

権蔵..そのうちつていつだよ。

竹庵..焦っちゃいかん、何事も長い年月がかかるもんなんじやて、桃栗三年柿八年...

権蔵..もういいってそれは

ため息をついて、そのあとに息を吸い込む権蔵

竹庵..吐いたため息を吸い込んだな

権蔵..ああ、いつくるかわからねえ幸せを逃がさないようにな。

でも、息を吸ったり吐いたりなんて考えて見りや当たり前の事じゃねえのか？

竹庵..当たり前前に、生きる為にすることじゃ、生きていれば幸せは巡ってくる

うまくいかん事も、嫌な事も、腹立つ事もあるじやろう。でも、それが人生なんじゃ

権蔵..そうだな、そうかもしれねえ...まあ、いいさ。宝太郎も気が付いたんだ。

文ちゃんが幸せならそれでいいや、めでてえことに変わりはないからな。

竹庵..そうじゃ、よし、めでたいついでに三本締めじゃ！

権蔵..俺達だけですかよ

竹庵..かまわんかまわん、いくぞ?よーお

三本締め 袖で全員でする

笑い合う権蔵と竹庵

音楽もりあがり

暗転

エンディング【に】二代目飾り職人END 源太

登場人物

宝二郎・平太郎・お静・お咲・新吉・お光

宝二郎板付き

平太郎一家がやってくる

宝二郎…いらっしやいませ…あ、平太郎おじさん！手の怪我は大丈夫ですか？

平太郎…ああ、大丈夫だ。ちよつとやそつと、手が動かなくなつたつてこの俺くらいになりやあ

仕事に支障はありやあしねえよ

お静…竹庵先生に言われたんだから、その包帯勝手にとるんじゃないよ？

平太郎…わかつてるよ。そういやあ、源太さん兄妹は？

宝二郎…もう旅に立たれてしまいました。不知火小僧を追いかけるんだと…

お咲…そんな、お千代ちゃんも行ってしまったんですか？

宝二郎…ええ、お二人のお父つつあんなんだそうです。不知火小僧は。

源太さんに化けたのは、何かきつと思惑のあつてのことだろうと朝早くに

ご出立されました。

平太郎…そうだったのかい…無事に、お父つつあんに会えりやあいけどなあ

お静…きつと会えますよ、お文さんも言っていましたから、そう思えばそうだって

お咲…若旦那様、待っててあげてくださいね。お千代ちゃんのこと

宝二郎…え？

お咲…大福を食べながら、お千代ちゃんといろんな話をしたんです。お父つつあんのこと

源太さんのこと、それに、若旦那様にもらった簪のことも…

お静…あら、簪って…若旦那様が？

宝二郎…はい、その…叔父さんの見様見真似で…

平太郎…なんだ、じゃあ宝二郎おめえは、お千代さんに惚れてるってことか？

宝二郎…いやその、何というか…

平太郎…隠すな隠すな、男がてめえの手で作り上げた大事なもんを渡すってことは

そういうことだろ？

宝二郎……そう、ですな。

恥ずかしそうにしているお静を不思議そうに見るお咲

そこへ、新吉とお光がやってくる

宝二郎…あ、ご出立ですか？

新吉…はい！江戸にもどろうと思います！

宝二郎…昨晩は騒ぎに巻き込んでしまって、申し訳ありませんでした。

お光…いえ！貴重な体験ができました、ね、新吉さん

新吉…殺されるかもしれないと思ったら、猛烈に死にたくないと考えてきて…不思議ですよ

心中するためにここまでやってきたっていうのに

宝二郎…心中！？それはまた物騒な…

平太郎たちに気が付きかけよる新吉たち

新吉..あなた方の親子の情愛、感動しました!!

お光..親子の絆って本当に素晴らしいです!私も親子の絆を信じてもう一度、

お父つつあんにお願いしてみようと思います。新吉さんと一緒にさせてくれって...ね?

新吉..ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ...生きていれば、何度だって

やり直せる...

お光..これはほんのお礼です。

お光、包みを宝二郎に渡す

宝二郎..ありがとうございます

新吉..本当にありがとうございます。さあ、おみっちゃん、おいらと一緒に行くこうじゃねえか

お光..ええ。

仲睦まじく出ていく二人

宝二郎…これは…五両も入ってます！お待ちください、お客様！

平太郎…いいじゃねえか、とっとけよ

宝二郎…でも…

お咲…いいんですよ、だってあの二人の命を救えたんですから。ね？

お静…それにしたって、お千代さんのもってきた五十両に、不知火小僧のくれた五十両。

そしてこの五両で、清水一泊百五両ですな。

宝二郎…これで清水屋も安泰です。いつでもお千代さんを迎え入れることができます。

…約束、しましたから

鈴の音がする

平太郎…何の音だ？

宝二郎…お父つつあんだ！ 枕元に鳴らせるように鈴を置いてあるんです！

お静…じゃあ、宝太郎さんの目が覚めたんですね！

宝二郎…はい！すみません！お咲さん、甘味屋までおつかさんを呼びにいつてもらえませんか？

お静…いえ、あたしがいきます！ お文さんとは友達ですから！

宝二郎…お願いします！ お父つつあん！

お静…任せてください！お文さん！

宝二郎とお文はける

お咲…ねえ父ちゃん、あたしは清水屋の女中を続けようと思ったけど、

やっぱりやめることにしたよ。あたしは父ちゃんの跡を継いで二代目飾り職人になる！

平太郎…何いってんだ！そんなことできるわけねえだろ…

お咲…あたし、父ちゃんの作る飾りや簪が大好きなんだ。小さい頃からずっと見て来たんだもん

あたしになら出来る、ううん、あたしにしかできない、二代目を継がしてちょうだい

平太郎……お咲おめえ わかった、ありがとうな。父ちゃん嬉しいよ

お咲…ほら、あたしも覚悟決めたんだ！父ちゃんも仲直りがんばって！

平太郎…ああ…

平太郎 緊張して、深呼吸する

平太郎…兄貴！（木）

駆けこむように奥へ 草履はいたまま

お咲…父ちゃん！履物！履物！！

追いかけるようにお咲も奥へ 二の木 暗転

エンディング【ほ】惚れたお方についていきますEND 佐吉

登場人物

お豊・源太・佐吉・新吉・新吉・お光

清水屋店先 佐吉がやってくる

佐吉：ごめんよ、邪魔するぜ！

お豊 奥から走って来て草鞋を佐吉に渡す

お豊：ちよつとこれ持ってきてください！！

佐吉：はあ？何だよこれ…

源太…あれー？おかしいなあ？ここに置いておいたはずなんだが…

源太 上手前から入り

源太…あ！お豊さん、あつしの草鞋知りませんか？

お豊…さあ？ 知りませんよ

源太…えー。どこ行っちゃまったんだ？あれ、佐吉の親方

佐吉…よう、昨日はお互い大変だったな

源太……本物か？それとも…

佐吉…おいおい、そんな怖い顔で睨むんじゃねえよ。昨日は不覚だったが、正真正銘

俺は十手持ちの佐吉だよ

源太…大泥棒不知火小僧じゃねえってなら、その手に持つてる草鞋はなんでい

佐吉…へ？そりゃあ、お豊さんが

佐吉、源太に草鞋を渡す

お豊…だって、だって…これを返してしまつたら源太さん、行ってしまうんでしょ？

源太…へい、お世話になりやした。

お豊…一目見た時から、私はあなたに心を奪われていました。お願いです！

あたしも一緒に連れて行つてください！

源太…お豊さん…申し訳ねえがそいつは、かぶりを縦に振ることはできやしねえ…

清水屋さんにとって、おめえさんはなくてはならない存在だ。

それに、おめえさんは堅気、俺は渡世人だ。住む世界が違ふんです、

どうかあきらめてやつておくんない。

佐吉…お豊さん、困らせるもんじゃねえ…身をひくのも女つてもんだぜ
お豊…うう…うううう、いやです！ あたし絶対あきらめませんから！

顔を見合わす源太と佐吉 お千代と宝二郎入り

草鞋をはく源太

宝二郎…あの、お千代さん…！

お千代…若旦那様…

二人見つめあうが何も言い出せない宝二郎

新吉…お世話になりました！

新吉とお光がやってくる

お豊…ご出立ですか？

新吉…はい、江戸に戻ろうと思います！

お豊…昨夜は騒ぎに巻き込んでしまい、申し訳ありませんでした。

お光…いえ、貴重な体験ができました。ね、新吉さん

新吉…ああ、殺されるかもしれないと思ったら、猛烈に死にたくないって思えてきて…

不思議ですよね、心中するためにここまでやってきたっていうのに

お豊…そうなんです…心中…心中…？やっぱり何か怪しいと思ってたんですよ！

お千代たちのそばに駆け寄る新吉お光

新吉..あなた方のお互いを思う心、感動しました!!

お光..命がけで相手を思う強さ..私たちに足りないものがわかりました。

新吉..身分や育ちなんて、関係ない、今まで生きてきた世界が違ってたって

そんなことはどうでもいいんだ。だって、こんなに好きなんだから..!

お光..もう一度、お父つつあんにお願いしてみようと思います。

新吉さんと一緒にさせてくれって..ね?

新吉..ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ..生きていけば、何度だって

やり直せる..

お光..これはほんのお礼です。

お光、包みをお豊に渡す

お豊…ありがとうございます。

新吉…本当にありがとうございます。さあ、おみっちゃん、おいらと一緒に行くじゃねえか
お光…ええ。

仲睦まじく出ていく二人

お豊…お幸せに…あらやだ、五両も入ってるじゃない！ お千代さんの持ってきた五十両に

不知火小僧がくれた五十両、そして、この五両…昨夜一晩でこんな大金が…

佐吉…清水一泊百五両だな？

宝二郎…源太さん！ 私はお千代さんが好きです！意気地のない、気の弱い気性の私ですが

お千代さんと一緒にいたら強くなれる気がするんです！…必ず幸せにします。

どうか、一緒にさせてください！

お千代…私も！若旦那様のそばにいと暖かい気持ちになれるの…このまま離れるなんて嫌

ずとずっと一緒にいたいわ。

お豊…いやいやいやいや、それはどうなんでしょうかねえ

宝二郎…お豊さん！

お豊…お千代さんは渡世人の妹、若旦那は堅気、住む世界が違うんです。

一緒になんてなれるわけありません。

佐吉…おいおい…お豊さん、そいつはあまりにも八つ当たりつてもんじゃ…

お豊…親方は黙っててください！

お千代…そんな…私、若旦那様と一緒になれないくらいなら、死んだ方がはるかに

ましよ！

宝二郎…私だって…諦める事なんてできません！

源太…ちよつと待つてくれよ！何もダメだなんて言つてねえだろ！

お千代…え、それじゃあ…

源太…若旦那、お千代の事よろしくお願いいたします。

宝二郎…任せてください。

佐吉…源太さん、たった一人の妹だ。それでいいのかい？

源太……へい、かわいい妹の幸せのためだ、お千代が幸せならそれでかまいやせん。

ただ、兄妹二人で旅をしてきたんだ。寂しくないと言つたらウソにならあな。

お豊…だつたらあたしが一緒にいます！

源太……つたく、仕方ねえな。それじゃあ、ついてきてくれますか？

お豊…はい！どこまでもついていきます！

源太…お千代。今まで散々苦勞してきたんだ…必ず幸せになるんだぞ。

お千代…うん！

源太…兄ちゃんとの約束だ…

お千代…兄さん…

二人指切りをする。

鈴の音が聞こえる。

源太…なんだ？

宝二郎…お父つつあんだ！ 枕元に鳴らせるように鈴を置いてあるんです！

お豊…目が覚めたんですね！

宝二郎…私、ちよつと行ってきます！

お豊…私も！お暇を頂かなくてははいけませんから！

奥へ行く宝二郎とお豊。

源太…おめえもいつてきな。

お千代…ええ、宝太郎さんに紹介したいから兄さんも早くきてね

源太…ああ

お千代…先にいつてるから、早くきてちょうだいね

奥へ行くお千代。

源太…それじゃあ、ごめんなすつて

佐吉…このまま行っちゃうのかい？

源太…湿っぽいのはどうにも苦手です…それに、不知火小僧はまだ遠くには

行ってねえはずだ。あのくそ親父、とっつかまえてやらねえと

佐吉…やっぱりな、俺の睨んだ通りだ。おめえさん方が子供だったとはな

源太…へい。…親方、あとの事はお願いいたしやす!

源太 はけ

お豊…源太さん!源太さーん、支度出来ました!

お豊入り

お豊…あれ? 源太さん?源太さーん? 佐吉の親方、源太さ…うちの人知りませんか?

佐吉…不知火小僧を捕まえるために急ぐんだとさ

お豊.. 何ですかそれ！そんなの、そこらへん暑苦しいの目明しに任せとけばいいのに！

佐吉.. おいおい、それはオレのことかい？

お豊.. 源太さん、あたしはお前さんに心底惚れちまつてるんだ、こうと決めたら女中頭の

このお豊、そう簡単に諦められません！蛇が睨んだアマガエルめつたに逃がしやあ【木】
しませんからね！

お豊 でていく、佐吉見送り

エンディング【へ】平太郎はへそ曲がりEND 竹庵

登場人物

お亀・平太郎・静・お咲・竹庵・新吉・お光

板付きのお亀

平太郎一家がやってくる

お咲..あ、お亀さん！ 清水屋に戻る事にしたんですね。

お亀..いろいろと職は変えてみましたが、旅籠つてのが一番、いろいろなお客さんも

くるし、ひとまずは古巣に戻ろうかと...

平太郎..なんだ、それじゃあ人手が足りてるんだから残らなくてもいいじゃねえか

お静…お前さんったら

お亀…どういうことです？

お咲…あたし、本当は父ちゃんたちと帰ろうと思ったんですけど、やっぱりいろいろ

心配だし、仕事もたくさん覚えたいから清水屋に残ろうかと思って

お亀…そうなんですかい？いやあ、お咲ちゃんがいりゃあ、千人力でさあ！

あ、あたしは出戻りなんで…また下つ端になりやした、先輩！いろいろ教えてくださいね

平太郎…お咲ー本当に一緒に帰らねえのか？

お咲…うん！あたし頑固だもん、父ちゃんに似て

お静…いいじゃないの、応援してあげようよお前さん

そこへ、新吉とお光がやってくる

お亀：ご出立ですか？

新吉：はい！江戸にもどろうと思います！

お亀：昨晩は騒ぎに巻き込んでしまつて、申し訳ありませんでした。

お光：いえ！貴重な体験ができました、ね、新吉さん

新吉：殺されるかもしれないと思つたら、猛烈に死にたくないと思えてきて…不思議ですよ

心中するためにここまでやってきたっていうのに

お亀：はあ！？心中！？…最後にまたとんでもねえネタぶっこんできましたね

平太郎たちのところへ行つて

新吉：あなた方の親子の情愛、感動しました！！

お光..親子の絆って本当に素晴らしいです！私も親子の絆を信じてもう一度、

お父つつあんにお願ひしてみようと思います。

新吉さんと一緒にさせてくれって…ね？

新吉..ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ…生きていれば、何度だって

やり直せる

お光..改めて思いました、生きているって素晴らしい事なんだって

竹庵がやってくる

竹庵..そうじゃぞ、死んで花実が咲くならば寺や墓処は花盛りじゃ

平太郎..竹庵先生！？おめえ本物か！？

竹庵…なんじゃ、わしを疑つとるのか？ほれ、桃栗三年柿八年♪はいすーいすいとな！

どうじゃ、短縮版じゃが、この踊りのキレはわしじやろが

踊り出す竹庵 一同笑う

お光…これはほんのお礼です！

お光、お亀に包みを渡す。

新吉…本当にありがとうございます、さあ、おみっちゃんおいらと一緒にいこうじゃねえか！

仲睦まじく去っていく新吉とお光

お亀…え！ 五両も入ってますけど…

お咲…そんなに!?

お静…昨夜でたくさんのお金がこの清水屋にきたんですね

竹庵…ああ、お千代さんのもってきた五十両に、不知火小僧の五十両、そして

その五両で、いくなれば清水一泊百五両じゃな。

平太郎…：贖金なんて作らねえで、本当によかったよ

竹庵…そうじゃぞ、もしもあの時にお前が贖金なんぞ作っておったら、今頃、お縄や

島流しじゃすまんかもしれん…

お亀…ほんと、不知火小僧に感謝ですよね!

お静…お前さん、一度は途切れた縁が今やつとつながりかけているんだ、お兄さんの

目が覚めたら、仲直りしておくれよ?

平太郎…：でもよう、二十年だぜ? 今更どんな顔して会えばいいか…

お亀…何いつてるんですか！二十年だろうが、五十年だろうが、親子は親子、兄弟は兄妹でしょ

旦那様はいつだって、平太郎さんのことを気にかけていましたよ？

平太郎…：兄貴が…

お咲…そうだよ、そうじゃなきゃ、いいなり地蔵に大金をもっていったりしないはずだもん

竹庵…平太郎や、宝太郎はな どれだけお前からの手紙を喜んでおったか…それに

あいつ自身も、お前に会うことを不安に想っておったんじゃないぞ、いいか？

もうけんかはするんじゃないぞ？

平太郎…ああ…

竹庵…ほれ、約束じゃ

指切りをする竹庵と平太郎

鈴の音が鳴る

お咲…この鈴の音…

鈴の音

お亀…旦那様です！枕元に鈴が置いてあつて、目が覚めたらすぐにならせるように

してあるんです！

竹庵…それじゃあ、宝太郎の目が覚めたんじやな！

お亀…私、いつてきます！女将さーん！お豊さーん！若旦那さまー！！

お咲…よかつた、旦那様の目が覚めて…

はけるお亀

竹庵…どれわしらもいくかのう…

平太郎…竹庵先生！…俺、あの頃と何も変わってねえ…兄貴に勝てねえって、ふてくされて

悪態ついて…でもよう、本当は早く兄貴と昔のようになりたかったんだ…

寄り添うお静

平太郎…お静…

お静…いっておいでよ、たった二人きりの兄弟なんだ。

お咲…大丈夫だよ、父ちゃん、きつとうまくいく！

竹庵…平太郎や、お前の作る簪や飾りは立派じゃ、人は年月がたてば、成長する

草花のようにな、ほれ、桃栗三年柿八年♪

平太郎…ああ… 兄貴！！！！

平太郎 奥へ行く

お咲..父ちゃん、走ったら転ぶよ！

竹庵..なあに、転んでけがをしたその時は、わしが手当てをしてやるわい

二十年ぶりの再会じゃ、わだかまりは全て、清水の海へと(木)

捨ててしまえ

お静..竹庵先生、本当にありがとうございました。

竹庵..ほれ、わしらも行くかうか？

お咲..はい！

三人 奥へ行く 徐々に暗転

エンディング【と】ときめきの忘れ物 END 源太

登場人物

お文・宝二郎・お千代・源太・新吉・お光

板付きのお文

奥から宝二郎がやってくる

宝二郎：お客様は？

お文：まだどなたもご出立されてないわよ。

宝二郎：そうかい…おつかさん、私も店先にいるよ

お文：あらそう？

宝二郎…：ねえおつかさん、私はお父つつあんにも、おつかさんにも似てないのは

どうしてだろう？

お文…：どういうこと？

宝二郎…お父つつあんみたいに、商売もうまくなければ、人を惹きつける魅力もない

おつかさんみたいに、明るく前向きな人にもなれない…

お文…宝二郎、何言ってるの。あなたは宝ちゃんにそっくりよ？ 優しくて、暖かくて

それに、一途なところは私にそっくり。きつと、お千代さんにだって

想いは伝わるはずだわ

宝二郎…：そうかなあ…お千代さんに、って、え？あの、おつかさん知ってたのかい！？

お文…：当たり前でしょ、母親の勘ってやつかしら？ それに、恋のときめきって

すぐくキラキラしてるから、誰が誰を好きなのか、すぐにわかつちやうのよ

宝二郎… そうなのかい？ …じゃあなんで権蔵親分さんは報われなかったんだ

お文… 権ちゃんがどうかした？

ごまかそうとする宝二郎そこへ、新吉とお光がやってくる

お文… ご出立ですか？

新吉… はい！江戸にもどろうと思います！

宝二郎… 昨夜は騒ぎに巻き込んでしまい、申し訳ありませんでした。

お光… いえ、貴重な体験ができました。ね、新吉さん

新吉… ああ、殺されるかもしれないと思ったら、猛烈に死にたくないって思えてきて…

不思議ですよね、心中するためにここまでやってきたっていうのに

お文… 心中！？まあ、そうだったんですね…

源太とお千代がやってくる

新吉..あなた方兄妹の絆、感動しました!!

お光..そして、若旦那様の身を挺してかばう姿..とても愛を感じました!

新吉..生きて来た世界が違っても思いは通じ合うんですね!

お光..私、もう一度、お父つつあんにお願いしてみようと思います。

新吉さんと一緒にさせてくれって..ね?

新吉..ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ..生きていれば、何度だって

やり直せる..

お光..これはほんのお礼です。

お光、包みをお文に渡す

新吉…本当にありがとうございます。さあ、おみっちゃん、おいらと一緒に

行こうじゃねえか

お光…ええ。

仲睦まじく出ていく二人

宝二郎…これ、五両も入ってるよ！

お文…多すぎます！お客様！

源太…いいじゃありませんか、清水屋に泊まった事であの二人には希望が見えたんだ

お文…希望…そうですね、それにお千代さんが持って来てくれた五十両に、不知火小僧がくれた

五十両、そしてこの五両で、一晩でこんなに大金がうちの店に集まったなんて…

源太…へい。清水一泊百五両でござんすね。

宝二郎…あの！本当にもう、行かれるんですか？

源太…へい、若旦那、女将さんお世話になりやした。

お千代…：

源太…それじゃあ、ごめんなすつて。ほら、お千代いくぞ！

歩き出す源太、動かないお千代

お千代…兄さん、私…一緒に旅にたつことはできないわ

源太…お千代…

お千代…清水屋に忘れ物があるの、初めて見つけた、とつても大事なものの…

暖かくて、全てを包み込んでくれるような…こんな気持ち初めてなのよ

このまま、お父つつあんを探してたって、きっと私、またこの忘れ物が気になって仕方なくなると思う…

お文…お千代さん、わかりますよ。その忘れ物…私も、清水屋に忘れてしまいそうになって

ここに残ったんですから

宝二郎…そうなのかい？

お文…ええ、私ももともとは清水屋の客だったんです。店の前で鼻緒が切れてしまつて

その時に宝ちゃんが直してくれて…そしてつぶあんの大福をくれたんです。

お千代…女将さん…

宝二郎…源太さん！ 私はお千代さんが好きです！意気地のない、気の弱い気性の私ですが

お千代さんと一緒にいたら強くなれる気がするんです！

どうか、一緒にさせてください！

お千代…私も！若旦那様のそばにいと暖かい気持ちになれるの…このまま離れるなんて嫌

ずとずっと一緒にいたいわ。でも、私が残ったら兄さん一人になってしまう…

源太……かわいい妹のためだ、兄ちゃんのことなんて気にするな。まあ、ずっと

兄妹二人で旅をしてきたんだ。寂しくないと言ったらウソにならあな

お文…源太さん、お千代さんは清水屋がしっかり守ります。だから、いつでも会いに来て

あげてください。息子のお嫁さんなら、娘も同じ、娘のお兄さんなら息子も同じです

源太…女将さん…

お文…息子と娘が増えたと思えば、清水屋としてはとても嬉しいですよ

源太…ありがとうございます、若旦那、女将さん、お千代のこと、お願いいたしやす！
宝二郎…任せてください！必ず、幸せにしてみせます！約束します！

鈴の音がする

お千代…この鈴の音…

お文…宝ちゃんだわ！枕元に、すぐにならせるように鈴をおいておいたの！

宝ちゃんの目がさめたんです！

源太…そいつはよかった、さあ、早くいってやっておくんない！

宝二郎…はい！さあ、お千代さん行きましょう！

お千代…兄さん、ありがとうございます、幸せになるからね

源太…ああ

宝二郎とお千代はける

源太…あの、女将さんは行かねえんですかい？

お文…そりゃあ、真つ先に行きたいですよ。でも、源太さんこのまま

旅立つつもりなんでしょう？

源太……へい

お文…お父つつあんを探してるんですってね、必ず見つかりますよ。だって、昨夜だって

あなたたちを守るために、現れてくれたんですから

源太…ずっと探しちゃあいますが、ちつとも会えやしねえ…もう、諦めているところですかあ

お文…大丈夫、きっと会えますよ。会えるに決まっています。そう思えばそうなんですから。

源太…へい、ありがとうございます！ お千代の顔を見りや、また足がにぶつちまう

このまま、失礼いたしやす！

お文…気を付けて…清水屋はいつでも待っていますからね

源太…へい！…あの、そういうえば、お千代とお文さんの忘れ物つてのは一体…

お文…ふふふ、わかりませんか？ 初恋のときめきです。

源太…あ、なるほど…

お文…大事な妹さんですもの、清水屋にまかせてくださいね

源太…へい、ありがとうございます。どこへいっても、清水屋さんの無事と幸せを

この疾風の源太、神かけ祈って(木)めいりやす！

お文 見送り 暗転

エンディング【ち】父の愛情 END 佐吉

登場人物

宝二郎・源太・お千代・権蔵・竹庵・新吉・お光

清水屋店先 権蔵が店にやってくる

権蔵…おう、ごめんよー。誰かいねえか？

奥からやってくる宝二郎

宝二郎…親分さん、すみませんみかじめ料ですよね。少々お待ちください…

権蔵…いや、いいんだ…別に金が欲しくてきたわけじゃねえ。おめえだって、わかってんだろ

宝二郎…何がでしようか？

権蔵…わかつてねえのか、とぼけてんのかどっちだよ。ったく…まあな、息子のおめえに

こんな話をするのもどうかとは思うけどよ…、オレは見ての通りのがさつな男だ

でもな、昔から見て来た一凜の花…枯れねえように、誰かに踏まれねえように

守ってきた…知らねえうちに摘まれちまって、どれだけ悔しかったか、

まあ、早いうちから思いを伝えなかつたオレもいけないとは思うけどよう…

目の前にしたら、もう照れ臭くなっちまって…

宝二郎 物思いにふけて話を聞いてない

宝二郎…

権蔵…っておい！聞いてんのかよ！

宝二郎…すみません、何でしょう？

権蔵…何だよ、いつにもまして、頼りない面してるが、何か悩んでんのか？

宝二郎…：実は、これから旅にたたれるお客様の事を好きになってしまいました…

権蔵…何だって！？だったら、一緒になりてえって言えばいいじゃねえか

宝二郎…でも、私にそんな度胸があるわけないじゃありませんか！

権蔵…宝二郎！ 好きなら好きだって言わなきゃ、オレみたいになっちゃうぞ

新吉とお光がやってくる 勘違いをする権蔵

宝二郎…ご出立ですか？

新吉…はい、江戸に戻ろうと思います！

宝二郎…昨夜は騒ぎに巻き込んでしまい、申し訳ありませんでした。

お光…いえ、貴重な体験ができました。ね、新吉さん

新吉…ああ、殺されるかもしれないと思ったら、猛烈に死にたくないって思えてきて…

不思議ですよ、心中するためにここまでやってきたっていうのに

権蔵…心中だあ？ そいつとはおだやかじゃねえなあ…おめえさん方は夫婦かい？

新吉…いえ！まだ所帯を持つてはいません。でもいずれは…

お光…新吉さん…

新吉…おみっちゃん江戸の料亭の一人娘で、おいらは、その奉公人

身分が違うから、一緒にはさせてもらえなくて、だからここまで

駆け落ちしてきたんです。

宝二郎…そうなんです…それだけ、思い合ってるってことなんでしようね

権蔵…いやいや、身分違いはいけねえ。お嬢さん、そんな奉公人なんかよりも

清水屋の若旦那の方がいいんじゃないか？

ぎよつとする3人

新吉…ちよつと待って下さいよ！おみっちゃんはおいらと一緒にするんですよ！？

お光…そうです！私は新吉さんしか見えません！

宝二郎…わかっております！親分さん、私が好きなのは、こちらのお客様じゃなくてですね…

権蔵…いやいや、まだ夫婦になっちゃいねえんだ、おめえも男なら奪い取るつもりで

いかなきやいけねえ！

4人がわいわいと言い合いをしているところへ源太とお千代がくる

宝二郎…だから！！私が好きなのはお千代さんなんですって！！！！

全員フリーズする

宝二郎…あ…お千代さん…

お千代…若旦那様…

気まずそうに帰っていく権蔵

源太…お世話になりやした、お千代いくぞ。

お千代…待つて！…兄さん、私も若旦那様が好きなの。一緒にいると暖かい気持ちに

なれるし、それに、このまま離れるなんて嫌…お願いします。

一緒にさせてちょうだい。

宝二郎…源太さん、私からもお願いです。意気地のない、どうしようもない私ですが

お千代さんを守りたい気持ちは誰にも負けません。一緒にさせてください！

源太…：悪いが、そいつは聞けねえ相談だ。

お千代…：兄さん…

源太…：清水屋の若旦那と旅人の妹じゃ、つり合いはとれねえ…それに、俺達の役目を

忘れたのか？ 一緒にお父つつあんを探すって決めただろう、諦めるんだ

宝二郎…：源太さん！

お千代…：兄さん！

竹庵がやってくる

竹庵…：源太さんや、あんたの気持ちもよくわかる。じゃがな…：可愛い妹の幸せを

願うのも、兄としての務めだと思うんじゃないかな

源太…：竹庵先生…

竹庵…お前さん方は、お父つつあんを探しているとか…まあ、いろいろと事情があるかも

しれんが、父親なら、子供の幸せを思うはず、今はあんたが親がわりなら

認めてやるのも、兄としてとるべき道じゃあないのかね

源太…：竹庵先生、すいやせん。本来なら、ありがてえ話だ、喜んで嫁がせてやりてえ

気持ちほごさんすが、ただ、ちよつと…ずつと一緒に旅をしてきたもんで、

これから一人になるんだと想えば…へへ、男らしくねえが寂しくて仕方がねえんです…

感極まる源太に抱き着くお千代

お千代…どこにいたって、あたしは兄さんの妹だし、兄さんはあたしの、たった一人の

大切な兄さんよ…

源太…お千代…

二人を抱きしめる竹庵 不思議そうな顔の兄妹

竹庵…こりや、いかん薬箱を忘れてしもうたわい、ちよつととつてくるでな

帰っていく竹庵

宝二郎…お千代さん、大丈夫でしたか？ 竹庵先生は、その女好きで…

お千代…いえ、何だか…懐かしい感じがしました。

新吉…あなた方兄妹のお互いを思う心、感動しました！！

お光…私たちに足りないものがわかりました。もう一度、お父つつあんに

お願いしてみようと思います。新吉さんと一緒にさせてくれって…そして、

新吉…ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ…生きていけば、何度だって

やり直せる…

お光…これはほんのお礼です。

お光、包みを宝二郎に渡す

宝二郎…ありがとうございます。

新吉…本当にありがとうございます。さあ、おみっちゃん、おいらと一緒に行くじゃねえか
お光…ええ。

仲睦まじく出ていく二人

宝二郎…五両も！ お千代さんの持ってきた五十両に

不知火小僧がくれた五十両、そして、この五両…合わせて百五両ですよ

源太…清水一泊百五両でござんすね

奥から竹庵先生がやってくる

竹庵…おーい！大変じゃ！宝太郎の目が覚めたぞ！！

宝二郎…お父つつあんが！？って、あれ？竹庵先生、さっき薬箱を忘れたって…

竹庵…何を言うとするんじゃ、昨日の騒ぎで、わしや、清水屋に泊つとつたんじゃぞ

そんな事より、早くいつてやらんか！

宝二郎…わかりました！！ 源太さんやお千代さんもきてくださいね！

竹庵と宝二郎奥へ行く 源太とお千代 顔を見合わせて

源太…昨日は佐吉の親方…

お千代…今日は竹庵先生…

源太…つたく、あのくそ親父は、さすがは七化けと言われるだけはあるよ

お千代…兄さん、まだ遠くにはいつてないと思うわ、走れば間に合うかも！

源太…おう、疾風の異名をもつこの俺だ、すぐに見つけ出してやらあ

お千代…兄さん、がんばって！

源太…任せとけ、お千代…確かな吉報を【木】待ってるよ！

お千代 見送り 暗転

エンディング【り】良妻賢母END 竹庵

登場人物

お亀・お文・お静・竹庵・新吉・お光

板付きのお亀

お文とお静がやってくる

お亀：おかえりなさい！

お文：あらお亀、権ちゃんの子分、やめちゃったの？

お亀：へい！やっぱ清水屋が一番だなあって思いました

お文：ふふふ、おかえりなさい。でも、子分姿もかっこよかったわよ。ねえ？お静さん

お静..いや、あたしは見てる余裕がなくて…

お亀..そりゃそうですよね!…お二人でどこかにいったんですか?

お文..近所の甘味屋さんへ、大福は願掛けで断ってるから、お団子を食べてきたの

はい、おみやげ。

お団子を渡すお文

お亀..ありがとうございます! お団子、いいですねえ!

お静..みたらしのお団子も、お抹茶もすごくおいしかったです!

素敵なお店を教えてください、本当にありがとうございます。

お文..いえいえ、私もお友達が出来て凄く嬉しいんですよ。そういえばお亀、

宝二郎やお豊さんは?

お亀..源太さんとお千代さんをお見送りに、渡し場まで行きました。

お静..あら、もう旅立ってしまったんですね。お礼が言いたかったんですが…

お亀..何でも、お父つつあんを探しているとかで、早くにいつてしまいました。

えーっと、ところでお咲ちゃんや平太郎さんはどちらへ？

お静..二人して、いいなり地蔵へお参りにいつてます。

お文..平ちゃんの手が早く良くなりますようにいつてね

お亀..なるほど！ だったら、すぐに良くなりますね。だって、いいなり地蔵様はどんな

お願い事でも叶えてくれるんですから

お文..そうね、だから、きつと宝ちゃんもすぐに目が覚めるわ。

そこへ、新吉とお光がやってくる

お亀：ご出立ですか？

新吉：はい！江戸にもどろうと思います！

お文：昨晩は騒ぎに巻き込んでしまつて、申し訳ありませんでした。

お光：いえ！貴重な体験ができました、ね、新吉さん

新吉：殺されるかもしれないと思つたら、猛烈に死にたくないと思えてきて…不思議ですよ

心中するためにここまでやってきたっていうのに

お亀：はあ！？心中！？…最後にまたとんでもねえネタぶつこんできましたね

お光：親子の絆も、兄妹の愛情も、思い合う二人の心も本当に素晴らしいです！

私、お父つつあんにもう一度お願いしてみようと思います。

新吉さんと一緒にさせてくれって…ね？

新吉..ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ...生きていけば、何度だってやり直せる

お光..改めて思いました、生きていって素晴らしい事なんだって

竹庵がやってくる

竹庵..そうじゃぞ、死んで花実が咲くならば寺や墓処は花盛りじゃ

お静..竹庵先生!?!本物ですか!?!

竹庵..なんじゃ、わしを疑つとるのか?ほれ、桃栗三年柿八年♪はいすーいすいとな!

どうじゃ、短縮版じゃが、この踊りのキレはわしじゃろが

踊り出す竹庵 一同笑う

お光…これはほんのお礼です！

お光、お亀に包みを渡す。

新吉…本当にありがとうございました、さあ、おみっちゃんおいらと一緒にいこうじゃねえか！

仲睦まじく去っていく新吉とお光

お亀…え！ 五両も入ってますけど…

お文…いけません！お客様！

お亀…まあまあ、いいじゃありませんか女将さん。もらっておきましょ！ね？

お静…昨夜でたくさんのお金がこの清水屋にきたんですね

竹庵…ああ、お千代さんのもってきた五十両に、不知火小僧の五十両、そして

その五両で、いくなれば清水一泊百五両じゃな。

お静…あの時にうちの人が贖金なんて作っていたらと思うとぞつとします。

竹庵…そうじゃぞ。今頃、お縄や島流しじゃすまんかもしれん…

お亀…ほんと、不知火小僧に感謝ですよね！

お文…お静さん、平ちゃんを支えてくれてありがとうございます。

お静…そんな…あたしなんて、口うるさいだけですよ

竹庵…お静さんも、お文さんも良妻賢母じゃよ

お文…良妻？ いえいえ！私なんて、いつつも、宝ちゃんに助けってもらってばかりで

お静…賢母？ いやいや！がさつで口うるさいだけですよ

竹庵..お文さんの笑顔や、前向きな気性のおかげで、宝太郎はのびのびと商売ができておった

それに、宝二郎の穏やかなところもお文さん譲りじゃろ

お亀..言われてみれば..

竹庵..お静さんの竹を割ったような気性が、平太郎の手綱をにぎっておる、それに、

お咲ちゃんの働きぶりをみとりゃあ、あんたのしつけがいいのは一目瞭然じゃ

顔を見合わせるお文とお静

鈴の音が鳴る

お静..この鈴の音..

鈴の音

お文..宝ちゃんだわ！枕元に鈴が置いてあって、目が覚めたらすぐにならせるように

してあるんです！

お静..それじゃあ、目が覚めたんですね！

お文..よかった！私、いってきます！！宝ちゃん！！

奥に行くお文

お亀..よかった、旦那様の目が覚めて…

竹庵..いいなり地蔵様がまた、願いを叶えてくれたようじゃな…

お静..きつと、うちの人の手もおりますよね。

竹庵..ああ、なおるさ。そう思えばそうなんじゃから

お静…そう思えば、そう…

お亀…あ！ 若旦那様、帰ってきたみたいですね

外をのぞく竹庵とお静

竹庵…しよぼくれたお豊さんに…あれは、お千代さんか

お亀…お咲ちゃんや平太郎さんもいますよ！

竹庵…おーい、宝太郎の目が覚めたぞー！！（木）

徐々に暗転

エンディング【ぬ】盗人に憧れEND 源太

登場人物

お豊・お亀・新吉・お光

板付きのお豊

裏口からこっそりと後ろ向きでやってくるお亀

お豊..ちよつと！

お亀..わああ！！ビックリした。なんだお豊さんか、驚かさないでくださいよ

お豊..あんたが怪しい動きしてるからでしょ、何よその格好

お亀..ほつかむり姿見て、何か気付きませんか？

お豊.. はあ？ あ、どじょうすくい？

お亀.. そうそう！あらえっさっさ♪って違いますよ！ これは泥棒ですよ泥棒！

お豊.. : あんたまさか、今度は不知火小僧に憧れて泥棒になるなんて言うんじゃないでしようね？

ないでしようね？

お亀.. よくわかりましたね！！ そうです！弱きを助けて、強きをくじく！

盗みはするが殺しはしない義賊にあたしもなりたいんです！！

お豊.. あんたねえ..

お亀.. そう言えばお豊さん、源太さんに想いは伝えたんですか？

お豊.. !! え。やだ、何で知ってんの！？

お亀.. いやいやわかりますって！ 初めてあの兄妹がきたとき、お豊さんも若旦那様も

大福を落として、綺麗な人だ...とか、素敵な人だ...って呆けちゃってたんですから

お豊… 恥ずかしい… 若旦那様とお千代さんはうまくいったみたいよ。今奥で

女将さんと話をしているみたいだし…

お亀… お？ ってことはお豊さんも…？

お豊… あたしは… いいのよ。もう諦めたから

お亀… なんですか！ あのねえお豊さん、一度や二度振られたくらいで諦めて

どうすんですか！ 源太さんはお豊さんの心を盗んだ恋泥棒ですよ！？

お豊… 言われたの、あたしは清水屋になくはならない存在だ。 って

そりゃあ、悲しいし、落ち込みもするけど… でもね、あたしは女である前に

女中頭のお豊さんだからさ！

新吉とお光がやってくる

お豊：ご出立ですか？

新吉：はい！江戸にもどろうと思います！

お豊：昨夜は騒ぎに巻き込んでしまい、申し訳ありませんでした。

お光：いえ、貴重な体験ができました。ね、新吉さん

新吉：ああ、殺されるかもしれないと思ったら、猛烈に死にたくないって思えてきて…

不思議ですよ、心中するためにここまでやってきたっていうのに

お亀：心中!？

お豊：へー…そうだったんですね…

新吉：いろんな思いがかさなり合うのを見て、命は大事にしなきゃいけないって思いました

お光：親子の愛情、兄妹の愛情…それにみんなが清水屋さんを愛していて…

新吉：おいらたち、すごく感動しました！

お光..私、もう一度、お父つつあんにお願いしてみようと思います。

新吉さんと一緒にさせてくれって...ね？

新吉..ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ...生きていれば、何度だって

やり直せる...

お光..これはほんのお礼です。

お光、包みをお豊に渡す

新吉..本当にありがとうございます。さあ、おみっちゃん、おいらと一緒に

行こうじゃねえか

お光..ええ。

仲睦まじく出ていく二人

お豊…あら、五両も入ってるじゃない！

お亀…あ、ほんとだ。つてことは、お千代さんが持ってきた五十両に、不知火小僧のくれた

五十両、そしてこの五両で、清水一泊百五両ですね！

鈴の音がする

お亀…あれ？この音…

お豊…旦那様の枕元に、すぐならせるように鈴がおいてあるんだよ。旦那様の目が覚めたんだ

これで清水屋も一安心だね…

お亀…お豊さん！あたし、別に盗人になりたいわけじゃないんです！

困ってる人を助けられる、義賊になりたくて…不知火小僧みたいな…

お豊.. 困ってる人を助けるなんてまるで、うちの旦那様じゃないか。憧れてるなら清水屋に

戻っておいでよ

お亀.. いやいや、それは... あ! そうです! 七化け! かつこいいじゃないですか!

お豊.. じゃあ、役者でもやったら?

お亀.. そうじゃなくて!! はあ.. 我悩む、なりたきものは、なんじゃろな.. お、七五調!

お豊.. お亀、あんた詩人にでもなれば?(木)

お亀.. えー

笑いながら二人 奥へ行く 暗転

エンディング【る】流浪の旅END 佐吉

登場人物

お文・お咲・佐吉・権蔵・新吉・お光

清水屋店先 お咲板付き そうじをしているところへお文がやってくる

お文..お咲ちゃん、本当にいいの？平ちゃん達と帰らないで

お咲..いろいろとお仕事も覚えましたがし、私に清水屋の力になりたいんです。

父ちゃんやおつかさんは、寂しがってましたけど、お前が決めた事なら

止めないって。

お文..ありがとう、すごく助かるわ。

お咲..ところで女将さん、あの...どうして父ちゃんと旦那様は喧嘩をしてしまったんですしやう？

佐吉がやってくる

佐吉..ごめんよ！邪魔するぜ！

お咲..不知火小僧！？

お文..お咲ちゃんったら、本物の佐吉の親方ですよね？

佐吉..当たり前よ！昨日は不覚にも、やられちまったが..今度こそ、捕まえてやらあな

それで、宝太郎さんの具合はどうだい？

お文..それがまだ..でも、今日は顔色がいいみたいなんです。

佐吉..そりゃあ良かった、ところで話に聞いたぜ、平太郎さんやお静さんはもう島田へ

帰ったんだって？

お咲..はい！あたしは、残って清水屋で女中を続けます！

佐吉..お咲ちゃんがいてくれりゃあ、安心だろう。

お文..ええ、とつても。親方、昨日はいろいろとありがとうございました。

佐吉..いやいや、オレは何もしちゃいねえさ、むしろ源太さんや浜名湖の親分、

あと釈然とはしねえが、不知火小僧に感謝しなくちやな。

だが、平太郎さんは宝太郎さんとは会えずじまいか..せつかく仲直りが

できると思ってたんだがなあ..

お咲..親方さんも、父ちゃんと旦那様の喧嘩の事知ってるんですか？

佐吉..ああ、そりゃ知ってるさ。この界限の連中ならみんな知ってるんじゃないか？

お文..そうですね..、でもあれは喧嘩というか、何というか..

佐吉..平太郎さんが怒って、清水屋を出て行ったってところか..

お咲..あの！ すごく気になるので、教えてもらっていいですか！？

顔を見合わすお文と佐吉

佐吉..かまわねえかい？お文さん

お文..ええ、大丈夫です。

佐吉..今から数えて二十年前のことだ、俺は十手取り縄を預かったばかりの新米でな

清水屋さんは、商売上手で心の優しい宝太郎さんに、口は悪いが丁寧な仕事をする

平太郎さん、顔はよく似ているが気性の違う兄弟だって、評判だったんだ。

お文..ある時、江戸の簪屋さんがお泊りにいらしたの。平ちゃんの作る簪の噂を聞いて

いいものがあれば、江戸のお店で取り扱いたいって

お咲..すごいじゃないですか！ 父ちゃんの作った物が、江戸まで広まっていたって

ことですよね？

佐吉..平太郎さんは、自信のある作品をいくつも用意していた。職人として

自分の作ったものが認められるかもしれないねえんだからな

お文..でもね、平ちゃんがないときにうっかり宝ちゃんはその簪を落として壊してしまったの

お咲..そんな..

佐吉..慌てた宝太郎さんは、とっさに自分でその簪をなおした。元の形がわからないまま

平太郎さんが作った簪とはまったく違うものができちまってな

お咲..でも！父ちゃんだったらすぐに直せましたよね？何も困ることなんてないんじゃないや..

お文..簪屋さんは一通り見て、期待外れだった、これしか売り物にはならないって

一本の簪を買っていったの、それが、宝ちゃんの手を加えた簪..

お咲..え..

佐吉…平太郎さんにとって、兄貴より自分が自信のもてる唯一のことを、砕かれたような

もんだったんだ…宝太郎さんは、謝ってはいたが、怒りはおさまることにはなく

そのまま清水屋を飛び出していった…

お文…竹庵先生にも、佐吉の親方にも手伝ってもらって探してもらいましたっけ

佐吉…すぐに居場所はわかったが、宝太郎さんが無理やり引き戻すことはしたくないって

…それから二十年だもんなあ

お咲…すみません！父ちゃんってば、ほんと自分勝手で…

お文…お咲ちゃん、平ちゃんは職人だもの、それだけ拘ってるってことでしょ？

お咲…女将さん…

佐吉…そうだぜ、今じゃ平太郎さんじゃなきゃいけない！ってお得意様もたくさんいるんだろ

おめえの父ちゃんは素晴らしい飾り職人だよ

お咲…：はい！

新吉とお光がやってくる

お咲…：ご出立ですか？

新吉…：はい、江戸に戻ろうと思います！

お文…：昨夜は騒ぎに巻き込んでしまい、申し訳ありませんでした。

お光…：いえ、貴重な体験ができました。ね、新吉さん

新吉…：ああ、殺されるかもしれないと思ったら、猛烈に死にたくないって思えてきて…

不思議ですよ、心中するためにここまでやってきたっていうのに

お咲…：心中！？そんなダメです！命は大事にしてください！

新吉..そうですね!!あなた方の親子の情愛、感動しました!!

お光..親子の絆って本当に素晴らしいです!私も親子の絆を信じてもう一度、

お父つつあんにお願いしてみようと思います。

新吉さんと一緒にさせてくれて..ね?

新吉..ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ..生きていれば、何度だって

やり直せる..

お光..これはほんのお礼です。

お光、包みをお文に渡す

お文..ありがとうございます

新吉…本当にありがとうございました。さあ、おみっちゃん、おいらと一緒に

行こうじゃねえか

お光…ええ。

仲睦まじく出ていく二人

お文…あら…五両も！お客様、いけませんこんなに頂けません！

佐吉…いいじゃありませんか、あの二人にしてみりゃあ、命を買ったような

もんですから。

お文…そうですか？じゃあ、ありがたく…

お咲…女将さん。お千代さんの持ってきた五十両に、不知火小僧のくれた五十両

そしてこの五両で、えーと、えっと…

佐吉…百五両だよ

お咲…そうです！清水一泊百五両です！

お文…まあ、本当だわ…

旅支度姿の権蔵がやってくる

権蔵…ごめんよ…あ、文ちゃん

お文…権ちゃん、どうしたの？その格好

権蔵…俺あ…旅に出ようと思っただから、その、お別れを言いに来たんだ

佐吉…権蔵親分、おめえさん何処に行くつもりなんだ？

権蔵…行く当てもねえ、風の向くまま気の向くままよ…流浪の旅ってやつかな

お文 奥へ行く 見送る三人

権蔵…：そうか、宝太郎目が覚めたんだな。よかった。へへ、

お咲…親分さん！本当に、もう清水を旅立ってしまうんですか？

権蔵…おう。随分長くかかっちゃったが、もう潮時かもしれねえ…男一匹、浜名湖の権蔵

今日を限りで、この恋を諦めらあ それじゃあな！

行きかける権蔵 奥から出て来るお文

お文…権ちゃん！

権蔵…：！！！！ 文ちゃん！

お文…早く帰ってきてね。

権蔵…：おう、甘いモノたくさん持って帰ってやるからよ！何たっておれは、文ちゃんの

幼馴染だからな？(木)

お文…うふふ

権蔵…あはは

みんなで笑う 徐々に暗転

エンディング【を】弟の決心END 竹庵

登場人物

平太郎・お静・お咲・竹庵・宝二郎・お千代・新吉・お光

板付きの平太郎一家と宝二郎

お咲…若旦那様、いろいろとお世話になりました。

宝二郎…こちらこそ、ありがとうございました。お静さんも、平太郎おじさんも

またいつでも清水屋にきてくださいね。

平太郎…ありがとな宝二郎、しかしまあ、しばらく見ねえ間に随分と大きくなったなあ…

お静…二十年ぶりだものね、本来なら宝太郎さんにも、会ってお話が出たかっただけ

今日は帰ります。また便りをかきますから

宝二郎…お願いします！ きつとおつかさんも、お父つつあんも喜びますんで

お咲…お豊さんにもよろしく伝えてくださいね

宝二郎…ええ、今源太さんをお見送りしているので、もしかしたら途中で会うかもしれませんね

平太郎…見送りって、何だよ。俺達の見送りはねえのか？

お咲…仕方ないよ、だってお豊さんは源太さんは好きなんだから

お静…そうなのかい？ まあわかるよ。源太さんはかっこいいからねえ

平太郎がむっとしていると、新吉とお光がやってくる

宝二郎…ご出立ですか？

新吉…はい！江戸にもどろうと思います！

宝二郎…昨晩は騒ぎに巻き込んでしまつて、申し訳ありませんでした。

お光…いえ！貴重な体験ができました、ね、新吉さん

新吉…殺されるかもしれないと思つたら、猛烈に死にたくないと思えてきて…不思議ですよね

心中するためにここまでやってきたつていうのに

宝二郎…心中！？…そうだったんですか

平太郎たちのところへ行つて

新吉…あなた方の親子の情愛、感動しました！！

お光…親子の絆つて本当に素晴らしいです！私も親子の絆を信じてもう一度、

お父つつあんにお願いしてみようと思います。新吉さんと一緒にさせてくれつて…ね？

新吉…ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ…生きていけば、何度だって

やり直せる

お光…改めて思いました、生きていって素晴らしい事なんだって

竹庵がやってくる

竹庵…そうじゃぞ、死んで花実が咲くならば寺や墓処は花盛りじゃ

平太郎…竹庵先生！？おめえ本物か！？

竹庵…なんじゃ、わしを疑つとるのか？ほれ、桃栗三年柿八年♪はいすーいすいっとな！

どうじゃ、短縮版じゃが、この踊りのキレはわしじゃろが

踊り出す竹庵 一同笑う

お光…これはほんのお礼です！

お光、宝二郎に包みを渡す。

新吉…本当にありがとうございました、さあ、おみっちゃんおいらと一緒にいこうじゃねえか！

仲睦まじく去っていく新吉とお光

宝二郎…これ、五両も入ってますけど…

お咲…そんなに！？

お静…昨夜でたくさんのお金がこの清水屋にきたんですね

竹庵…ああ、お千代さんのもってきた五十両に、不知火小僧の五十両、そして

その五両で、いくなれば清水一泊百五両じゃな。

平太郎…：贋金なんて作らねえで、本当によかったよ

竹庵…：そうじゃぞ、もしもあの時にお前が贋金なんぞ作っておったら、今頃、お縄や

島流しじゃすまんかもしれん…

宝二郎…：私は信じていました、平太郎おじさんのことを。だって、あんなに繊細で美しい

飾りや簪が作れる方なんですから

平太郎…：宝二郎…

お静…：お前さん、一度は途切れた縁が今やとつつながりかけているんだ、お兄さんの

目が覚めたら、仲直りしておくれよ？

平太郎…：でもよう、二十年だぜ？ 今更どんな顔して会えばいいか…

宝二郎…おじさん、大丈夫です。二十年という年月は本当に、長いかもしれませんが

でも、血のつながった家族の絆って、切れたりほどけたりしません。

もしも、切れたってまた結び直して前よりも固くなることだってあるんです

お父つつあんはずっと、おじさんの事をきにかけていました。

平太郎…：兄貴が…

お咲…そうだよ、そうじゃなきゃ、いいなり地蔵に大金をもっていったりしないはずだもん

竹庵…平太郎や、宝太郎はな どれだけお前からの手紙を喜んでおったか…それに

あいつ自身も、お前に会うことを不安に想っておったんじゃないぞ

平太郎…わかった、そうだよな。もう意地張ったりしねえ。

竹庵…ほれ、約束じゃ

指切りをする竹庵と平太郎

鈴の音が鳴る

お咲…この鈴の音…

鈴の音

宝二郎…お父つつあんです！枕元に鈴が置いてあつて、目が覚めたらすぐにならせるように

してあるんです！

竹庵…それじゃあ、宝太郎の目が覚めたんじゃない…

平太郎…竹庵先生！…俺、あの頃と何も変わってねえ…兄貴に勝てねえって、ふてくされて

悪態ついて…でもよう、本当は早く兄貴と昔のようになりたかったんだ…

寄り添うお静

平太郎…お静…

お静…いっておいでよ、たった二人きりの兄弟なんだ。

お咲…大丈夫だよ、父ちゃん、きつとうまくいく！

竹庵…平太郎や、お前の作る簪や飾りは立派じゃ、人は年月がたてば、成長する

草花のようにな、ほれ、桃栗三年柿八年♪とな

平太郎…

竹庵…やれやれ、ほんに世話のかかるやつじゃな。一緒にいってやるか

平太郎…すまねえ…

平太郎と竹庵 奥へ行く

お咲…あんな父ちゃん初めてみた…

宝二郎…：これから、いいなり地蔵へお参りに行こうと思っていたんです

お父つつあんが目を覚ましますように、そして、もう一つ…

お静…どんな願いを？

外に気が付く宝二郎

宝二郎…いえ、どうやら叶いそうです。

お千代が入ってくる

お咲…!!

お静…!!

宝二郎…お千代さん…

お千代…若旦那様…

拍子木なし 徐々に暗転

エンディング【わ】私は清水屋の女中頭END 佐吉

登場人物

お豊・源太・佐吉・宝二郎・お千代・お文・宝太郎・新吉・お光

清水屋店先 佐吉がやってくる

佐吉：ごめんよ、邪魔するぜ！

お豊 奥から走って来て草鞋を佐吉に渡す

お豊：ちよつとこれ持ってきてください！！

佐吉：はあ？何だよこれ…

源太…あれー？おかしいなあ？ここに置いておいたはずなんだが…

源太 上手前から入り

源太…あ！お豊さん、あつしの草鞋知りませんか？

お豊…さあ？ 知りませんよ

源太…えー。どこ行っちゃまったんだ？あれ、佐吉の親方

佐吉…よう、昨日はお互い大変だったな

源太……本物か？それとも…

佐吉…おいおい、そんな怖い顔で睨むんじゃねえよ。昨日は不覚だったが、正真正銘

俺は十手持ちの佐吉だよ

源太…大泥棒不知火小僧じゃねえってなら、その手に持ってる草鞋はなんでい

佐吉…へ？そりゃあ、お豊さんが

佐吉、源太に草鞋を渡す

お豊…だって、だって…これを返してしまつたら源太さん、行ってしまうんでしょ？

源太…へい、お世話になりやした。

お豊…一目見た時から、私はあなたに心を奪われていました。お願いです！

あたしも一緒に連れて行つてください！

源太…お豊さん…申し訳ねえがそいつは、かぶりを縦に振ることはできやしねえ…

清水屋さんにとって、おめえさんはなくてはならない存在だ。

それに、おめえさんは堅気、俺は渡世人だ。住む世界が違ふんです、

どうかあきらめてやつておくんない。

佐吉…お豊さん、困らせるもんじゃねえ…身をひくのも女つてもんだぜ
お豊…うう…うううう、いやです！ あたし絶対あきらめませんから！

顔を見合わす源太と佐吉 お千代と宝二郎入り

草鞋をはく源太

宝二郎…あの、お千代さん…！

お千代…若旦那様…

二人見つめあうが何も言い出せない宝二郎

新吉…お世話になりました！

新吉とお光がやってくる

お豊…ご出立ですか？

新吉…はい、江戸に戻ろうと思います！

お豊…昨夜は騒ぎに巻き込んでしまい、申し訳ありませんでした。

お光…いえ、貴重な体験ができました。ね、新吉さん

新吉…ああ、殺されるかもしれないと思ったら、猛烈に死にたくないって思えてきて…

不思議ですよ、心中するためにここまでやってきたっていうのに

お豊…そうなんです…心中…心中！？やっぱり何か怪しいと思ってたんですよ！

お千代たちのそばに駆け寄る新吉お光

新吉..あなた方のお互いを思う心、感動しました!!

お光..命がけで相手を思う強さ..私たちに足りないものがわかりました。

新吉..身分や育ちなんて、関係ない、今まで生きてきた世界が違ってたって

そんなことはどうでもいいんだ。だって、こんなに好きなんだから..!

お光..もう一度、お父つつあんにお願ひしてみようと思います。

新吉さんと一緒にさせてくれって..ね?

新吉..ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ..生きていけば、何度だって

やり直せる..

お光..これはほんのお礼です。

お光、包みをお豊に渡す

お豊…ありがとうございます。

新吉…本当にありがとうございます。さあ、おみっちゃん、おいらと一緒に行くじゃねえか
お光…ええ。

仲睦まじく出ていく二人

お豊…お幸せに…あらやだ、五両も入ってるじゃない！ お千代さんの持ってきた五十両に

不知火小僧がくれた五十両、そして、この五両…昨夜一晩でこんな大金が…

佐吉…清水一泊百五両だな？

宝二郎…源太さん！ 私はお千代さんが好きです！意気地のない、気の弱い気性の私ですが

お千代さんと一緒にいたら強くなれる気がするんです！…必ず幸せにします。

どうか、一緒にさせてください！

お千代…私も！若旦那様のそばにいと暖かい気持ちになれるの…このまま離れるなんて嫌

ずとずっと一緒にいたいわ。

お豊…いやいやいやいや、それはどうなんでしょうかねえ

宝二郎…お豊さん！

お豊…お千代さんは渡世人の妹、若旦那は堅気、住む世界が違うんです。

一緒になんてなれるわけありません。

佐吉…おいおい…お豊さん、そいつはあまりにも八つ当たりつてもんじゃ…

お豊…もう！親方は余計なことしか言わないんだから！さっさと見回りでも何でも

いつてきたらいいでしょ！

佐吉…わかったわかった！それじゃあな！

佐吉 出ていく

お豊…お千代さん、残念ですが諦めてください。

お千代…そんな…私、若旦那様と一緒に出来ないくらいなら、死んだ方がはるかに

ましよ！

宝二郎…私だって…諦める事なんてできません！

源太…ちよつと待ってくれよ！何もダメだなんて言つてねえだろ！

お千代…え、それじゃあ…

源太…若旦那、お千代の事よろしくお願いいたします。

宝二郎…任せてください。

お豊…源太さん、ほんとにそれでいいんですか？

源太…：へい、かわいい妹の幸せのためだ、お千代が幸せならそれでかまいやせん。

ただ、兄妹二人で旅をしてきたんだ。寂しくないと言ったらウソにならあな。

お豊…：寂しくないですよ、だってあたしがいますから

源太…：…ったく、仕方ねえな。まあ、確かにおめえさんとなら、楽しい旅ができそうだ。

それじゃあ、お豊さん、あつしについてきてくれますかい？

お豊…：はい！どこまでもついていきます！

源太…：お千代。今まで散々苦勞してきたんだ…必ず幸せになるんだぞ。

お千代…：うん！

源太…：兄ちゃんとの約束だ…

お千代…：兄さん…

二人指切りをする。

鈴の音が聞こえる。

源太…なんだ？

宝二郎…お父つつあんだ！ 枕元に鳴らせるように鈴を置いてあるんです！

お豊…目が覚めたんですね！

宝二郎…私、ちよつと行つてきます！

奥へ行く宝二郎

源太…おめえもいつてきな。

お千代…ええ、宝太郎さんに紹介したいから兄さんも早くきてね

源太…ああ

お千代…先にいつてるから、早くきてちょうだいね

奥へ行くお千代。

源太…それじゃあ、行きますか？

お豊…はい！少々、お待ちを！

荷物をまとめてもってくる

源太…そういやあ、お豊さんは清水屋に勤めてもうどのくらいになるんで？

お豊…何ですか急に、そうですね…ええと、もうかれこれ20年になりますかね

源太…さようで。それじゃあ思い出もたくさんでしょうね

お豊…：ええ、若旦那様もはじめはまだ子供で、まあ、あたしも子供みたいなもんでしたけど

商売のいろはをいろいろと教えてもらって…今じゃ女中頭になりましたからね

奥から声がする

宝二郎…お豊さーん

お豊…あ…

お文…お豊さーん

お豊…はは、すみません。前掛け外しますんでちよつとまっつけてくださいね

宝太郎…お豊さーん

お豊…あーもう！何なんですかみんなして！あたしがいないと清水屋はダメなんですか！？

…すみません、源太さん。やっぱりあたし…

源太…へい、また泊まりにめいりやす。お千代のこと、お願いしますね

お豊…任せてください。何てたつて私は、遠州老舗の旅籠。清水屋の【木】女中頭ですからね

源太がうしろ面笠決め、お豊前掛け結び直し

ゆつくりと暗転

エンディング【か】かれこれ3年END 竹庵

登場人物

お豊・お文・宝二郎・お千代・宝太郎・新吉・お光

お豊 板付き 頼りを読んでいる 録音した新吉の音が流れる

新吉..清水屋の皆様へ お元気でいらっしやいますか？ おみっちゃん二人

3年前に清水屋へ泊まらせていただきました、江戸の料亭、水月の新吉です。

奥からお文がやってくる

お文..あらお手紙？

お豊：女将さん、おはようございます。はい、3年前にお泊りになった新吉さんより届きました。

お文：まあ。懐かしいわね

お文も手紙をのぞきこむ 新吉の録音が引き続き流れる

新吉：あの時、親の許さぬ恋に落ち、おみっちゃんと二人、あの世で一緒になろうと

思っていたおいらたちですが、忘れられないようなあの一晚のこと

偽物の不知火小僧騒動があり、改めて、命の大切さを知った気がします。

いつの間にか宝二郎もまざっている

宝二郎：そうか…もうあれから3年になるんだね。

お文…まさか心中しにきていたなんて…でもお元気そうで良かった。

お豊…平太郎さん一家の親子の情愛や、若旦那様たちの互いを思いやる気持ちに

感動して、五両もおいていってくれたんですね

宝二郎…そうそう、その五両と、不知火小僧のくれた五十両に

お文…お千代さんが持って来てくれた五十両で、あの晩は清水一泊百五両だったわ。

宝二郎…あとにも先にも、あんな大金が入ったのはあの一日だけだったね

お豊…でも、そのおかげで今も清水屋はつぶれずにすんでるんです。では、続きを

読みますよ？

新吉の録音が引き続き流れる

新吉…あれから水月へ戻り二人で旦那様へお願いし、認めてもらい、今では

所帯をもつことができました。おいら、後継ぎとしてお店を任せてもらってるんですよ

商売も軌道に乗ってきたので、また、思い出の清水屋さんへ泊まりに行きたいと思えます

おそらく、この便りが着くころには宿についているかもしれません。

今度は一番上等な松の間があいていますように 新吉

3人 顔を見合わせる

お豊…松の間ってあいてましたっけ？

お文…さつき、お泊りになったお客様がご出立されたばかりよ

宝二郎…だったら急いで掃除しないと！

お文…そうね、よーしぴかぴかにするわよ！

そこへ、身重のお千代がやってくる

お豊…若女将、お加減はいかがですか？

お千代…今日はとっても気分がいいんです。お手紙ですか？

お文…3年前にお泊りになった新吉さんたちから届いたの

宝二郎…あの二人、夫婦になったみたいだよ

3人 お千代に手紙を見せながら話をしている、そこへ新吉とおみつがやってくる

新吉…すみません！ごめんください

お豊…はい！あ、いらっしやいませ！

お光…3年ぶりに帰って来ました、またお世話になりますね

お文：今お部屋のご案内をしますので、少々お待ちくださいませ。

宝二郎：おつかさん、私も手伝うよ

お文と宝二郎 客間へ

新吉：懐かしい、あの頃と何も変わってないね、おみつ

お光：そうね、お前さん

お豊：ここの宿帳に名前を…って、わかりますよね

お光：ええ、もちろんです。

お豊：お風呂はそっぢゃなくて、こっち、ですからね？

新吉：大丈夫です！ もう心中岬には用事はありませんから

一同笑う

お光…あら！　もしかして、あの時お泊りになっていた妹さん？

お千代…ええ、ご縁があつて清水屋に嫁ぎました。

お豊…今じゃ清水屋の若女将なんですよ、子宝にも恵まれて順風満帆です！

お光…おめでとうございます！お前さん、うちもそろそろ…

新吉…そうだね、本当におめでとうございます。

お光…どのくらいなんですか？

お千代…五月の岩田帯です。

お文と宝二郎がやってくる

お文…お部屋の準備が整いました。

宝二郎…こちらへどうぞ

お光…ありがとうございます。さ、いきましょ

新吉…ああ、お世話になります。

お豊…ご案内しますね

新吉とお光 お豊にご案内されて奥へ 入れ替わりに宝太郎が帰って来る

宝太郎…今帰ったよ

お千代…おかえりなさいませ

お文…宝ちゃん、おかえりなさい。

宝太郎…うちへお泊りのお客様をお連れしたから、ご案内しておくれ。

宝二郎..わかりました。

お千代..お豊さん！

やってきたお豊もまざり、清水屋がならぬ

宝太郎..ようこそ、清水屋へ

声をそろえて

全員..いらっしやいませ (木)

頭をさげる 徐々に暗転

エンディング【よ】夜もすがら語る渡世人END 源太

登場人物

お亀・権蔵・源太・お千代・新吉・お光

お亀板付き 権蔵がやってくる

お亀..あ、浜名湖の権蔵親分いらっしやいませー。

権蔵..なんだお亀、おめえまた清水屋に戻ったのか？

お亀..へい、何だかんだやつぱり長くいた所が落ち着きますから。あ、みかじめ料ですか？

権蔵..いや、そうじゃねえんだ。文ちゃんいるかい？

お亀..女将さんなら、いいなり地蔵へお参りにいきましたよ。旦那様がよくなりますようにって

権蔵…：そうか。ほんと、宝太郎はつくづく幸せもんだよな。早く、起きて安心させてやりゃあいいのに。

そこへ源太とお千代がやってくる。少しふてくされてるお千代

源太…おい、いい加減にしろよ？ 何もダメだって言ってるわけじゃねえんだ

お父つつあんを探すことが先だって言ってるのがわからねえのか！？

お千代…別に、清水屋さんにいたって探すことはできるじゃない！若旦那様も同じ気持ちだって

言ってくれて、心を込めた簪だって私にくれたのよ？

その様子を心配そうにみているお亀と権蔵

源太…だから、それが我儘だっていってんだ！ いいからいくぞ！

お千代…いやよ！ 私、宝太郎さんにお礼も言えてない。このまま、旅立つなんて絶対いや！

お亀…あのー

源太…すいやせん、店先ででかい声を出しちゃって…

権蔵…おめえ、不知火小僧だな！？

お千代…親分さん、違うんです！この人は私の兄さんで…

権蔵…あ！よくみりやおめえ、極悪な渡世人じゃねえか

お亀…違いますって！ あれは不知火小僧をおびき寄せるための罠で…

源太…あつしはただの渡世人です！

権蔵……何だかよくわからねえが、悪い奴じゃねえんだな？ でも、さつきその娘に

デカイ声出してやがっただろ！

源太…いやそいつは…

お千代…そうなんです！聞いてください！ひどいんですよ！

権蔵…何だって！？

源太とお千代で権蔵に話をしている　そこへ、新吉とお光がやってくる

お亀…あ、ご出立ですか？

新吉…はい！江戸にもどろうと思います！

お亀…昨晩は騒ぎに巻き込んでしまつて、申し訳ありませんでした。

お光…いえ！貴重な体験ができました、ね、新吉さん

新吉…殺されるかもしれないと思つたら、猛烈に死にたくないと考えてきて…不思議ですよね

心中するためにここまでやってきたつていうのに

お亀… 心中！？あ、なるほど… 旅芸人みたいだなあと考えたのは、心中物のセリフだからか

お光… 私、子供の頃からお芝居が大好きで

新吉… そうなんです、おいらも良く見てて、初めはそれで気が合うようになりました。

お亀… ほう… じゃあ、あながち旅芸人っぽいというのはあながち間違いじゃなかったんですね

お光… 素敵じゃありませんか、まるで違う人になれるなんて…

新吉… ほんと、まさに七化けで不知火小僧みたいだなんて思ってた、へへ、実は

昨日の騒動でもしかしたら不知火小僧に会えるんじゃないかってちよっと

期待していた部分はあったんです、な、おみっちゃん

お光… ええ、そうなんです。

お亀… …なるほど、不知火小僧は実が役者… ありえなくはないですねえ

源太たちに気が付きかけよる新吉たち

新吉..あなた方の兄妹の情愛、感動しました!!

お光..それに、お店を守るために駆けつけた親分さんの勇ましさ!素敵でした..

新吉..おいらたち、昨夜一晩でたくさんの勇気をいただけたんです!

お光..私、お父つつあんにお願ひしてみようと思います。新吉さんと一緒にさせてくれって..ね?

新吉..ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ..生きていけば、何度だって

やり直せる..

お光..これはほんのお礼です。

お光、包みをお亀に渡す

お亀…ありがとうございます

新吉…本当にありがとうございます。さあ、おみっちゃん、おいらと一緒に行くじゃねえか
お光…ええ。

仲睦まじく出ていく二人

権蔵…：あいつらが不知火小僧か？

お千代…ちがいます！

お亀…これ…五両も入ってます！わあ、こんな大金…

権蔵…いいじゃねえか、今は物入りなんだ。ありがたくもらったときな

お亀…そうですね。あ、お千代さんのもってきた五十両に、不知火小僧のくれた五十両。

そしてこの五両で、清水一泊百五両になります！

源太…百五両たあ、随分と豪華な宿代だ

鈴の音がする

権蔵…何の音だ？

お亀…旦那様です！ 枕元に鳴らせるように鈴を置いてあるんです！

お千代…じゃあ、宝太郎さんの目が覚めたんですね！

お亀…はい！すみません！私、ちよつと行ってきます！

お千代…私も行きます！

源太…おいお千代！

お亀とお千代 奥へ行く

権蔵…旅人、疾風の源太といったな？ 急ぎの旅なのかい？

源太…あつしら兄妹の父親、不知火小僧を探しておりやす。また、遠くに逃げられる前に

捕まえねえと…

権蔵…それなんだがよ、おめえらの父つつあんはそばにいるんじゃないやねえのか？

源太…そばに？ どういうことですかい？

権蔵…昨夜の行灯の明かりが消えたのだって、いくら瓦版の噂が広まったからって

あまりにも出来過ぎだ。おめえらを守るために、清水屋にきたんじゃないやねえかと

思ってたな。

源太……初手から俺達を守るため。なるほど……だったらどうして現れてくれねえんでしょう？

権蔵…さあ、俺にはわからねえが……親父さんには親父さんの事情があるんだろうな

源太…：親父は俺達を捨てたわけじゃねえってことか

権蔵…捨てた子供の事を気にかけてりはしねえさ、よし、どうだ？今夜は浜名湖一家に
わらじをぬがねえか？

源太…親分さんのところへ？ よろしいんですかい？

権蔵…むさくるしいところだが、渡世人は渡世人同士だ。おめえとは気が合うような
気がしてな。

源太…へい！それじゃあ浜名湖の親分さん、夜もすがら共に（木）語りましょうか？

二人笑い合い 暗転

エンディング【た】たかが3年されど3年END 竹庵

登場人物

お豊・お文・宝二郎・お千代・宝太郎・源太・竹庵・新吉・お光

お文 板付き 頼りを読んでいる 録音したお光の音が流れる

お光..清水屋の皆様へ お元気でいらっしやいますか？ 新吉さんと二人

3年前に清水屋へ泊まらせていただきました、江戸の料亭、水月のお光です。

奥から宝二郎がやってくる

宝二郎..おつかさん手紙かい？

お文..あら宝二郎、ええ、3年前にお泊りになったお光さんからよ

宝二郎…ああ。あの二人連れの…

お光の録音が引き続き流れる

お光…あの時、親の許さぬ恋に落ち、新吉さんと二人、あの世で一緒になろうと

思っていた私たちですが、忘れられないようなあの一晚のこと

偽物の不知火小僧騒動があり、改めて、命の大切さを知った気がします。

いつの間にか竹庵とお豊もまざっている

竹庵…こりや懐かしい…不知火小僧がわしに変装したあの日か…もうあれから3年とは

年月のたつのは早いもんじゃわい。ん？年月といえば、あ、桃栗三年…

お豊…竹庵先生それはもういいです！

竹庵…おやそうか？

お文…まさか心中しにきていたなんて…でもお元気そうで良かった。

宝二郎…平太郎おじさんたちの親子の情愛にも感動して、帰り際には

五両もおいていってくれた方々ですよね

お豊…そうそう、その五両と、不知火小僧のくれた五十両にお千代さんの持って来てくれた

五十両である晩は清水一泊百五両でしたから

宝二郎……そうか、お千代さんと出会えたのも、もう3年前か…

竹庵…宝二郎や…気を落とすんじゃないわい。いつかきつとまた会えるさ。

宝二郎……そうでしょうか…

お文……そうよ、そう思えばそうに決まってるわ。あのあと、すぐに宝ちゃんの具合も

よくなったんだし。神様はちゃんと見ていてくれるわよ。じゃあ、続きを読むわね

お光の録音が引き続き流れる

お光..あれから江戸へ戻り二人でお父つつあんへお願いし、認めてもらい、今では

夫婦になることができました。新吉さんが、跡を継いでくれたんですよ

商売も軌道に乗ってきたので、また、思い出の清水屋さんへ泊まりに行きたいと思います

おそらく、この便りが着くころには宿についているかもしれません。

素敵な皆様とまた会える日を楽しみにしています。お光

4人 顔を見合わせる

お豊..うまくいっただ!

お文..しかも、商売もうまくいってるなんて、素晴らしいわ

宝二郎…：いいなあ

竹庵…もうすぐ清水屋に到着するかもしれない！

お豊…あれ？そういえば竹庵先生、今日はどうしたんです？

竹庵…宝太郎に頼まれてな。おーい

奥から宝太郎がやってくる

宝太郎…竹庵先生、いらっしやいませ。

竹庵…おお、宝太郎や言われた通りこれをもってきたぞ

お豊…何です？

竹庵…癩の薬じゃ。もう切れたときいておったからな…

宝太郎…ありがとうございます。

受け取る宝太郎

お文…宝ちゃん、前にうちに泊まってくれたお客様が、また来てくださるんですって

宝太郎…そうかい、そりゃあ結構じゃないか

お豊…3年前ちょうど旦那様は倒れていた時のことなんですけどね

宝太郎…3年前…もしや、旅をしている男女の二人連れじゃないかい？

竹庵…おお、よう知つとるなあ

宝太郎…やっぱり、私はね娘さんの方に一度会ってるんですよ。たまたま、癩で苦しんで

いるところに居合わせて、持っていた薬を差し上げたんだ

お文…まあ、そうだったのね

竹庵…わしの薬は効き目は抜群じゃからな

宝太郎…愛嬌のある、可愛らしい娘さんだった…こんな娘さんが、宝二郎の嫁にきてくれたら

なんて思ったもんさ…お千代さんといったか、笑顔の愛らしい、いい名前に良く似合う
素敵な娘さんだったよ。

うなだれる宝二郎。なだめる3人 不思議そうな宝太郎

そこへ新吉とおみつがやってくる

新吉…すみません！ごめんください

お豊…はーい！あ、いらっしやいませ！

お光…3年ぶりに帰って来ました、またお世話になりますね

お文…まあ、立派になってお待ちしております。ようこそ清水屋へ

宝二郎…：うう、胃が痛くなってきた

宝二郎に菓を進める宝太郎と竹庵

新吉…懐かしい、あの頃と何も変わってないね、おみつ

お光…そうね、お前さん

お豊…ここの宿帳に名前を…って、わかりますよね

お光…ええ、もちろんです。

お豊…お風呂はそっちじゃなくて、こっち、ですからね？

新吉…大丈夫です！ もう心中岬には用事はありませんから

一同笑う

お光：あ！ いけない！ ちょうどくる途中お会いできたので、一緒にきたんです。

お文：一緒について誰とですか？

新吉：まっつておくんなさいね。ほら、どうぞ

やってくる お千代と源太

お千代：お久しぶりです…

お千代を見て、薬を落とす宝二郎

宝二郎：…お千代さん

源太：ごめんなすつて！疾風の源太、妹、お千代草鞋を脱がせていただきやす！

お豊：源太さん！！

お光…もー、私たちでつきり、お千代さんと若旦那様は夫婦になってるもんだと

思ってたんですよ？ね、お前さん

新吉…そうだね、お互いを守り合うあの姿、まさに愛が溢れていたものなあ

宝太郎…あ！ お千代さん…

お千代…宝太郎さん！！

お千代・宝太郎のそばにかけよる

お千代…ご無事だったんですね

宝太郎…お前さんも兄さんと巡り合えたんだね。

お文…ほら、宝二郎？

宝二郎…あの、えっと…お千代さん、私と一緒にしてもらえませんか！？

ざわつくまわり

宝二郎…あ、あの、できればで、いいんですが…その

源太…若旦那、三年もの長い間よくぞ待っていてくださいやした。

兄貴の俺からもお願いいたしやす、どうかお千代を幸せにしてやっておくんなさい！

お千代…兄さん…

お光…よかった！ やっぱり思い合う心って素晴らしいわ、ねえ、お前さん

新吉…そうだねお光

お文…それじゃあ、今日はおめでたいからお祝しちやおうかしら？

みんなわいわいと盛り上がる

お豊…わああああああ！！

みんないつせいに静かになる

お豊…何を呑気なこと言ってるんですか！！皆さん甘いですよ！！

竹庵…こりやお豊さんや、落ち着かんか…

お豊…いいですか！？ 良かったね、めでたいめでたいって、そんなんじや

いつ足元をすくわれるかわかりません！

若旦那様！所帯をもつなら、もつとしつかり商売のことを勉強してください！

宝二郎…わかったよ…

お豊…女将さんも！ ニコニコしてるだけじゃなく、もつとしつかりとしめるところは

しめて！大福ですぐにつられない！

お文…気をつけます…

お豊…お千代さんも！これから、若女将になるんですから、今までの気ままな旅人暮らしとは
わけが違うんです。性根すえて学んでください！

お千代…は、はい…すみません

宝太郎…お豊さん、そう目くじらをたてなくてもいいじゃないか

竹庵…そうじゃそうじゃ、全てのことは長い年月が関わって来る、いくぞ？

あ、桃栗三年柿八年♪柚子は九年の花盛り、枇杷は九年で成りかねる、梅はすいすい

十三年、すいすい泳ぐよ清水の海を♪はい！

全員…すーいすい！（木）

お豊以外が笑っている、それぞれの動き 徐々に暗転

エンディング【れ】恋慕笠END 源太

登場人物

宝二郎・お文・お千代・源太・権蔵・新吉・お光

清水屋店先 お千代と宝二郎板付き そこへお文がやってくる

お文：何してるの？こんなところで

宝二郎：おっかさん…

お文：あら、お千代さんのさしている簪とってもきれい…

お千代：ありがとうございます、若旦那様がくださったんです。

源太がやってくる

源太…ここにいたのか、お千代…もう旅に立たなきゃいけない、支度をしてきな

お千代…兄さんまってちょうだい！私、若旦那様の事が好きなの！このまま旅に立つなんて

いや！ 女将さんお願いします！私をこの清水屋においてください。

お文…お千代さん…

源太…馬鹿な事言ってるんじゃない！ そんなことできるわけねえだろ！

お文…源太さん、ちょっと待ってください。大切な妹さんだもの…心配なのはわかります

でも、二人の話も聞いてあげてみませんか？

源太…女将さん…ですが

宝二郎..源太さん！私はお千代さんが好きです、弱きで意気地のない私ですが

お千代さんといると強くなれる気がするんです、どうか、一緒に

させてください！お願いします！

源太..:

新吉とお光がやってくる

お文..ご出立ですか？

新吉..はい、江戸に戻ろうと思います！

お文..昨夜は騒ぎに巻き込んでしまい、申し訳ありませんでした。

お光..いえ、貴重な体験ができました。ね、新吉さん

新吉.. ああ、殺されるかもしれないと思ったら、猛烈に死にたくないって思えてきて..

不思議ですよ、心中するためにここまでやってきたっていうのに

お文.. まあ、それはそれは..

新吉.. あなた方のお互いを思い守り合う姿感動しました！

お光.. 愛し合う二人は、命をかけてでもお互いを思い合うんですよね！私、もう一度、

お父つつあんにお願いしてみようと思います。

新吉さんと一緒にさせてくれって.. ね？

新吉.. ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ.. 生きていけば、何度だって

やり直せる..

お光.. これはほんのお礼です。

お光、包みをお文に渡す

お文…ありがとうございます

新吉…本当にありがとうございます。さあ、おみっちゃん、おいらと一緒に

行こうじゃねえか

お光…ええ。

仲睦まじく出ていく二人

お文…あら…五両も！お客様、いけませんこんなに頂けません！

宝二郎…いいじゃないか、ありがたく受け取っておこうよ。

お文…：そうね、ありがとうございます。そうだわ、お千代さんの持ってきた五十両に、

不知火小僧のくれた五十両そしてこの五両で、百五両…：ふふ 清水一泊百五両ね！

お千代…：兄さんお願い、私、若旦那様が好きなの…

宝二郎…：源太さん、お願いします！

源太…：

旅支度姿の権蔵がやってくる

権蔵…：ごめんよ…：あ、文ちゃん

お文…：権ちゃん、どうしたの？その格好

権蔵…：俺あ…：旅に出ようと思っただから、その、お別れを言いに来たんだ

宝二郎…：親分さん、どうして旅になんて…

権蔵…随分と長い間、思ってきたがもう潮時かと思つてな。男の中の男、

浜名湖の権蔵、すっぱりとこの恋をあきらめようと思つてな…

お文…そうなの？　じゃあ、しばらくは権ちゃんに会えなくなるのね…寂しくなるわ

ところで…誰に恋してたの？

権蔵…！！

宝二郎…おつかさん！

権蔵…いいんだよ、宝二郎。そういうところも含めてオレは好きだったんだ…

お千代…親分さん…

お文…権ちゃん、昨日は、清水屋の危機に駆けつけてくれてありがとう、やっぱり権ちゃんは

頼りになる幼馴染だし、日本一かっこいい親分さんよ

権蔵…文ちゃん、ありがとうな。

鈴の音がする

源太…何の音だ？

お文…宝ちゃんだわ！枕元に、すぐならせるように鈴を置いておいたの！

宝ちゃんの目がさめたのよ！宝ちゃん！

お文 奥へ行く 見送る4人

権蔵…：そうか、宝太郎目が覚めたんだな。よかった。へへ、

源太…親分さん！よけりやああつしと一緒にめいりやしようか？

権蔵…ん？いいのか？

源太…へい、今までは妹と二人旅でござんしたが、今日を限りで、一人旅になりやしたんで

宝二郎…それじゃあ…源太さん！

源太…若旦那、お千代の事、お願いいたしやす！

宝二郎…はい！任せてください！

源太…お千代、必ず幸せになるんだぞ？兄ちゃんとの約束だ

お千代…ええ、兄さん…

権蔵…源太さんよう、おめえ本物だろうな？

源太…へい、その不知火小僧を今から探しにめいりやす、親分さんは？

権蔵…何も決めちゃいねえさ、ま、惚れた女を忘れるための旅、いわば、恋慕笠だな

源太…それじゃあ、親分さん、あつしと一緒に【木】めいりやしようか？

権蔵…おうさ！

源太と権蔵 決めて 宝二郎とお千代見送り 暗転

エンディング【そ】空は晴れても心は曇りEND 佐吉

登場人物

お豊・佐吉・平太郎・お静・お咲・新吉・お光

清水屋店先 お豊が板付きで掃除をしてる

佐吉..邪魔するぜ

佐吉がやってくる

お豊..いらつしやいませ..あ!

佐吉..ようお豊さん、昨日は大変だったな

お豊..懸賞金..五十両..

佐吉…おい、どうした？

お豊…不知火小僧！！覚悟ー！！

佐吉…は？ おい！落ち着け！オレだ！佐吉だつて！

お豊…昨日も佐吉の親方にばけてましたからね！もう騙されませんよ！！

佐吉…おいおい、冗談だろ！

お豊…待てー！！

お豊が佐吉を追いかけまわす　そこへ平太郎一家がやってくる

お咲…あれ？お豊さん？

平太郎…何だか騒がしい事になってんなあ…

お静…佐吉の親方が追いかけられてるなんて、何だか変な感じだねえ

佐吉…：はあはあ、お豊さんいい加減にしてくれよ

お豊…いやいや！不知火小僧なんでしょう！！白状しなさい！

佐吉…冗談じゃねえぞ！俺はこの宿場を守る、十手持ちだったのに

大泥棒の不知火小僧なわけねえだろ！！

お咲…そうですね、お豊さん、それにこの足の速さ、佐吉の親方に間違ひありません

何たって、簡単に清水から島田まで行けちゃうんですから

平太郎…へえー、そりやすげえや

お豊…んー、でも怪しいような…

お静…いくら不知火小僧でも、昨日現れた場所にまた、やってくることはないと思

いますよ？

お豊…そうですね？　じゃあ、佐吉の親方か。なーんだ

佐吉..なんだとはなんだ！

新吉..お世話になりました！

新吉とお光がやってくる

お豊..ご出立ですか？

新吉..はい、江戸に戻ろうと思います！

お豊..昨夜は騒ぎに巻き込んでしまい、申し訳ありませんでした。

お光..いえ、貴重な体験ができました。ね、新吉さん

新吉..ああ、殺されるかもしれないと思ったら、猛烈に死にたくないって思えてきて…

不思議ですよね、心中するためにここまでやってきたっていうのに

お豊..はあ？心中！？…まさかそんな事になっていたなんて…

新吉..あなた方の親子の情愛、感動しました!!

お光..親子の絆って本当に素晴らしいです!私も親子の絆を信じてもう一度、

お父つつあんにお願いしてみようと思います。

新吉さんと一緒にさせてくれて..ね?

新吉..ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ..生きていけば、何度だって

やり直せる..

お光..これはほんのお礼です。

お光、包みをお豊に渡す

お豊..ありがとうございます

新吉…本当にありがとうございます。さあ、おみっちゃん、おいらと一緒に

行こうじゃねえか

お光…ええ。

仲睦まじく出ていく二人

平太郎…なんか旅芸人みたいな二人だったなあ

お豊…やだあのお客さん五両もくれましたよ！

お咲…そんな大金を！？

お豊……ってことは、清水一泊百五両ですね！

佐吉…どういふこった？

お豊…お千代さんの返しにきた五十両と

お静…不知火小僧の返しにきた五十両がありますから。今の五両と合わせて百五両です。

お咲…やっぱり世間の噂通り、不知火小僧は困ってる人を助ける義賊だったんだね

平太郎…ああ、俺は偽物の口車にまんまと乗せられてたつてわけか…つくづく情けねえよ

佐吉…目明しの俺がいうことじゃねえが、本物の不知火小僧に感謝するんだな

もしも、本当に贋金なんて作った日にゃあ、今頃おめえさんもお縄になってたはずだ

平太郎……へい、まあ、あつしだったら本物と見分けがつかないほどの、精巧な小判を

作れますけどね？

お豊…おお！それなら、儲かりますねえ！！

お咲・お静・佐吉…調子にのるんじゃない！

平太郎・お豊…へへへ

お静…お前さん、もう二度と博打はやめておくれよ？

平太郎…ああ。わかつてるよ

お咲…約束だからね？

親子三人ゆびきりをする 鈴の音が鳴る

佐吉…なんだ？何の音だ？

お豊…旦那様です！ 枕元に鳴らせるように鈴を置いてありまして、きっと旦那様の

目が覚めたんですよ！

お静…お前さん、よかったね…

平太郎…ああ、これでちゃんと謝る事ができらあ

佐吉…良かったなあ、本当に良かった…宝太郎さんの無事がわかれば俺も一安心だよ。

お静…ええ、親方…いろいろとありがとうございます。

佐吉..なあに、また困った事があつたらいつでも頼つてくんなよ。

お咲..はい、ありがとうございます。

佐吉..それじゃあ、オレはこれで失礼するぜ

お豊..もう行つちやうんですか？

佐吉..世間の平和を守るために、オレは見回りをしなきゃいけないんでね

平太郎..親方、いろいろとありがとうございます！

お静..ありがとうございます。

佐吉 出ていく

お豊..それじゃあ、皆さんいきましようか？

平太郎..へい！

お咲…あの、お豊さん。ごめんなさい…やっぱりあたし、父ちゃんたちと帰ります。

まだまだこれからお店が大変なのはわかってるけど、でも…どうしても心配で…

お豊…うん、大丈夫よお咲ちゃん。だって家族が一番だもん。あたしはもちろん

女将さんも旦那様もきつとわかってくれるわよ

お咲…これからお店の為に頑張ろうと思ったのに、我儘いって本当にごめんなさい

お静…いいのかい？お前…せっかく仕事を覚えたっていうのに

平太郎…いいんだよ！ おめえがそんな事言ったらお咲の決心がにぶちまうだろ！

お豊…平太郎さんはお咲ちゃんと離れたくないようですね

お咲…あたしだって、大事な父ちゃんやおつかさんと離れたくありませんから

お静…お咲…

お咲…お豊さん、いろいろとありがとうございます！

お豊…また、清水屋に遊びにおいでよ？

平太郎…よし！それじゃあ兄貴のところへいくか！ ほら、お静、お咲ついてきな！

平太郎夫婦 奥へ

お咲…お豊さん？

お豊…旦那様も目が覚めた、お咲ちゃんたちもうまくいった…本当によかったわ

お咲…女将さんが言っていましたもん、そう思えばそうだって

お豊…確かにそうかもしれないわね、はあ…空は晴れても、心は曇り、

神様、お天道様、いいなり地蔵様！女中頭のこのお豊に、そろそろ春が（木）

きますように

徐々に暗転

エンディング【つ】強い絆の兄弟END 竹庵

登場人物

お文・平太郎・お静・お咲・竹庵・新吉・お光

板付きのお文

平太郎一家がやってくる

お咲…あ、女将さん、おはようございます！

お文…皆さん、おはようございます。平ちゃん、手の怪我は大丈夫？

平太郎…手当をしたのが、本物の竹庵先生じゃなかったからか、少し治りが遅いようで…

お静..しばらくは、仕事をお休みすることになりそうです。本当に、清水屋さんには

ご迷惑ばかりかけて申し訳ありません。

お文..いえいえ、お気になさらないください。そうですか..平ちゃんの手、早く

よくなってほしいですね。

お咲..女将さん、ごめんなさい、やっぱりいろいろ心配だし、

あたし、清水屋をやめて父ちゃんたちと帰ろうと思います。

お文..お咲ちゃん..そう、わかったわ。少しの間だけだったけど、清水屋のためにありがとう

平太郎..お咲.. 本当に帰るんだな？

お咲..うん！父ちゃんその手じゃ仕事にならないだろ？あたしが手伝ってあげるよ

お静..良かったね、お前さん

そこへ、新吉とお光がやってくる

お文：ご出立ですか？

新吉：はい！江戸にもどろうと思います！

お文：昨晩は騒ぎに巻き込んでしまつて、申し訳ありませんでした。

お光：いえ！貴重な体験ができました、ね、新吉さん

新吉：殺されるかもしれないと思つたら、猛烈に死にたくないと思えてきて…不思議ですよ

心中するためにここまでやってきたっていうのに

お文：え？心中！？そんな…

平太郎たちのところへ行つて

新吉：あなたの方の親子の情愛、感動しました！！

お光…親子の絆って本当に素晴らしいです！私も親子の絆を信じてもう一度、

お父つつあんにお願いしてみようと思います。

新吉さんと一緒にさせてくれって…ね？

新吉…ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ…生きていけば、何度だって

やり直せる

お光…改めて思いました、生きているって素晴らしい事なんだって

竹庵がやってくる

竹庵…そうじゃぞ、死んで花実が咲くならば寺や墓処は花盛りじゃ

平太郎…竹庵先生！？おめえ本物か！？

竹庵…なんじゃ、わしを疑つとるのか？ほれ、桃栗三年柿八年♪はいすーいすいとな！

どうじゃ、短縮版じゃが、この踊りのキレはわしじやろが

踊り出す竹庵 一同笑う

お光…これはほんのお礼です！

お光、お文に包みを渡す。

新吉…本当にありがとうございます、さあ、おみっちゃんおいらと一緒にいこうじゃねえか！

仲睦まじく去っていく新吉とお光

お文…まあ！五両も…いけません！お客様…

竹庵…もらっておきなされ、命を買ったと思えば安いもんじゃ

お文…そうですか？…ではありがたく…

お静…一晩でたくさんのお金がこの清水屋にきたんですね

竹庵…ああ、お千代さんのもってきた五十両に、不知火小僧の五十両、そして

その五両で、いうなれば清水一泊百五両じゃな。

平太郎…：贖金なんて作らねえで、本当によかったよ

竹庵…そうじゃぞ、もしもあの時にお前が贖金なんぞ作っておったら、今頃、お縄じゃ

島流しじゃすまんかもしれん…

お文…ほんと、不知火小僧のおかげね。

お静…お前さん、一度は途切れた縁が今やつとつながりかけているんだ、お兄さんの

目が覚めたら、仲直りしておくれよ？

平太郎…でもよう、二十年だぜ？ 今更どんな顔して会えばいいか…

お文…平ちゃん、大丈夫よ。宝ちゃんはきつと受け入れてくれる…だって、たった二人きりの

兄弟なんだから

平太郎…へい、そうかもしれないやせん。兄貴はいつだって、周りの人間も弟のオレのことだって

考えていてくれていたっけ

お咲…そうだよ、そうじゃなきゃ、いいなり地蔵に大金をもっていったりしないはずだもん

竹庵…平太郎や、宝太郎はな どれだけお前からの手紙を喜んでおったか…それに

あいつ自身も、お前に会うことを不安に想っておったんじゃないぞ、いいか？

もうけんかはするんじゃないぞ？

平太郎…ああ…

竹庵…ほれ、約束じゃ

指切りをする竹庵と平太郎

鈴の音が鳴る

お咲…この鈴の音…

鈴の音

お文…宝ちゃんだわ！枕元に鈴が置いてあつて、目が覚めたらすぐにならせるように

してあるの！

竹庵…それじゃあ、宝太郎の目が覚めたんじやな！

お文…ええ、宝ちゃん！！！！

お咲…よかった、旦那様の目が覚めて…

はけるお文

竹庵…どれわしらもいくかのう…

平太郎…竹庵先生！…俺、あの頃と何も変わってねえ…兄貴に勝てねえって、ふてくされて

悪態ついて…でもよう、本当は早く兄貴と昔のようになりたかったんだ…

寄り添うお静

平太郎…お静…

お静…あたしも一緒にいくからさ？

お咲…大丈夫だよ、父ちゃん、きつとうまくいく！

竹庵…平太郎や、お前の作る簪や飾りは立派じゃ、人は年月がたてば、成長する

草花のようにな、ほれ、桃栗三年柿八年♪

平太郎…ああ… お静！お咲、いくぞ！

平太郎一家 奥へ行く

竹庵…よかった…二十年ぶりの兄弟の再会か、これで清水屋も一安心じゃな

あとは平太郎の手が治ってくれりゃあいいが…

平太郎…おーい竹庵せんせー！！

竹庵…ああ、わかったわかった、今いくよ。

竹庵 奥へ行く 舞台空になってから徐々に暗転

エンディング【ね】願いは妹の幸せEND 源太

登場人物

お亀・宝二郎・お千代・源太・新吉・お光

板付きのお亀

奥から宝二郎がやってくる

宝二郎…お亀さん、うちに戻る事にしたんだね

お亀…ええ、いろんな職を転々としましたが、旅籠の女中が性にあってるようでして

宝二郎…そうかい…さすがだよ、それに比べて私は…

お亀…若旦那様、どうしたんです？

宝二郎…お父つつあんにも、おつかさんにも似てないのはどうしてだろう？

お亀…どういうことですか？

宝二郎…お父つつあんみたいに、商売もうまくなければ、人を惹きつける魅力もない

おつかさんみたいに、明るく前向きな人にもなれない…

お亀…うーん、でも旦那様みたいに優しいし、女将さんみたいに一途ですから

似てると思いますよ？

宝二郎…そうかなあ…

お亀…そうですよ。それより、お千代さんに思いは伝えたんですか？

宝二郎…いや、それがまだ…って、何で知ってるんだよ！

お亀…このお亀は何だってお見通しですからねえ

そこへ、新吉とお光がやってくる

お亀…ご出立ですか？

新吉…はい！江戸にもどろうと思います！

宝二郎…昨夜は騒ぎに巻き込んでしまい、申し訳ありませんでした。

お光…いえ、貴重な体験ができました。ね、新吉さん

新吉…ああ、殺されるかもしれないと思ったら、猛烈に死にたくないって思えてきて…

不思議ですよね、心中するためにここまでやってきたっていうのに

お亀…心中！？そりやまた、ぶっそうなこと…

源太とお千代がやってくる

新吉..あなた方兄妹の絆、感動しました!!

お光..そして、若旦那様の身を挺してかばう姿...とても愛を感じました!

新吉..生きて来た世界が違っても思いは通じ合うんですね!

お光..私、もう一度、お父つつあんにお願ひしてみようと思います。

新吉さんと一緒にさせてくれって...ね?

新吉..ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ...生きていれば、何度だって

やり直せる...

お光..これはほんのお礼です。

お光、包みをお亀に渡す

新吉…本当にありがとうございます。さあ、おみっちゃん、おいらと一緒に

行こうじゃねえか

お光…ええ。

仲睦まじく出ていく二人

宝二郎…これ、五両も入ってるよ！

お亀…太っ腹ですなえ

源太…いいじゃありませんか、清水屋に泊まった事であの二人には希望が見えたんだ
お亀…ですね、それにお千代さんが持って来てくれた五十両に、不知火小僧がくれた

五十両、そしてこの五両！一晩でこんなに大金が集まったんですから

源太…へい。清水一泊百五両でござんすね。

宝二郎…あの！本当にもう、行かれるんですか？

源太…へい、お世話になりやした。

お千代…：

源太…それじゃあ、ごめんなすつて。

歩き出す源太

宝二郎…源太さん！ちよつと待ってください！

お千代…若旦那様…

宝二郎…私は、お千代さんの事が好きです。今まで、弱気で自分に自信の持てなかった

私が、初めて強くなりたいと思ったんです。お千代さんを守るには

まだまだ頼りないかもしれませんが、どうか一緒にさせてもらえませんか？

お千代…兄さん私からもお願い！ 若旦那様のそばにいと、暖かい気持ちになって

とても幸せなの、このまま離れるなんて嫌…でも、そんな我儘言ったりしたら

兄さんが独りぼっちになってしまう…

宝二郎…お千代さん…

お亀…別にいいじゃないですか！今生の別れじゃあるまいし！

お千代…でも、ずっと二人で旅をしてきたんです。お父つつあんを探すために

私だけ幸せになるなんて…

源太…馬鹿だな…おめえの幸せが兄ちゃんの幸せに決まってるじゃねえか

お千代…兄さん…

源太…いつかはこんな日がくるんじゃないかと思ってたんだ…ちよいと早いような

気もしたが、いつの間にかおめえも大人になったって事なのかもな

お亀…源太さん、お二人のお父つつあんって…

源太…今さら隠したって仕方ねえか、へい、不知火小僧と呼ばれておりやす

お亀…え！！あの義賊と言われた！？ひえく、寝耳に水とはこのことですか

源太…どうにも逃げ足が速いもんであのクソ親父…、若旦那、お千代のこと、お願いいたしやす！

宝二郎…任せてください！必ず、幸せにしてみせます！約束します！

鈴の音がする

お千代…この鈴の音…

お亀…旦那様だ！枕元に、すぐにならせるように鈴をおいてあるんです！

旦那様の目がさめたんですよ！

源太…そいつはよかった、さあ、早くいってやっておくんない！

宝二郎…はい！お父つつあーん！！

お亀…旦那様！！！！

宝二郎とお亀はける

源太…いいのか？行かなくて

お千代…兄さんこのまま旅立つつもりなんでしょう？

源太……ばれたか

お千代…きつと、お父つつあんを連れてまた清水屋にもどってきてね

源太…当たり前だ、首に縄つけてでも連れて来てやらあ

お千代……気をつけてね

源太…心配すんな、オレを誰だと思ってんだ、疾風の源太だぞ？

お千代…そうね、兄さんはいつだって、強くてかっこよくて、私の自慢の兄さんよ

源太…おめえだって、オレの自慢の妹だよ

お千代…うん…

涙をたもとで拭くお千代

手ぬぐいで拭いてあげる源太

源太…泣いてりや、みんなが心配すらあ…おめえはいつでも笑ってな

お千代…わかったわ、兄さん。今までありがとう。

源太…お千代、おめえたちの幸せをどこにいたって【木】願っているからな

お千代 見送り 暗転

エンディング【な】涙味の大福 END 佐吉

登場人物

お豊・源太・お文・権蔵・佐吉・竹庵・新吉・お光

清水屋店先 権蔵が店にやってくる

権蔵..おう、ごめんよー。誰かいねえか？

奥からやってくるお豊

お豊..はい..あ、ハマゴン！

権蔵..また言いやがったな？

お豊..失礼いたしました！ ええと、みかじめ料ですよね。少々お待ちください！

権蔵…待ちな、今日はそれできたわけじゃねえんだ。宝二郎はいるかい？

お豊…いえ…若旦那様でしたら、今お客様とお話中にして…

権蔵…何だよ、この浜名湖の権蔵がきてるつてのに、それよりも大事な客つてことかあ？

お豊…まあまあ、親分さん。若旦那様の思い人でございますから…親分さんだつて

切ない恋心、わかるでしょ？

権蔵…まあな…ガキの頃から、言い出せないまんまだ…なるほど、宝二郎も好きな女が

できたつてことか。なるほどなあ…

お豊…でも、あの通りの気性ですから、どうなることやら…

権蔵…そんなもん一緒になりてえつて言えばいいじゃねえか

お豊…あの若旦那様にそんな度胸があるわけないじゃありませんか！

権蔵…だけだよー、伝えられなきゃオレみたいになつちまうぞ

新吉とお光がやってくる

お豊：ご出立ですか？

新吉：はい、江戸に戻ろうと思います！

お豊：昨夜は騒ぎに巻き込んでしまい、申し訳ありませんでした。

お光：いえ、貴重な体験ができました。ね、新吉さん

新吉：ああ、殺されるかもしれないと思ったら、猛烈に死にたくないって思えてきて…

不思議ですよ、心中するためにここまでやってきたっていうのに

権蔵：心中だあ？ そいつはおだやかじゃねえなあ…おめえさん方は夫婦かい？

新吉：いえ！まだ所帯を持ってはいません。でもいずれは…

お光..新吉さん..

新吉..おみっちゃんは江戸の料亭水月の一人娘で、おいらは、その奉公人で

身分が違うから、一緒にはさせてもらえなくて、だからここまで

駆け落ちしてきたんです。

お豊..そうなんです..それだけ、思い合ってるってことなんでしょね。それにしたって

心中だなんて..

権蔵..駆け落ちまでしてるんだ、それだけ強い想いなんだろうな..おめえら、

故郷へ帰ったら必ず幸せになるんだぜ？

新吉..もちろんです！ありがとうございます！

お光..私、一生新吉さんについていきます！

お豊..いつかまた、清水屋にきてくださいね。みんなでお待ちしています！

権蔵…なんだか、勇気をもらったような気がするぜ。これなら、俺もうまく言えそうな気がするよ。文ちゃんに、ずーっと前から伝えたかったことをな…

そこへ源太とお文がやってくる

源太…それじゃあ女将さん、お千代の事お願いいたしやす

お文…任せてください。権ちゃん、私に何を伝えるの？

権蔵…え、いや、その…

お豊…あれ？お千代さんと若旦那は？

源太…急なことで申し訳ありやせんが、お千代はこの清水屋に残ることになりやした。

お豊…そうなんですか！？

源太…へい、お豊さん…世間知らずの妹だがいろいろとよろしくお願いいたしやす。

お豊…：わかりました。あの、源太さんは女房とかそういうのは…

源太…あつしにはまだまだ、やるべきことが残っておりやすんで。

シユンとするお豊 佐吉がやってくる

佐吉…ごめんよ、邪魔するぜ！

権蔵…！！ おめえ本物か？不知火小僧じゃあるめえな？

佐吉…そう何度も同じ手にひっかかりやあしねえよ。正真正銘、目明しの佐吉だ。

源太…佐吉の親方、昨晚はいろいろとありがとうございやした。

お文…私からも言わせてください。源太さん、親方さん、それに奥で宝ちゃんを

見てくれている竹庵先生…そして、権ちゃん。清水屋を守ってください

本当にありがとうございします。

権蔵…文ちゃん…当たり前前だろ、オレは文ちゃんのためなら、例え火の中水の中

どこにだって駆けつけるんだからよ。

佐吉…あつしもこの宿場の平和を守る十手持ちなんでね、頼っておくんない！

新吉…やっぱり清水はいいなあ…最後に泊るところをこの旅籠にして本当によかったよ

お光…もう最後じゃないでしょ？

お文…最後？

新吉…ああ、そうだったね。皆さん、本当にありがとうございました。

お光…私たちに足りないものがわかりました。もう一度、お父つつあんに

お願いしてみようと思います。新吉さんと一緒にさせてくれって…

新吉…ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ…生きていけば、何度だって

やり直せる…

お光…これはほんのお礼です。

お光、包みをお文に渡す

お文…ありがとうございます。

新吉…本当にありがとうございます。さあ、おみっちゃん、おいらと一緒に行くこうじゃねえか

お光…ええ。

仲睦まじく出ていく二人

お文…まあ五両も！　こんなにいただけません！お客様！

お豊…いいじゃありませんか、あの二人…駆け落ちして心中するつもりで

うちに泊まりに来たらしいですよ。

源太…何ですって！？そんな風には見えなかったが…

権蔵…昨晚の騒動で、もう一度生きてみようと思えたんだろう。文ちゃん、その銭はあの二人の

命の代金だ。きちんと受け取ってやるといいさ

お文…そうね…、有難く頂戴します。

お豊…あれ？という事は…お千代さんの持ってきた五十両に不知火小僧がくれた五十両、

そして、この五両…合わせて百五両ですよ！

佐吉…清水一泊百五両ってわけだな

奥から竹庵の声

竹庵…おーい！大変じゃ！宝太郎の目が覚めたぞ！！

驚く一同

お豊…女将さん！行きましたよう！

権蔵…文ちゃん、良かったな…俺は、昔からおめえの笑顔が大好きだ。

これですーっと安心して笑っていられるな。

お文…：うん！

お文お豊と奥へ行く

源太…宝太郎さんが無事で本当に良かった…

佐吉…まったくだ…平太郎さんの疑いも晴れたし、いいことづくめだ、なあ、権蔵さん

権蔵…：

後ろ向いてる権蔵

佐吉…そーい、やあ、行きつけの甘味屋さんだっけか？良かったら連れてってくんないよ

源太…あつしも甘党なもんで、お供いたしやすぜ

佐吉…いろいろあるんだろ？ 大福に、団子に…

源太…おしるこに、金平糖…

権蔵…おう、どれもうめえが…ちよいと今日は何を食べても(木)しょっぱくなりそうだ

三人 ほがらかな雰囲気 権蔵だけちよつとしょんぼり 暗転

エンディング【ら】楽観的はいいものだEND 竹庵

登場人物

平太郎・お静・お咲・竹庵・お亀・新吉・お光

板付きの平太郎一家とお亀

お咲…お亀さん、いろいろとお世話になりました。

お亀…いやいや！こちらこそ。それにしても、本当に清水屋をやめちゃうなんて、寂しく

なりますねえ

平太郎…おめえさんはやくざの子分からは、足を洗ったのかい？

お亀…へい、次はせっかく遠州にいるんだから漁師にでもなろうかと！

お静…漁師っていういろいろと大変なような…

お亀…うーん、たった一度の人生ですからね。難しい事や困難な事も、できる！大丈夫って
想いながら挑戦してるんです！

平太郎…そういう楽観的なほうが、人生楽しいのかもしれないねえな

お静…ちよいとお前さん言い方！

お亀…女将さんも言っていました、そう思えばそうだって。できないとか、無理！って

思えば、本当にできなくなっちゃいますから！

お咲…私もそう思います！！…あれ？ところでお豊さんはどちらに？

お亀…今源太さん達をお見送りしているので、もしかしたら途中で会うかもしれませんね

若旦那様まで出払ってしまったって、あたしは今、臨時の店番です。

平太郎…見送りって、何だよ。俺達の見送りはねえのか？

お咲..仕方ないよ、だってお豊さんは源太さんは好きなんだから..

お静..まあわかるよ。源太さんはかっこいいからねえ

平太郎がむっとしていると、新吉とお光がやってくる

お亀..ご出立ですか？

新吉..はい！江戸にもどろうと思います！

お咲..昨晩は騒ぎに巻き込んでしまつて、申し訳ありませんでした。

お光..いえ！貴重な体験ができました、ね、新吉さん

新吉..殺されるかもしれないと思つたら、猛烈に死にたくないと思えてきて..不思議ですよね

心中するためにここまでやってきたつていうのに

お亀..心中！？..やっぱり何か怪しい気がしてたんですよ！

平太郎たちのところへ行つて

新吉..あなた方の親子の情愛、感動しました!!

お光..親子の絆って本当に素晴らしいです!私も親子の絆を信じてもう一度、

お父つつあんにお願いしてみようと思います。

新吉さんと一緒にさせてくれって...ね?

新吉..ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ...生きていれば、何度だって

やり直せる

お光..改めて思いました、生きているって素晴らしい事なんだって

竹庵がやってくる

竹庵…そうじゃぞ、死んで花実が咲くならば寺や墓処は花盛りじゃ

平太郎…竹庵先生！？おめえ本物か！？

竹庵…なんじゃ、わしを疑つとるのか？ほれ、桃栗三年柿八年♪はいすーいすいっとな！

どうじゃ、短縮版じゃが、この踊りのキレはわしじゃろが

踊り出す竹庵 一同笑う

お光…これはほんのお礼です！

お光、お亀に包みを渡す。

新吉…本当にありがとうございました、さあ、おみっちゃんおいらと一緒にいこうじゃねえか！

仲睦まじく去っていく新吉とお光

お亀…これ五両も入ってますけど…

お咲…そんなに!?

お静…昨夜でたくさんのお金がこの清水屋にきたんですね

竹庵…ああ、お千代さんのもってきた五十両に、不知火小僧の五十両、そして

その五両で、いくなれば清水一泊百五両じゃな。

平太郎…：贖金なんて作らねえで、本当によかったよ

竹庵…そうじゃぞ、もしもあの時にお前が贖金なんぞ作っておったら、今頃、お縄や

島流しじゃすまんかもしれん…

お亀…悪い事っていうのはいつかはバレるもんだし、罰は当たりますからね

平太郎…ああ…本当にそう思うよ。

お静…お前さん、一度は途切れた縁が今やとつながりかけているんだ、お兄さんの

目が覚めたら、仲直りしておくれよ？

平太郎…でもよう、二十年だぜ？今更どんな顔して会えばいいか…

お亀…そんな弱気な事いつててどうするんですか！大丈夫ですよ。旦那様だって

仲直りしたいって思ってるはずですから。ほら、楽観的に考えましょ！

平太郎……そうか？

お咲…そうだよ、そうじゃなきゃ、いいなり地蔵に大金をもっていったりしないはずだもん

竹庵…平太郎や、宝太郎はな どれだけお前からの手紙を喜んでおったか…それに

あいつ自身も、お前に会うことを不安に想っておったんじゃないぞ

平太郎…わかった、そうだよな。もう意地張ったりしねえ。

竹庵…素直になれ、もう喧嘩はするんじゃないぞ？ 約束じゃ

指切りをする竹庵と平太郎

鈴の音が鳴る

お咲…この鈴の音…

鈴の音

お亀…旦那様です！枕元に鈴が置いてあって、目が覚めたらすぐにならせるように

してあるんです！

竹庵…それじゃあ、宝太郎の目が覚めたんじゃない…！…

平太郎…：

寄り添うお静

平太郎…お静…

お静…心配いららないよ、少しずつ、二十年の年月をうめていきやあいいんだから
お咲…不知火小僧のおかげで、あたしたちちゃんと親子になれたんだもん。

きつと父ちゃんだって大丈夫だよ

竹庵…平太郎や、お前の作る簪や飾りは立派じゃ、人は年月がたてば、成長する

草花のようにな、ほれ、桃栗三年柿八年♪とな

平太郎…：

竹庵…やれやれ、ほんに世話のかかるやつじゃな。一緒にいってやるか

平太郎…すまねえ…

平太郎と竹庵 奥へ行く

お亀…風の噂で聞きましたけど、お咲さんとお静さんも仲直りはちゃんとできました？

継母と継子のなさぬ仲！

お咲…もう！茶化さないでください！ それはもう、大丈夫です！ちゃんと解決しましたから

お亀…ほう、それはそれは

お咲…あたしにとって、母ちゃんは死んだ母ちゃんしかないけど、でも、

おつかさんも、おつかさんしかないし、間違いなくあたしはおつかさんの娘だって

昨日思ってたんだよ…

お静…お咲…

お咲…子供を産むときって、命を懸けて産むって聞いた事があるの、すごく痛くて苦しいって

昨日は、おっかさんが死ぬ気であたしを守ってくれて、父ちゃんも、あたしや母ちゃんを
痛い思いして守ってくれた…家族になれたんだって思ったよ。だから、その…

うまく言えないけど…これからもよろしくね！

お静…お咲、ありがとう。

拍子木なし 徐々に暗転

エンディング【む】胸三寸END 源太

登場人物

宝二郎・お文・お千代・源太・新吉・お光

お文と宝二郎が板付き

宝二郎…：昨日は、本当にいろんなことがあったね

お文…：そうね、二十年ぶりに平ちゃんがやってきて、入ったばかりのお咲ちゃんが娘で

宝二郎…：まさか清水屋に不知火小僧が現れるだなんて思ってもみなかったよ。

お文…：でも、世間の噂通り、困ってる人を助ける素敵な義賊だったわね

宝二郎…：そうだね…：はあ…

お文…：宝二郎？

宝二郎…ねえ、おつかさん。…おつかさんから見て、私はどんな息子だろう？

お文…どうしたの？急に

宝二郎…いつも、お父つつあんみたいに商売もうまくないし、自信もない、気弱な

気性が本当に嫌だったんだ…どこか逃げているような…

お文…そんな事ないわ。宝二郎は宝二郎、宝ちゃんは宝ちゃんでしょ？

それぞれにいい所はたくさんあるんだもの。

宝二郎……同じことを言われたよ。

お文…ふふふ、お千代さん？

宝二郎……ああ。

お文…昨日、あんなに必死になって守って…宝二郎のあんな姿、初めて見たわ。

本当に好きな人のためなら、命だって惜しくないって事なのよね…

後悔しないように、ちゃんと言いなさい。自分の気持ちを伝えるのよ

宝二郎…でも、うまくいくか…

お文…大丈夫よ、悪く考えるのはダメ。いつも言ってるでしょ？そう思えばそうだって

宝二郎…ああ。そうだね…私はいつも悪い方へ考えてしまう…

お文…それに、当たってただけろっていうじゃない？外れてもともとよ

宝二郎……そうだね。頑張ってみるよ

源太とお千代がやってくる

お文…もう行かれるんですか？

源太…へい。いろいろとお世話になりました。

宝二郎…お千代さん！…私は貴女の事が好きです。気弱で意気地のない私ですが
あなたといると強くなれる気がするんです…、どうか、私と一緒に
もらえませんか？

お千代…若旦那様…私も、若旦那様のそばにいと暖かい気持ちになれるんです。
このまま離れたくなくてありません。ずっと、ずっとそばにいたいんです。
でも…

お千代がお文を、宝二郎が源太の様子をうかがう。

お文…源太さん、私からもお願いです。二人を許してあげてもらえませんか？

源太…女将さん、すいやせんが妹をもらっちゃあもらえませんか？

お文…え？

源太…あれ？

お文…お千代さんと宝二郎のこと、認めてくださるんですか？

源太…二人の事を許してくださるんです？

全員 気が抜けたように笑い合う

お千代…ありがとうございます！

宝二郎…ありがとうございます！

新吉とお光がやってくる

お文…ご出立ですか？

新吉..はい、江戸に戻ろうと思います！

お文..昨夜は騒ぎに巻き込んでしまい、申し訳ありませんでした。

お光..いえ、貴重な体験ができました。ね、新吉さん

新吉..ああ、殺されるかもしれないと思ったら、猛烈に死にたくないって思えてきて..

不思議ですよね、心中するためにここまでやってきたっていうのに

お文..まあ、心中だなんて..

お千代たちのそばに駆け寄る新吉お光

新吉..あなた方のお互いを思う心、感動しました！！

お光..命がけで相手を思う強さ..私たちに足りないものがわかりました。

新吉..身分や育ちなんて、関係ない、今まで生きてきた世界が違ってたって

そんなことはどうでもいいんだ。だって、こんなに好きなんだから…!

お光..もう一度、お父つつあんにお願いしてみようと思います。

新吉さんと一緒にさせてくれって…ね?

新吉..ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ…生きていれば、何度だって

やり直せる…

お光..これはほんのお礼です。

お光、包みをお文に渡す

お文..ありがとうございます。

新吉…本当にありがとうございました。さあ、おみっちゃん、おいらと一緒に

行こうじゃねえか

お光…ええ。

仲睦まじく出ていく二人

源太…あつしらの知らない間に、人助けができてたってことですね

お文…ええ。あら、まあ大変！五両も入ってるわ。

宝二郎…そんな大金が…

源太…いいじゃありませんか、命をもらった分だとすりゃあ安いもんですよ

お文…そうですね…、あ、お千代さんが持って来てくれた五十両と、不知火小僧の

くれた五十両、それにこの五両で…一晩で百五両ものお金が清水屋に入ったことになり
ます。ふふふ、清水一泊百五両だわ

お千代…お父つつあん、私たちを助けてくれたんだもの…捨てられたわけじゃないのよね？

宝二郎…お父つつあん？

源太…へい…実はあつしらは、お父つつあんを探して旅をしてめいりやした。

大泥棒で義賊、七化けと異名をもつ、不知火小僧があつしらの親父なんでさあ

お文…まあ、そうだったんですね。

宝二郎…あ、ということは昨晚、源太さんに化けていたのが…

源太…へい、まさか息子に化けるたあ、舐めたまねしてやがりますよね。

お千代…初めの頃は、これだけ探しても会えないからもしかしたら避けられているんじゃないかって思ったんです。もう、私たちのこと、忘れちゃったのかな？って

お文…そんなことないですよ。きっと、あなた方兄妹のことを大事に思っているに

決まっています。だって、昨日だって助けにきてくれたじゃありませんか

宝二郎…そうですね、悪く考えちゃいけません。そう思えばそうなってしまいうんですから

源太……さようでござんすね。ありがとうございます。

お文…そうですね、全ては人の胸三寸…源太さんのお父様も見つかる、宝ちゃんだって良くなる、この清水屋も立て直せる…そう思えばそうなんです。

鈴がなる

お千代…この音は…

宝二郎…お父つつあんだ！枕元にすぐ鳴らせるように鈴を置いておいたんです！

おつかさん、お父つつあんの目がさめたんだよ！

お文…ええ！ 行きましょう！ 宝ちゃーん！

宝二郎…お父つつあーん！！

お文と宝二郎が奥へ行く

お千代…よかった。これできちんと宝太郎さんにお礼が言えるわ

源太…そうだな、兄ちゃんも挨拶しねえといけねえ

お千代…ねえ、兄さん…必ずお父つつあんのこと、見つけてちょうだいね

源太…おう。親父におめえの花嫁姿みせてやらねえと、死んだおつかさんに

申し訳ねえからな…いいか？お千代、幸せになるんだぜ

お千代…ええ、兄さんも体につけてね。

源太…約束だ…

二人 ゆびきり 笑い合って奥へいく ゆっくりと暗転

エンディング【う】嘘つきは泥棒のはじまり END 佐吉

登場人物

お亀・佐吉・権蔵・竹庵・新吉・お光

清水屋店先 権蔵が店にやってくる

権蔵..おう、ごめんよー。誰かいねえか？

奥からやってくるお亀

お亀..はい、あ！親分！

権蔵..お亀、なんだおめえ清水屋に戻ったのか？

お亀..へい！ せっかく盃もらって子分にしてもらったのにすいやせん…

権蔵…盃も何も、一緒に茶飲んだだけだろうよ。まあ、こっちの方がおめえには

会ってるのかもしれないねえがな

お亀…旅籠で女中をしていたら、いろんなお客様に出会えますからねえ

権蔵…それで、昨日から何か変わりはあったか？不知火小僧は

捕まったんだろ？

お亀…いやいや、ですから！あいつは不知火小僧じゃなくて、不知火小僧を騙ってた

悪い奴なんですよ。

権蔵…おお！何だかわからねえが、やっぱり悪いやつだったんだな！

お亀…まあ、いいです。それで今日はどうしたんです？

権蔵…おお、文ちゃんいるかい？

お亀…女将さんなら旦那様に付きっ切りですけど…あれ？もしかしてそれ…

権蔵..おう、大福は断ってるって聞いたからよ、団子買ってきたんだ！

新吉とお光がやってくる

お亀..ご出立ですか？

新吉..はい、江戸に戻ろうと思います！

お亀..昨夜は騒ぎに巻き込んでしまい、申し訳ありませんでした。

お光..いえ、貴重な体験ができました。ね、新吉さん

新吉..ああ、殺されるかもしれないと思ったら、猛烈に死にたくないって思えてきて..

不思議ですよね、心中するためにここまでやってきたっていうのに

お亀..心中って!...うそでしょ!まさかそんな事が..

佐吉がやってくる

佐吉…ごめんよ、邪魔するぜ！

権蔵…おう、誰かと思ったら佐吉じゃねえか、昨日はお互い大変だったな

佐吉…ああ、だが命に別条がなくて本当によかったよ。それで、おめえさん方も

大丈夫かい？

新吉…はい！親方さんも、親分さんもありがとうございました！

お光…三人が勇敢に戦ってくれたおかげで、本当に助かりました！

権蔵…なあに、いってことよ

佐吉…十手持ちとして当然のことをしたまですよ。ところで、他の客人はもう草鞋を

脱いだのかい？

お亀…ああ、源太さんとお千代さんなら、奥でちよつともめてるみたいですよ。

権蔵..もめてるってのはどういうこった？

お亀..一緒になりたい、離れたくないって言ってるお千代さんと若旦那に、父親捜しが
終わるまで待ってって言ってる源太さんです。

新吉..おみっちゃん、好きなもの同士..反対されるのは辛いよね

お光..ええ、私たちはその気持ちよくわかります..

お亀..まあそりゃ、駆け落ちまでしたんだからそうでしょうねえ

新吉..でも！お互いを思い合う二人の絆、深い親子の愛情、昨日のことで本当に感動したんです。

お光..私たちに足りないものがわかりました。もう一度、お父つつあんに

お願いしてみようと思います。新吉さんと一緒にさせてくれって..

新吉..ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ..生きていけば、何度だって

やり直せる..

お光…これはほんのお礼です。

お光、包みをお亀に渡す

お亀…ありがとうございます。

新吉…本当にありがとうございます。さあ、おみっちゃん、おいらと一緒にいきましょうねえか

お光…ええ。

仲睦まじく出ていく二人

お亀…わ！ 五両も入ってる！あれ？という事は…お千代さんの持ってきた五十両に

不知火小僧がくれた五十両、そして、この五両…合わせて百五両ですよ！

権蔵…おお、清水一泊百五両だな

奥から竹庵の声

竹庵..おーい！大変じゃ！宝太郎の目が覚めたぞ！！

お亀..聞きましたか！？

権蔵..おう！宝太郎の目が覚めたんだ！こうしちやいらねえ

お亀..親分！？どこいくんですか！

権蔵..決まってるんだろ！粒あんの大福買って来るんだよ

急いで出ていく権蔵

お亀..え..あ、ちよつと！..行っちゃった。

佐吉…宝太郎さん、目が覚めて本当に良かった。これで俺も安心だよ。それじゃあ、

俺は見回りにいってくらあ

お亀…へ？ 会わなくていいんですか？ 旦那様に

佐吉…急に大勢で押しかけても、驚いちまうだろ。それより…旅の兄妹に伝えてくん

これは老婆心からいう事なんだが…、親つてのはどこにいたって、子供の事を

思い、気にかけているもんだ…今はよんどころない事情があつて、会えねえのかも

しれねえが…そのために、好きなお人との事をあきらめる事はねえと思う。

まあ、何が言いたいかつていうとだ…心配しなくても、時がくりやあ、

何とかなるってことだよ。

お亀……わかりました。親方、捜査は？

佐吉…ん？ 今は何も調べちゃいねえよ。平和を守るための見回りだ。

お亀…怪しいと思ったら？

佐吉…ん？何の話をしてんだ、怪しいならすぐに知らせてくんなよ

お亀…：行くぞ？

佐吉…？

お亀…まったく、詰めが甘いですよ！ でもちゃんと思いは伝わりました。任せてください

ちゃんと息子さんと娘さんには伝えますからね！

佐吉…ああ。ありがとよ…って、え？ あ…：ばれたか(木)

佐吉※不知火小僧 しまったという表情

店奥を気にしながら お亀に託して出ていく

もどかしい気持ちを持ちながら見送るお亀 暗転

エンディング【あ】妹との別れEND 竹庵

登場人物

お豊・源太・お千代・竹庵・宝二郎・新吉・お光

清水屋店先 お豊と竹庵が板付き

竹庵…なるほど…そういう事じゃったのか

お豊…明かりが消えてそこにいたはずの竹庵先生がいないんですもん。

びっくりしちゃいましたよ。

竹庵…わしが雛菊さんに夢中になっておる間にそんな事になっていようとは…

お豊…でも、みんな無事で本当に良かったですよ。まあ、平太郎さんの手は心配ですけど…

職人なのに利き手を怪我するなんて、大丈夫ですか？

竹庵…ああ、わしがすぐにみてやりやあ良かったんじゃがな…あれは随分と傷が深い…

前のように仕事ができるかどうかは…

お豊…そんな…

お千代と宝二郎がやってくる

宝二郎…あの、お千代さん…!!

お千代…若旦那様…

二人見つめあうが何も言い出せない宝二郎

新吉…お世話になりました!

新吉とお光がやってくる

お豊…ご出立ですか？

新吉…はい、江戸に戻ろうと思います！

お豊…昨夜は騒ぎに巻き込んでしまい、申し訳ありませんでした。

お光…いえ、貴重な体験ができました。ね、新吉さん

新吉…ああ、殺されるかもしれないと思ったら、猛烈に死にたくないって思えてきて…

不思議ですよ、心中するためにここまでやってきたっていうのに

お豊…そうなんです…心中…心中！？やっぱり何か怪しいと思ってたんですよ！

お千代たちのそばに駆け寄る新吉お光

新吉…あなた方のお互いを思う心、感動しました！！

お光..命がけで相手を思う強さ..私たちに足りないものがわかりました。

新吉..身分や育ちなんて、関係ない、今まで生きてきた世界が違ってたって

そんなことはどうでもいいんだ。だって、こんなに好きなんだから..!

お光..もう一度、お父つつあんにお願いしてみようと思います。

新吉さんと一緒にさせてくれって..ね?

新吉..ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ..生きていれば、何度だって

やり直せる..

お光..これはほんのお礼です。

お光、包みをお豊に渡す

お豊..ありがとうございます。

新吉…本当にありがとうございました。さあ、おみっちゃん、おいらと一緒に

行こうじゃねえか

お光…ええ。

仲睦まじく出ていく二人

お豊…お幸せにー…あらやだ、五両も入ってるじゃない！

竹庵…何じゃと！それじゃあ、お千代さんの持ってきた五十両に不知火小僧がくれた五十両、

そして、この五両で清水一泊百五両じゃな。宝二郎や、これで清水屋を

やり直す事もできるな。

宝二郎……はい、本当に皆さんに支えられてばかりで。私は一人じゃ何もできません

つくづく情けない男です…

お豊…もう！若旦那様、気の優しいのはいいところかもしれませんがね！

俯いてばかりいないで、ちゃんと前を見ないと進む事はできないんですよ？

源太…お豊さんの言うとおりで。

源太 出て来る

お千代…兄さん…

源太…おめえさんがそんな弱気じゃ、あつしだつて安心して大事な妹を託すことは

できやしねえ。どうか、男を見せてやっておくんなさい。

竹庵…宝二郎。しつかりせんか！

宝二郎…源太さん！ 私はお千代さんが好きです！意気地のない、気の弱い気性の私ですが

お千代さんと一緒にいたら強くなれる気がするんです！…必ず幸せにします。

どうか、一緒にさせてください！

お豊…それじゃあ私も女を見せて源太さんに想いを…

竹庵にたしなめられるお豊

お千代…私も！若旦那様のそばにいと暖かい気持ちになれるの…このまま離れるなんて嫌

ずとずっと一緒にいたいわ。でも、私が残ったら兄さん一人になってしまう…

源太…：かわいい妹のためだ、兄ちゃんのことなんて気にするな。まあ、ずっと

兄妹二人で旅をしてきたんだ。寂しくないと言ったらウソにならあな。

お豊…だったらあたしが一緒に…

源太…お断りします

お豊…そんなあああ!!!!

泣き崩れるお豊を慰める竹庵

源太…若旦那…妹をお願いします。

宝二郎…任せてください。

源太…竹庵先生…おめえさん、本物の竹庵先生で間違いござんせんか？

竹庵…ああ、昨日は不覚にも化けられてしまったがな…

源太…さようで。お千代の事、くれぐれもよろしくお願いいたしやす。

竹庵…ああ、頼まりましたぞ

源太……くれぐれも、しりなんて触らねえように

竹庵…わかつとるわかつとる！源太さん、あんた目が怖いぞ

源太…お豊さん、おめえさんは清水屋にはなくてはならないお人だ。何たって

女中の中の女中でござんしょ？お千代のこと、お願いいたします。

お豊…：わかりました。

源太…お千代。今まで散々苦勞してきたんだ…必ず幸せになるんだぞ。

お千代…兄さん…

二人指切りをする。鈴の音が聞こえる。

源太…なんだ？

宝二郎…お父つつあんだ！ 枕元に鳴らせるように鈴を置いてあるんです！

お豊…目が覚めたんですね！

宝二郎…私、ちよつと行つてきます！

奥へ行く宝二郎。

源太…おめえもいつてきな。

お千代…ええ、宝太郎さんに紹介したいから兄さんも早くきてね

源太…ああ

お豊…さあ、お千代さんいきましょ！

お千代…はい！兄さん先にいつてるから、早くきてちようだいね

奥へ行くお千代とお豊。

源太…それじゃあ、ごめんなすつて

竹庵…このまま行ってしまうのかい？

源太…湿っぽいのはどうにも苦手です…それに、不知火小僧はまだ遠くには

行ってねえはずだ。今度こそ、捕まえてやろうと思いやしてね

竹庵…源太さんや、お前さん方兄妹と不知火小僧はもしや…

源太…竹庵先生、そつから先は言っちゃあいけねえ、お千代はこれから清水屋の若女将だ

父親が泥棒、兄貴が渡世人じゃあ、世間のお人は黙っちゃいねえだろう…

あつしはこのまま、旅に立たせていただきやす！待ってるよ不知火小僧

必ず見つけ出したそのうえで親子の名乗りを【木】してやるからな

竹庵 見送り 暗転

エンディング【の】望みを叶えてEND 源太

登場人物

お亀・佐吉・源太・お千代・新吉・お光

清水屋店先 お亀が板付きで掃除をしてる

佐吉..邪魔するぜ

佐吉がやってくる

お亀..いらつしやいませ..あ！

佐吉..お、なんだ、おめえ清水屋に戻ったんだな。そのほうがおめえには合ってるよ

お亀..はい、いろんな職を経験しましたがけど、やっぱり清水屋が落ち着きます！

佐吉…それにしても、昨日は大変だったな…

お亀…ほんとですよ！それで親方、七首半次は…

佐吉…安心しな。俺がきっちり番屋に連れて行つたさ、今回はスリだけじゃあねえ

贖金作りなんてたいそうなもんを企んでいたんだ、おそらく島流しだろうな

お亀…それにしたって、不知火小僧が助けてくれるだなんて思ってもみませんでしたよ

佐吉…目明しとしては、あまり喜ばしいことじゃねえが…

お亀…何いってんですか！ 不知火小僧といえ、困ってる人を助ける義賊！そして

二人…七化けの異名をもつ大泥棒！！

顔を見合わせる二人

お亀…親方は…本物の親方でしょうね？

佐吉..おいおい、何いってやがんだ

お亀..だって、昨日の源太さんだってそっくりでしたもん！

佐吉..まあ、確かにな..

新吉..お世話になりました！

新吉とお光がやってくる

お亀..ご出立ですか？

新吉..はい、江戸に戻ろうと思います！

お亀..昨夜は騒ぎに巻き込んでしまい、申し訳ありませんでした。

お光..いえ、貴重な体験ができました。ね、新吉さん

新吉..ああ、殺されるかもしれないと思ったら、猛烈に死にたくないって思えてきて..

不思議ですよ、心中するためにここまでやってきたっていうのに

お亀.. はあ？心中！？...また最後にとんでもねえネタぶっこんできましたね...

源太.. お世話になりやした！

やってくる源太とお千代

お亀.. もうご出立ですか？

新吉.. あなた方の兄妹の情愛、感動しました！！

お光.. 家族の絆って本当に素晴らしいです！私もその絆を信じてもう一度、

お父つつあんにお願ひしてみようと思います。

新吉さんと一緒にさせてくれって...ね？

新吉.. ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ...生きていれば、何度だって

やり直せる...

お光.. これはほんのお礼です。

お光、包みをお亀に渡す

お亀.. ありがとうございます

新吉.. 本当にありがとうございます。さあ、おみっちゃん、おいらと一緒に

行こうじゃねえか

お光.. ええ。

仲睦まじく出ていく二人

源太…よくわからねえが、感謝されちまった

お亀…ありゃ！あのお客さん五両もくれましたよ

お千代…五両！？そんなに？

お亀…いやーこれで百五両か…さしづめ、清水一泊百五両ってとこでしようか？

佐吉…どういうこった？

お亀…お千代さんの返しにきた五十両と不知火小僧の返しにきた五十両がありますから。

今の五両と合わせて百五両です。

お千代…やっぱりお父つつあんは困ってる人を助ける義賊だったのね

源太…ああ、間違いねえ

佐吉…源太さんにお千代さん…おめえさん方もしかして、不知火小僧の…

源太…：へい、目明しの親方に話す事じゃあねえが、お察しの通り、あつしらは

天下の大泥棒、不知火小僧の息子と娘でございやす。

お亀…うえ！？ そうなんですか！？

源太…あまり大きな声じゃあ言えやせんが、ずっと父親を探すために兄妹で旅をして

めいりやした。

佐吉…なるほどな…今まで素性が謎だった不知火小僧だが、まさかこんな大きな子供が

いたとは…

お千代…親方さん！でも、兄さんや私は、人のものを盗んだりなんてしませんから！

佐吉…ああ。わかってるよ

お千代…お父つつあんも、困ってる人を助ける義賊なんです！ 今までは探してても

会えなくて…もしかしたら、避けられているのかもしれないっておもってました。

だけど、昨日助けにきてくれて、確信しました。やっぱりお父つつあんは

私たちの事もちゃんと思ってくれてるんだって…

鈴の音が鳴る

お亀…旦那様だ！ 枕元に鳴らせるように鈴を置いてあるんです！旦那様の目が覚めたんです

私、ちよつといつてきます！ 女将さーんー！女将さーんー！！

奥へ行くお亀

お千代…良かった…宝太郎さんの目が覚めて、これでもう思い残しはありません。

兄さん、行きましようか。

源太…：お千代、思い残し、まだあるんじゃないかねえのか？

お千代…え？

源太…：兄ちゃんが何も知らねえと思ってるのか？その髪の毛…、おめえにはまだまだ

伝えなきゃいけないことがあるんだろ？

お千代…兄さん…

佐吉…ん？どういうこった？

源太…：仕方ねえ、兄ちゃんも一緒にいってやるよ

佐吉…：おい、何のことだよ

お千代…：ええ、ありがとう…：兄さん…

源太…：さ、佐吉の親方もめいりやしよう。宝太郎さんに会いに

佐吉…何だかわからねえが、そうだな…清水屋の宝太郎さんの無事がわかったんだ、

お亀から聞いたぜ。お千代さん、宝太郎さんに助けられたんだろ？

お千代…はい。そのおかげで今こうしてここにいます。

佐吉…だったらおめえさんの姿を見りゃあ、宝太郎さんだって、安心すらあな

それじゃあな…

源太…一緒に来なくてもいいんですかい？

佐吉…ああ、この宿場の平和を守るために、俺は見回りだ。

お千代…親方さん、いろいろとありがとうございました。

佐吉…なあに、いいってことよ！

源太…それじゃあ、お千代いくか！

お千代…ええ！

兄妹、奥へ行く

佐吉…不知火小僧の血をひく兄妹か…もしかしたら、しつぽをつかめるかもしれないねえ…

いいなり地蔵さん、ようやく望みを叶えてくれそうだけ。

佐吉 遠くを見ながら

佐吉…いつかは、清水を離れなきやいけねえ日がくるとは思ったが…、これもあいつを捕まえる

ためか…よし、待つてろよ不知火小僧、必ずこの目明し佐吉、十手にかけて(木)

捕まえてやろうじゃねえか！

徐々に暗転 (二の木なしの刻み)

エンディング【お】お茶を一杯END 佐吉

登場人物

お文・権蔵・佐吉・新吉・お光

お文板付き 佐吉がやってくる

佐吉..おう邪魔するぜ

お文..あ、佐吉の親方さん、昨日はどうもありがとうございました。

佐吉..かまやしねえよ。それより、宝太郎さんの具合はどうだい？

お文..それがまだ..

佐吉..そうか..早く良くなってくれりゃあいいんだがな..

そこへ、新吉とお光がやってくる

お文..あら、ご出立ですか？

新吉..はい！江戸にもどろうと思います！

お文..昨晩は騒ぎに巻き込んでしまつて、申し訳ありませんでした。

お光..いえ！貴重な体験ができました、ね、新吉さん

新吉..殺されるかもしれないと思つたら、猛烈に死にたくないと思えてきて...不思議ですよ

心中するためにここまでやってきたっていうのに

お文..え！そうなんですか、あら、まあ...それはそれは

お光..改めて思いました、生きていって素晴らしい事なんだって、それに...

人を好きになる気持ちは勇気を与えてくれるんだって

権蔵がやってくる

権蔵..おうごめんよ！

新吉..親分さん！！ 感動しました、あなたの好きな人を守りたいと思うその心！

お光..女中さんから夜通しいろんなことを聞いたんです！辛い恋をされているとか！

権蔵..おいおい..何を聞いたんだよ..

佐吉..お豊さんなら、洗いざらいしゃべりそうだな..

権蔵..！！佐吉の親方！？おめえ本物だろうな！？

佐吉..言ってくれるなよ、目明しがまんまと不知火小僧の畏にひっかかったなんて..

とんだ赤っ恥だ。正真正銘、本物の佐吉だよ。ほら！この足の速さ！どうだ！！

周りを走り回る 一同笑う

お光..私、もう一度、お父つつあんにお願ひしてみようと思ひます！

新吉さんと一緒にさせてくれって、ね？

新吉..ああ、ダメだと言われても、何度も何度も頼めばいいんだ、生きていれば何度だって

やり直せる！

お光..これはほんのお礼です！

お光、お文に包みを渡す。

新吉..本当にありがとうございました、さあ、おみっちゃんおいらと一緒にいこうじゃねえか！

仲睦まじく去っていく新吉とお光

お文…まあ、五両も！こんなに頂けません！お客様！

佐吉…いいじゃねえか、とっておきなよ。

お文…：

新吉たちの去った方へ頭を下げるお文

佐吉…それにしても、お千代さんのもってきた五十両に、不知火小僧の五十両、そして

その五両で、清水一泊百五両だな。

権蔵…文ちゃん、これでやり直せるな

お文…ええ、やり直せる…宝ちゃんもよくなる。そうよね。だって、そう思えばそうなんだから

権ちゃん子供の時から、ずっと言ってくれてたもんね？

権蔵.. 文ちゃん：そうだけ、辛い事や苦しい事があっても、いつまでも続かねえ

宝太郎が文ちゃんを、好きな女を残していくわけがねえ、俺だって同じだ

おめえが俺を頼ってくれるから、火の中だろうが、水の中だろうが：

鈴の音が鳴る

お文.. 今、鈴の音がしなかった？

鈴の音

お文.. やっぱり！宝ちゃんの枕もとに鈴を置いておいたの！目が覚めたらすぐに呼べるように：

宝ちゃんの目が覚めたんだわ！宝ちゃん！

行きかけるお文

権蔵…文ちゃん！！

振り向くお文

権蔵…ガキの頃から好きだったんだ！…

お文…ええ？

権蔵……あ、ええと、俺も大福が、な。

お文…じゃあ、今度一緒に食べましょうね

奥へ行くお文

権蔵…まあ、オレはこし餡派だけどな…

佐吉…権蔵さんよう、…もう、諦めた方がいいんじゃないかねえのか？

権蔵…何度だって諦めてらあ、これが最後、もう二度と会わねえ、他に好きな女を作るんだ！

…って意気込んでも…顔をみりや、すつとんじまう…

佐吉…あんたら幼馴染なんだろう？ 随分と長い付き合いだ。早い所想いを伝えればよかったのに

権蔵…そんな事言われなくてもわかってらあ！ ああ…あの時に、風邪さえひかなけりや…

佐吉…どういうこった？

権蔵…文ちゃんのこと、俺の家で清水に評判のいい宿があるからって話が持ち上がったな…

佐吉…それで、おめえさんだけ風邪をひいてこれなかったと

権蔵…ああ、文ちゃんだけ帰ってこねえ…訳を聞いたら、その若旦那、つまり宝太郎に惚れて

そのまま残ったなんて聞いたら、いてもたってもいらねえだろう！

佐吉.. そうだそうだ！ 俺はまだあの頃ガキだったけど、よく覚えてるぜ。

権蔵.. そのまま、土地をうって清水で一家をかまえて.. 今日までずーっと好きでよう

文ちゃんの幸せだけを考えてたって言うのに..

佐吉.. いいじゃねえか、権蔵さん。あんた男の中の男だよ

権蔵.. へっ、茶化すんじゃねえよ。でもまあ..、宝太郎も助かったし、文ちゃんが幸せなら

それでいいか。めでてえことに変わりはないもんな。よし、今日は快気祝いだ！

佐吉.. おう、俺も付き合うぜ！ 赤ちようちんで一杯やるか！？

権蔵.. いや、俺は下戸なんだ、清水の上手い茶を一杯で頼むよ

笑い合う権蔵と竹庵

音楽もりあがり

暗転

エンディング【く】臭い足と臭いセリフEND 竹庵

登場人物

お豊・平太郎・お静・お咲・新吉・お光

お豊板付き

平太郎一家がやってくる

お豊..いらつしやいませ..あ、旦那様! ? じゃなくて..不知火小僧..でもない、ええと

お咲..お豊さん! あたしの父ちゃん、旦那様の弟の平太郎です!

お豊..そうだそうだ、平太郎さん、いやあすみません..手の怪我は大丈夫ですか?

平太郎…ああ、大丈夫だ。ちょっとやそつと、手が動かなくなっただってこの俺くらいになりやあ

仕事に支障はありやあしねえよ…いてて

お静…無理するんじゃないよ、あの時治療したのは竹庵先生じゃなくて、不知火小僧なんだから

平太郎…わかってるよ。そういやあ、源太さん兄妹は？

お豊…もう旅に立たれてしまいました。若旦那様も見送りに行かれてて…あたしも

行きたかったんですけどねえ

お咲…あの、お豊さん！お千代さんと若旦那様…大丈夫でした？

お豊…大丈夫って？　なんか、二人でいい気分で歌ったり、簪渡したりしてましたけど

お咲…やっぱり…

お豊…やっぱりって？

お咲…大福を食べながら、お千代ちゃんといろんな話をしたんです。お父つつあんのこと

源太さんのこと、それに、若旦那様にもらった簪のことも…

平太郎…なんだ、じゃあ宝二郎は、お千代さんに惚れてるってことか

男がてめえの手で作り上げた大事なもんを渡すってことはそういうことだからな

お咲…そうなの？

恥ずかしそうにしているお静を不思議そうに見るお咲

そこへ、新吉とお光がやってくる

お豊…あ、ご出立ですか？

新吉…はい！江戸にもどろうと思えます！

お豊…昨晩は騒ぎに巻き込んでしまつて、申し訳ありませんでした。

お光.. いえ！貴重な体験ができました、ね、新吉さん

新吉.. 殺されるかもしれないと思ったら、猛烈に死にたくないと考えてきて... 不思議ですよ
ね
心中するためにここまでやってきたっていうのに

お豊.. 心中！？通りで、なんかこそこそしてましたもんね

平太郎たちに気が付きかけよる新吉たち

新吉.. あなた方の親子の情愛、感動しました！！

お光.. 親子の絆って本当に素晴らしいです！私も親子の絆を信じてもう一度、

お父つつあんにお願ひしてみようと思います。新吉さんと一緒にさせてくれって... ね？

新吉.. ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ... 生きていけば、何度だって

やり直せる...

お光…これはほんのお礼です。

お光、包みをお豊に渡す

お豊…ありがとうございます

新吉…本当にありがとうございます。さあ、おみっちゃん、おいらと一緒に行くこうじゃねえか

お光…ええ。

仲睦まじく出ていく二人

お豊…あら！…五両も入ってます！　こんなにもらえるなんて…

平太郎…随分と裕福そうな格好だったしな

お豊…これ、もらっちゃっていいんですかねえ

お咲…いいんですよ、だってあの二人の命を救えたんですから。ね？

お静…それにしたって、お千代さんのもってきた五十両に、不知火小僧のくれた五十両。

そしてこの五両で、清水一泊百五両ですね。

お豊…ええ。これで清水屋も安泰です。あとは旦那様がよくなってくれば…

鈴の音がする

平太郎…何の音だ？

お豊…旦那様だ！ 枕元に鳴らせるように鈴を置いてあるんです！

お静…じゃあ、宝太郎さんの目が覚めたんですね！

お豊…はい！お咲ちゃん悪いんだけど、いいなり地蔵まで女将さん呼びにいつてきてくれない？

あたし、若旦那様呼んでくるから！

お咲…わかりました！

出ていくお豊とお咲

平太郎…あ…おい！

お静…お前さん、会いにいつておいでよ

鈴の音

お静…ほら、今はお文さんも、お豊さんも若旦那様だっていないんだ。目が覚めて、

知ってる人がいないんじゃない、お兄さん不安になっちゃうよ？

平太郎…：

お静…お前さん！ 大丈夫だよ。あたしも一緒にいつてあげるからさ

平太郎…お静、すまねえな。俺にとりゃあ、出来過ぎた三国一の恋女房だよ

お静…お前さんたら、足もセリフも(木)くさいんだから

むつとする平太郎をなだめながら、二人手を取り奥へ 暗転

エンディング【や】約束は2つEND 源太

登場人物

お豊・源太・権蔵・お千代・宝二郎・新吉・お光

清水屋店先 権蔵がやってくる

権蔵…ごめんよ、邪魔するぜ！…あれ？おい、誰もいねえのか？

お豊 奥から走って来て権蔵とぶつかる

お豊…わー！！ ハマゴン！

権蔵…馬鹿野郎！誰がハマゴンだ！

源太…あれー？おかしいなあ？ここに置いておいたはずなんだが…

源太 上手前から入り

源太…あ！お豊さん、あつしの草鞋知りませんか？

お豊…さあ？ 知りませんよ

源太…えー。どこ行っちゃまったんだ？あれ、浜名湖の親分さん

権蔵…おう、疾風の。何だ？さがしもんか？

源太…へい、あつしの草鞋が見当たらねえんでさあ

権蔵…草鞋だあ？そんなデカいもん無くしたりしねえだろ

源太…へい、確かはじめにお豊さんに預けたはずなんです…

権蔵…じゃあ、こいつがもってんだろ。おい！

お豊 しゅんとしながら

お豊..だって、だって...これを返してしまったら源太さん、行ってしまおうんでしょ？

源太..へい、お世話になりやした。

お豊..一目見た時から、私はあなたに心を奪われていました。お願いです！

あたしも一緒に連れて行ってください！

源太..お豊さん...申し訳ねえがそいつは、かぶりを縦に振ることはできやしねえ...

清水屋さんにとって、おめえさんはなくてはならない存在だ。

それに、おめえさんは堅気、俺は渡世人だ。住む世界が違うんです、

どうかあきらめてやっておくんなさい。

権蔵..いやいや、堅気と渡世人だって結ばれたって別にいいだろ！

お豊..そうですよね!?あたし絶対あきらめませんから!

権蔵とお豊につめよらから草鞋をはく源太

お千代と宝二郎入り

宝二郎..あの、お千代さん...!

お千代..若旦那様..

二人見つめあうが何も言い出せない宝二郎

新吉..お世話になりました!

新吉とお光がやってくる

お豊…ご出立ですか？

新吉…はい、江戸に戻ろうと思います！

お豊…昨夜は騒ぎに巻き込んでしまい、申し訳ありませんでした。

お光…いえ、貴重な体験ができました。ね、新吉さん

新吉…ああ、殺されるかもしれないと思ったら、猛烈に死にたくないって思えてきて…

不思議ですよ、心中するためにここまでやってきたっていうのに

お豊…そうなんです…心中…心中！？やっぱり何か怪しいと思ってたんですよ！

お千代たちのそばに駆け寄る新吉お光

新吉…あなた方のお互いを思う心、感動しました！！

お光..命がけで相手を思う強さ..私たちに足りないものがわかりました。

新吉..身分や育ちなんて、関係ない、今まで生きてきた世界が違ってたって

そんなことはどうでもいいんだ。だって、こんなに好きなんだから..!

お光..もう一度、お父つつあんにお願ひしてみようと思います。

新吉さんと一緒にさせてくれって..ね?

新吉..ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ..生きていれば、何度だって

やり直せる..

お光..これはほんのお礼です。

お光、包みをお豊に渡す

お豊..ありがとうございます。

新吉…本当にありがとうございます。さあ、おみっちゃん、おいらと一緒にいきましょうねえか
お光…ええ。

仲睦まじく出ていく二人

お豊…お幸せにー…あらやだ、五両も入ってるじゃない！ お千代さんの持ってきた五十両に

不知火小僧がくれた五十両、そして、この五両…昨夜一晩でこんな大金が…

権蔵…あわせて、清水一泊百五両だな？

宝二郎…源太さん！ 私はお千代さんが好きです！意気地のない、気の弱い気性の私ですが

お千代さんと一緒にいたら強くなれる気がするんです！…必ず幸せにします。

どうか、一緒にさせてください！

お千代…私も！若旦那様のそばにいと暖かい気持ちになれるの…このまま離れるなんて嫌

ずとずっと一緒にいたいわ。

お豊…がんばれ！

権蔵…がんばれ！

お千代…でも…私が残ったら兄さん一人になってしまう…

源太…かわいい妹の幸せのためだ、お千代が幸せならそれでかまいやせん。

ただ、兄妹二人で旅をしてきたんだ。寂しくないと言ったらウソにならあな。

お豊…だったらあたしが一緒に…

源太…お断りします。

お豊…そんなあ…

お豊 権蔵のところへ権蔵も悲しい顔

源太…お千代。今まで散々苦勞してきたんだ…必ず幸せになるんだぞ。

お千代…うん！

源太…兄ちゃんとの約束だ…

お千代…兄さん…

鈴の音が聞こえる。

源太…なんだ？

宝二郎…お父つつあんだ！ 枕元に鳴らせるように鈴を置いてあるんです！

お豊…目が覚めたんですね！ 女将さんに知らせないと！

宝二郎…私、ちよつと行ってきます！

権蔵…文ちゃんなら、いいなり地蔵へ願掛けだろ！俺が呼びにいってくるぜ！
お豊…すみません！ありがとうございます！

奥へ行く宝二郎とお豊 出ていく権蔵

源太…おめえもいつてきな。

お千代…ええ、宝太郎さんに紹介したいから兄さんも早くきてね

源太…ああ

お千代…何してるの？早く…

源太…心配しなくても後からいくよ

お千代…ダメよ、兄さん私が奥へいったらそのまま旅にたつんでしょ

源太…お千代…

お千代…それで、迷惑がかかるからって、二度と会いに来ないつもりなんでしょ？

源太…：何言ってるんだ、そんなわけねえだろ

お千代…約束して？ 私も約束守って、絶対に幸せになるから、兄さんも来年の卯月六日に

清水屋に泊りにきてちようだいね。

源太…わかった、約束するよ。じゃあ、ゆびきりだ…

お千代…ええ

ゆびきりをする二人

二人…ゆびきりげんまん、ウソついたらはりせんぼんのーます、指切った。(木)

見つめ合って暗転

エンディング【ま】まやかしの十手END 佐吉

登場人物

お亀・平太郎・お静・お咲・佐吉・源太・お千代・新吉・お光

板付きのお亀

平太郎一家がやってくる

お咲..あ、お亀さん！ 清水屋に戻る事にしたんですね。

お亀..いろいろと職は変えてみましたが、旅籠つてのが一番、いろいろなお客さんも

くるし、ひとまずは古巣に戻ろうかと..

平太郎..なんだ、それじゃあ人手が足りてるんだから残らなくてもいいじゃねえか

お静…お前さんったら

お亀…どういうことです？

お咲…あたし、本当は父ちゃんたちと帰ろうと思ったんですけど、やっぱりいろいろ

心配だし、仕事もたくさん覚えたいから清水屋に残ろうかと思って

お亀…そうなんですかい？いやあ、お咲ちゃんがいりゃあ、千人力でさあ！

あ、あたしは出戻りなんで…また下つ端になりやした、先輩！いろいろ教えてくださいね

平太郎…お咲ー本当に一緒に帰らねえのか？

お咲…うん！あたし頑固だもん、父ちゃんに似て

お静…いいじゃないの、応援してあげようよお前さん

そこへ、新吉とお光がやってくる

お亀：ご出立ですか？

新吉：はい！江戸にもどろうと思います！

お亀：昨晩は騒ぎに巻き込んでしまつて、申し訳ありませんでした。

お光：いえ！貴重な体験ができました、ね、新吉さん

新吉：殺されるかもしれないと思つたら、猛烈に死にたくないと思えてきて…不思議ですよ

心中するためにここまでやってきたっていうのに

お亀：はあ！？心中！？…最後にまたとんでもねえネタぶつこんできましたね

平太郎たちのところへ行つて

新吉：あなた方の親子の情愛、感動しました！！

お光..親子の絆って本当に素晴らしいです！私も親子の絆を信じてもう一度、

お父つつあんにお願ひしてみようと思います。

新吉さんと一緒にさせてくれって…ね？

新吉..ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ…生きていれば、何度だって

やり直せる

お光..改めて思いました、生きているって素晴らしい事なんだって

佐吉がやってくる

佐吉..そうだけ、死んだら何もかもおしまいなんだからな

お光..これはほんのお礼です！

お光、お亀に包みを渡す。

新吉…本当にありがとうございました、さあ、おみっちゃんおいらと一緒にいこうじゃねえか！

仲睦まじく去っていく新吉とお光

お亀…え！ 五両も入ってますけど…

お咲…そんなに！？

お静…昨夜でたくさんのお金がこの清水屋にきたんですね

お亀…へい、お千代さんのもってきた五十両に、不知火小僧の五十両、そして

この五両で、清水一泊百五両でわけさあ

平太郎…：贖金なんて作らねえで、本当によかったよ

佐吉…ああ、まったくだ。俺もおめえさんに縄をかけないですんで良かったよ。

お亀…ほんと、不知火小僧に感謝ですよね！

お静…お前さん、一度は途切れた縁が今やとつながりかけているんだ、お兄さんの

目が覚めたら、仲直りしておくれよ？

平太郎…でもよう、二十年だぜ？ 今更どんな顔して会えばいいか…

お亀…何いつてるんですか！二十年だろうが、五十年だろうが、親子は親子、兄弟は兄妹でしょ

旦那様はいつだって、平太郎さんのことを気にかけていましたよ？

平太郎…兄貴が…

お咲…そうだよ、そうじゃなきゃ、いいなり地藏に大金をもつていったりしないはずだもん

佐吉…平太郎さん、いきつけななんじゃねえか？縁をつなぐには、今回のことが

平太郎…ああ…

鈴の音が鳴る

お咲…この鈴の音…

鈴の音

お亀…旦那様です！枕元に鈴が置いてあって、目が覚めたらすぐにならせるように

してあるんです！

佐吉…それじゃあ、宝太郎さんの目が覚めたってことかい！

お静…ほら、お前さん行こう！

お咲…父ちゃん早く！

平太郎…お、おう！

はける平太郎一家

佐吉…よかった…これで俺も一安心だよ。ところで、旅の兄妹は奥にいるのかい？

お亀…へい。源太さんとお千代さんならまだおりますよ。

佐吉…そうか…道中気を付けるよう伝えてくん。俺は、見回りにいつてくるからよ。

また新たな事件を解決しなきゃいけない

お亀…親方、やっぱり目明しは捜査は聞き込みですよね！？

佐吉…おう、その通りよ！

お亀…己で判断するんじゃない、怪しいと思ったら、まずは尾行する…

佐吉…そうだ！

お亀…いくぞ！あの海の向こうへ！

佐吉..おう!

二人笑い合う

お亀から笑いが消え、佐吉を見る

暗転

エンディング【け】喧嘩はおしまいEND 竹庵

登場人物

お文・竹庵・お静・平太郎・お咲・新吉・お光

板付きのお文

竹庵がやってくる

竹庵..お文さんや宝太郎の具合はどうかかな？

お文..竹庵先生...ええと、本物でしょうか？

竹庵..なんじゃわしを疑ってるのか？ほれ桃栗三年柿八年♪すーいすい！

このキレはわしじゃろ？

お文..すみません、そうですね。竹庵先生の十八番ですもの

竹庵…それで、宝太郎の具合はどうじゃ？

お文…それがまだ…

竹庵…そうか…じゃが心配はいらん。顔色もよくなってきたおるし、すぐに目をさますよ

お文…ありがとうございます。そういえば平ちゃんの腕の怪我は大丈夫でしたか？

竹庵…ううむ、傷が思ったよりも深くてなあ…

お文…そんな…それじゃあこのままじゃ、もう平ちゃんは簪や小物作りは…

竹庵…ああ、以前のように作るのには難しいじゃろうな…

新吉とお光がやってくる

お文…ご出立ですか？

新吉…はい！江戸にもどろうと思えます！

お文..昨夜は騒ぎに巻き込んでしまい、申し訳ありませんでした。

お光..いえ、貴重な体験ができました。ね、新吉さん

新吉..ああ、殺されるかもしれないと思ったら、猛烈に死にたくないって思えてきて…

不思議ですよ、心中するためここまでやってきたっていうのに

お文..心中!?まあ、そうだったんですね…

平太郎一家がやってくる

新吉..あなた方家族の絆、感動しました!!

お光..怪我をしてまでも、娘や女将さんをかばうその姿!本当の愛を知りました

新吉..危ない状況であつても守りたいと思うその心…さすがです!

お光..私、もう一度、お父つつあんにお願いしてみようと思います。

新吉さんと一緒にさせてくれって...ね？

新吉..ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ...生きていけば、何度だって

やり直せる...

お光..これはほんのお礼です。

お光、包みをお文に渡す

お文..まあ、五両も！こんなにあただけません！多すぎます！お客様！

お光..いえ、お気になさらないでください！ これでも、江戸の料亭 水月の

一人娘なんですよ。

竹庵…水月といえ、随分と立派な大店じゃないか…あんたがお嬢様で

あんたは…

新吉…へへ、おいらは手代なんです。

竹庵…ほう、お嬢さんと奉公人の恋というわけじゃな

新吉…そうなんです、身分違いの恋ですがどうしても諦められなくて…

お咲…素敵です！ 本気になれる恋…憧れます！

平太郎…何いってんだ、お咲にはまだ早えよ！

お静…何言ってるんだい、お咲だって年頃なんだ、そういう事に興味あるに決まってるだろ

平太郎…冗談じゃねえぞ！いいか？もし変な男がよってきたら、おれがこのげんこつで…

拳をふりあげる平太郎 痛がる

平太郎…いててて！！

竹庵…ばかたれ、傷が開いたらどうするんじや！

お静…お前さんごめんよ…あたしをかばったばかりに…

平太郎…うるせえよ、こんな腕一本くらいどうってことねえや。それで、おめえらを救えたなら

安いもんだぜ

お咲…でも…父ちゃんの手が…

竹庵…ところで、お前さん方は江戸のお人じゃそうで…その、医者に知り合いはおらんかね

お光…お医者様の知り合いですか？

新吉…腕がいいお医者様なら、道庵先生がいらつしやいます！ 堅物で気難しい気性で

少々、お金にうるさい方なのですが…

お静…竹庵先生、ご存知ですか？

竹庵…ウーム、道庵…道庵…確かに名前は聞いた事があるような…

お光…もし良かったら、ご紹介しましょうか？ その腕の怪我、直していただけるかもしれないよ。

お咲…父ちゃん！お願いしようよ！ 腕が治るかもしれないだよ？

平太郎…いいよ…そんな立派な先生なら、莫大な医者代がかかるだろ…おめえらに

そんな迷惑はかけられねえよ

お静…治る機会があるなら、試してみればいいじゃないか！

平太郎…でも…

竹庵…平太郎や、飾り職人としてのお前にとって、利き腕は命じゃ、

家族を守るためには、その命は繋がなきゃならん。

平太郎…

お咲…父ちゃん？

平太郎…だめだ！ 江戸の医者にかかるような、そんな銭は俺には用意できねえよ

お文…平ちゃん、これ…

お文 五十両を出す。

平太郎…これは…

お文…言いなり地蔵で待ち合わせた時に、宝ちゃんがもっていったお金よ

いろんなことがあって、お千代さんの手に渡り、今こうして清水屋に戻って

きたの。これはもともと…宝ちゃんが弟の平ちゃんに渡すつもりだったお金だもの

これで腕の怪我を治してちょうだい。

お静…お文さん…ありがとうございます。

竹庵…そうか…お千代さんの返しにきた五十両に、不知火小僧のくれた五十両

そして、さつきもらった五両で、清水一泊百五両だったわけじゃな

新吉…清水一泊百五両！　なんだかゴロがいいですね！な、おみっちゃん

お光…そうね、新吉さん！　それじゃあ、一緒に江戸までいきましようか？

平太郎…：

お静…仕方がないねえ、大丈夫あたしもついていってあげるよ

平太郎…お静…すまねえ、苦労かけたつてのに、どこまで俺についてきてくれるのか

もったいねえくらいにいい女だ、おれにとっては出来過ぎた三国一の

恋女房だよ…

鈴がなる

お咲…この音…

お文…宝ちゃんだわ！枕元にすぐにならせるように鈴をおいておいたの！

宝ちゃんの目が覚めたのよ！

竹庵…よかったなあ、さあ、お文さんや真っ先にお前さんの顔を見せてやっておくれ

お文……はい。宝ちゃん！

お文 奥へ行く

平太郎…よかった…兄貴の目が覚めて本当によかった！

お静…お前さん…

新吉…宝太郎さん、無事で本当に良かったですね。おいらたちも、もう思い残しは

ありません！平太郎さん、一足先に、江戸に帰っていますのでその腕

必ず治してくださいね！

お光…江戸深川の水月をお尋ねください。

平太郎…へい…ありがとうございます

新吉…こちらこそ、本当にありがとうございます。さあ、おみっちゃん、おいらと一緒に

行こうじゃねえか

お光…ええ。

仲睦まじく出ていく二人

竹庵…ほれ、お前も会いに行かんか

お静…お前さん、お兄さんと仲直りするんだろ？

平太郎…：ああ、兄貴に挨拶にいったら、江戸に行く、お静、お咲、ついてきてくれるか？

お静…当たり前だろ、家族なんだ。どこにだってついていくさ

平太郎…すまねえ…

お咲…あたしも、父ちゃんの腕の代わりになれるよう頑張るよ

平太郎…お咲…すまねえ

お静…：竹庵先生、本当に何から何まで、ありがとうございました。

竹庵…かまやせん、さあ、久方ぶりの兄弟の再会じゃ、平太郎、子供のころを

思い出して、さあいつてこい

平太郎…へい！ 兄貴…二十年ぶりだ、弟の平太郎、只今帰って(木)めいりやしたぜ

走って奥へいく平太郎

お静..ちよいと、走ると危ないよ！

お咲..もー、これ以上怪我増やささないでよねー

竹庵..やれやれ..

三人も追いかけて 舞台空 徐々に暗転

エンディング【ふ】二人旅から一人旅 E N D 源太

登場人物

お文・源太・お豊・権蔵・新吉・お光

清水屋店先 権蔵が店にやってくる

権蔵：おう、ごめんよー。誰かいねえか？

奥からやってくるお豊

お豊：げ！ハマゴン！

権蔵：何だって？

お豊…いえ！何でもありません！あの、昨日はお疲れ様でした。

権蔵…ああ、かまやしねえ。ひよんなことから、賭場荒らしも見つけられたしな

それで…今日やってきたのは他でもねえ、宝太郎の具合はどうだ？

お豊……それが、旦那様はまだ…

権蔵…なるほどな、文ちゃんは大丈夫か？　すぐに笑って周りに心配をかけさせないように

するから俺は心配で心配で…

お豊…昨日はいろんなことがありましたからね。でも、結構きびしいと思いますよ

ずーっと寝ないで旦那様に付きっ切りで…

権蔵…なるほどな…

お豊…ですからすみませんが、みかじめ料はもうちよつと待ってください！

権蔵…別に金が欲しくてきたわけじゃねえよ…

お豊.. そうなんですか？じゃあ、どうして…

権蔵.. :俺はずるい男なんだよ、弱味につけこんで…ほんと、小せえ男だ…

お豊.. ?

新吉とお光がやってくる 勘違いをする権蔵

お豊.. ご出立ですか？

新吉.. はい、江戸に戻ろうと思います！

お豊.. 昨夜は騒ぎに巻き込んでしまい、申し訳ありませんでした。

お光.. いえ、貴重な体験ができました。ね、新吉さん

新吉.. ああ、殺されるかもしれないと思ったら、猛烈に死にたくないって思えてきて…

不思議ですよね、心中するためにここまでやってきたっていうのに

権蔵.. 心中だあ？ そいつとはおだやかじゃねえなあ.. おめえさん方は夫婦かい？

新吉.. いえ！まだ所帯を持ってはいません。でもいずれは..

お光.. 新吉さん..

新吉.. おみっちゃんは江戸の料亭水月の一人娘で、おいらは、その奉公人で

身分が違うから、一緒にはさせてもらえなくて、だからここまで

駆け落ちしてきたんです。

お光.. 障害があっても好きな気持ちは変える事はできませんから！

新吉.. そう！生涯を共にするためならば！

新吉とお光 笑う

お豊…：障害があっても好きな気持ちがあれば…：例えそれが、渡世人と

旅籠の女中であつても！

権蔵…：亭主がいたとしても！！

ぎよつとする二人

新吉…：ちよつと待つてくださいよ！何の話をしてるんですか！

お光…：そうです！渡世人とか、ましてやご亭主のいる方だなんて…

お豊…：いいえ！身分なんて関係ないっておっしゃったじゃありませんか！

権蔵…：そうだ！障害があつても好きな気持ちさえあれば何も問題はねえ！

4人がわいわいと言ひ合ひをしてるところへ源太とお文がくる

お豊…!!! 源太さん!

権蔵…!!! 文ちゃん!

源太…女将さん、お千代の事、よろしくお願いいたします。

お文…任せてください。早くお父様が見つかりますように…

お豊…あ、あのーちよつと待つてください。よろしくお願いしますってどういふことですか？

権蔵…それにお父様ってのは…

源太…へい、あつしの妹のお千代が若旦那と所帯をもつことになりやした。お豊さん、親分さん

これから何かと面倒をかけるとは思いますが、妹のこと、よろしくお願いいたしやす!

顔を見合わせる権蔵とお豊

お文…源太さんとお千代さん、お父つつあんを探しての旅だったんですって

きつとまた会えますよ。だって、昨日だってお二人を守ってくれたじゃありませんか

源太…へい…今まで姿を表さねえのは、それなりに仔細のあつてのことでしょう…

それでも、俺達にとつてはたった一人のお父つつあんだ。御上の縄にかかる前に

あつしが首に縄かけてでもつれてめいりやす。

お豊…：罪人なんですか？お父様って

お文…弱気を助け強きをくじく、立派な義賊よ

権蔵…てことは…不知火小僧か！？

源太…へい…

権蔵…いいのか？あいつ昨日、贖金持ってたやつだろ？捕まっちゃまったじゃねえか…

お豊…あいつは違います！偽物です！

権蔵…偽物だあ？

訳がわかっていない権蔵に説明をしているお豊

新吉…兄妹も、親子も、思い合う二人も…やっぱりの通じ合う姿を見ると感動します！

心中岬で身を投げなくて本当に良かった…

お光…私たちに足りないものがわかりました。もう一度、お父つつあんに

お願いしてみようと思います。新吉さんと一緒にさせてくれって…ね？新吉さん

新吉…ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ…生きていれば、何度だって

やり直せる…

お光…これはほんのお礼です。

お光、包みをお豊に渡す

お豊..ありがとうございます。

新吉..本当にありがとうございます。さあ、おみっちゃん、おいらと一緒にいきましょうねえか
お光..ええ。

仲睦まじく出ていく二人 お文にお金を渡す、お豊

お文..まあ五両も！

お豊..お千代さんの持ってきた五十両に不知火小僧がくれた五十両、そして、この五両..

合わせて百五両ですよ

源太..清水一泊百五両でござんすね

権蔵…文ちゃんよかったな、これで清水屋をやりなおせるじゃねえか

宝二郎…おつかさん！お父つつあんが目を覚ましたよ！！

権蔵…宝太郎が！？文ちゃん、早く会いにいったやんな！

お文…宝ちゃんが…良かった、夢じゃないのよね？

権蔵の二の腕をつねるお豊

権蔵…いて！

お豊…大丈夫！夢じゃありません！

嬉しそうに奥へ行くお文　あとに続くお豊

源太…これで安心だ…ごめんなすって

権蔵…旅がらす、いや…疾風の源太とか言ったな？　もう行っちゃまうのかい？

源太…へい、あのくそ親父を何としても捕まえなきゃいけませんので…

権蔵…今までは妹がいたんだ、守らなきゃいけねえものがあつたから、気を張っていた

一人旅は気ままだが、決して氣い抜くんじゃねえぞ？

源太…へい！ありがとうございやす。それじゃあ、ごめんなすつて…

駆けてつまずきそうな源太

権蔵…おつとあぶねえ！

持ち直して決める(木)

権蔵 見送り 暗転

エンディング【こ】子はかすがい END 佐吉

登場人物

お亀・お文・お静・佐吉・お咲・新吉・お光

板付きのお亀

お文とお咲とお静がやってくる

お亀..おかえりなさい!

お文..あらお亀、権ちゃんの子分、やめちゃったの？

お亀..へい!やっぱ清水屋が一番だなあって思いました

お文..ふふふ、おかえりなさい。でも、子分姿もかっこよかったわよ。ねえ?お咲ちゃん

お咲..いやあ...あの時私、捕まってたんで...

お静..うちの人は大丈夫でしょうか？

お亀..旦那様のそばで、つきつきりですよ。あ..でも、さつきすごいいいびきが聞こえてきたんで寝てるかもしれませんね

お静..まったくもう..

お文..いいんですよ。お兄さんのそばで安心してらるんですよ

お亀..三人でどこかにいったんですか？

お文..近所の甘味屋さんへ、大福は願掛けで断ってるから、お団子を食べてきたの

はい、おみやげ。

お団子を渡すお文

お亀..ありがとうございます！ お団子、いいですねえ！

お咲..みたらしのお団子も、お抹茶もすごくおいしかったです！ね！おつかさん

お静..ええ、素敵なお店を教えていただき、本当にありがとうございます。

お文..いえいえ、私もお友達が出来て凄く嬉しいんですよ。そういえばお亀、

宝二郎やお豊さんは？

お亀..源太さんとお千代さんをお見送りに、渡し場まで行きました。

お静..あら、もう旅立ってしまったんですね。お礼が言いたかったんですが：

お亀..何でも、お父つつあんを探しているとかで、早くにいつてしまいました。

お咲..そう言えば、二人で話した時にお千代さんがいつてました、ずっと探してるけど

見つからないって

お文..早く見つかるといいわね。そうだわ、いいなり地蔵にいつて、源太さんたちの

お父様のことや、平ちゃんの腕のこともお願ひしないと

お亀.. そうしましょう！いいなり地蔵様はどんなお願い事でも叶えてくれますから

お文.. そうね、だから、きつと宝ちゃんもすぐに目が覚めるわ。

そこへ、新吉とお光がやってくる

お亀.. ご出立ですか？

新吉.. はい！江戸にもどろうと思います！

お文.. 昨夜は騒ぎに巻き込んでしまつて、申し訳ありませんでした。

お光.. いえ！貴重な体験ができました、ね、新吉さん

新吉.. 殺されるかもしれないと思つたら、猛烈に死にたくないと思えてきて.. 不思議ですよね

心中するためにここまでやってきたつていうのに

お亀.. はあ！？心中！？.. 最後にまたとんでもねえネタぶつこんできましたね

お光..親子の絆も、兄妹の愛情も、思い合う二人の心も本当に素晴らしいです！

私、お父つつあんにもう一度お願いしてみようと思います。

新吉さんと一緒にさせてくれって...ね？

新吉..ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ...生きていれば、何度だって

やり直せる

佐吉がやってくる

佐吉..そうだと、踏まれても踏まれてもまた生えてくる雑草みたいな根性でいなきやあいけねえ

お静..佐吉の親方！？本物ですか！？

佐吉：おいおい、冗談じゃねえよ。そう何度も畏に引っ掛かってたまるかい！捜査は足だ！

怪しいとおもったらしょっぴけ！いくぞ！あの夕日にむかって！！！！

お亀：はいはい！わかりました。この暑苦しさは親方に間違いないありません。

不服そうな佐吉 一同笑う

お光：これはほんのお礼です！

お光、お亀に包みを渡す。

新吉：本当にありがとうございました、さあ、おみっちゃんおいらと一緒にいこうじゃねえか！

仲睦まじく去っていく新吉とお光

お亀…え！ 五両も入ってますけど…

お文…いけません！お客様！

お亀…まあまあ、いいじゃありませんか女将さん。もらっておきましょ！ね？

お静…昨夜でたくさんのお金がこの清水屋にきたんですね

佐吉…ああ、お千代さんのもってきた五十両に、不知火小僧の五十両、そして

その五両あわせて百五両だ。

お咲…清水一泊百五両ですね！

お静…あの時にうちの人が贖金なんて作っていたらと思うとぞつとします。

佐吉…ああ。もしそんな事していたら今頃、お縄や島流しじゃすまんかもしれん…

お亀…ほんと、不知火小僧に感謝ですよね！

お文…お静さん、平ちゃんを支えてくれてありがとうございます。

お静…そんな…あたしなんて、口うるさいだけですよ

お咲…ううん、おつかさんがいてくれてあたしも嬉しいよ

お静…お咲。

お咲…あたし、まだまだ子供でさ…母ちゃんが死んで、おつかさんと父ちゃんが

夫婦になつてから、なんだか、だんだん母ちゃんを忘れていつちやうような

気がしたんだ。それに…あたしなんかいなくなればいいんじゃないかって

佐吉…お咲ちゃんそれはちがうぜ

お文…そうよ、亡くなったおつかさんを誰も忘れちゃいけないわ。ねえ？お静さん

お静…ええ、ほら…あたしたち三人の着物のカタツギ…お咲、何か気付かないかい？

お咲…あ、そういえば父ちゃんも、おつかさんもあたしも、同じ布だ。これ、もしかして

母ちゃんのか？

お静.. ああ、お邦さんの着物だよ

佐吉.. 亡くなったおかみさんが、三人をつないでいてくれたんだな..

お亀.. いい話ですねえ

佐吉.. でもそれだけじゃあねえ、二人ともお咲ちゃんを大事に思っていればこそなんだ

よくいうだろ？子はかすがいつて

あたたかな雰囲気 鈴の音が鳴る

お静.. この鈴の音..

お文.. 宝ちゃんだわ！枕元に鈴が置いてあつて、目が覚めたらすぐにならせるように

してあるんです！

お咲.. それじゃあ、目が覚めたんですね！

お静..あら？でもうちの人がそばにいるはずなのに…

平太郎のいびき

お文..平ちゃんぐつすり眠ってるみたい。私、いつてきます！！宝ちゃん！！

奥に行くお文

お亀..よかった、旦那様の目が覚めて…

佐吉..いいなり地蔵様がまた、願いを叶えてくれたようだな…

お咲..きつと、父ちゃんの手もおるよね？

お静..ああ、なおるさ。だってそう思えばそうなんだから

お咲..そう思えば、そう…

お亀..さあ！ 旦那様も目が覚めてめでたいですから！今日はお祝いしましょ！

佐吉..おいおい、清水屋はどうすんだよ

お亀..今日は臨時休業です！さあ、皆さん忙しくなりますよ！お静さん、お咲さん

いろいろと手伝ってください！

お咲..はい！

お静..わかりました！

佐吉..賑やかになりそうだな

徐々に暗転

エンディング【え】選んだ仕事は清水屋でEND 竹庵

登場人物

宝二郎・お亀・新吉・お光

板付きの宝二郎

やってくるお亀

お亀…どうもー！

宝二郎…お亀、どうしたんだい？

お亀…へへ、出戻りってやつでさあ、もう一度清水屋に働かせてください！

宝二郎…戻ってきてくれるのはありがたいけど、浜名湖の親分さんのところはいいかい？

お亀…それなら、心配いりません！話をして盃返してめいりやした！

宝二郎…そんな簡単にいくものなのかな…

お亀…まあ、盃っていつでも一緒にお茶飲んだだけですけどね！

宝二郎…でも、お亀がきてくれるなら、おつかさんもお豊さんもお喜ぶと思うよ。

お咲さんは平太郎おじさんたちと帰ってしまふみたいだしね

お亀…ありやー、そうなんですか？お咲ちゃん、働き者でしたし、清水屋に残ってくれば

よかったのに。

宝二郎…誤解がとけて、仲直りができたんだ。いいことじゃないか。今頃は、お静さんの

泊まってる宿で親子水入らずで話をしていると思うよ。

お亀…若旦那様、それでご自身の方はどうなんです？

宝二郎…私が、どうかしたかい？

お亀…もう、とぼけないでくださいよ。お千代さんの事です！好きなんですよ？

想いは伝えたんですか？あの源太さんの妹ですからねえ、嫁にもらうとなると

一筋縄じゃあいきませんよ！

宝二郎…ちよつと待つておくれよ！なんで知ってるんだい！？

お亀…いやいやわかりますって！初めてあの兄妹がきたとき、お豊さんも若旦那様も

大福を落として、綺麗な人だ…とか、素敵なお人だ…って呆けちゃってたんですから

宝二郎…

お亀…その様子じゃ、何も言えてないってことですかねえ

宝二郎…簪は、渡したよ…

お亀…簪？ああ、若旦那様が作ったアレですか！ほう…だったら、想いは伝わってるとは

思いますけど…

宝二郎…お亀だつてわかるだろ、私は意気地のない男なんだ。勇気を出して、気持ちを言つて、ましてや清水屋に残つてくれなんて…いえるわけないじゃないか

新吉とお光がやってくる

宝二郎…ご出立ですか？

新吉…はい！江戸にもどろうと思います！

宝二郎…昨夜は騒ぎに巻き込んでしまい、申し訳ありませんでした。

お光…いえ、貴重な体験ができました。ね、新吉さん

新吉…ああ、殺されるかもしれないと思つたら、猛烈に死にたくないって思えてきて…

不思議ですよね、心中するためにここまでやってきたっていうのに

お亀…心中！？

新吉.. いろんな思いがかさなり合うのを見て、命は大事にしなきゃいけないって思いました

お光.. 親子の愛情、兄妹の愛情.. それにみんなが清水屋さんを愛していて..

新吉.. おいらたち、すごく感動しました！

お光.. 私、もう一度、お父つつあんにお願いしてみようと思います。

新吉さんと一緒にさせてくれって.. ね？

新吉.. ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ.. 生きていけば、何度だって

やり直せる..

お光.. これはほんのお礼です。

お光、包みを宝二郎に渡す

新吉…本当にありがとうございました。さあ、おみっちゃん、おいらと一緒に

行こうじゃねえか

お光…ええ。

仲睦まじく出ていく二人

宝二郎…これ五両も入ってるよ！

お亀…あ、ほんとだ。ってことは、お千代さんが持ってきた五十両に、不知火小僧のくれた

五十両、そしてこの五両で、清水一泊百五両ですね！

鈴の音がする

お亀…あれ？この音…

宝二郎：お父つつあんの枕元に、すぐならせるように鈴がおいてあるんだ。

きつと目が覚めたんだよ！

お亀：こうしちゃいらねえ！ んじゃあたし、ひとつ走り、平太郎さんたちを呼んできますね！

宝二郎：ああ、お願いするよ！

お亀：若旦那様、弱気なこと言っていないで、ここが正念場ですよ！頑張ってください！

それじゃあ、いってめいりやす！ 清水屋の出戻り女中、お亀の初仕事だ

きつとつとめて(木)みせますからね！

宝二郎見送り 暗転

エンディング【て】手をつなぐのはまだ早いEND 源太

登場人物

お文・お咲・源太・お千代・宝二郎・新吉・お光

清水屋店先 お咲板付き そうじをしているところへお文がやってくる

お文..お咲ちゃん、本当にいいの？平ちゃん達と帰らないで

お咲..いろいろとお仕事も覚えましたし、私に清水屋の力になりたいんです。

父ちゃんやおつかさんは、寂しがってましたけど、お前が決めた事なら

止めないって。

お文..ありがとう、すごく助かるわ。

源太とお千代がやってくる

源太…おいお千代、待たねえか！おいお千代！

お千代…いやよ！ だって兄さんちつとも私の話聞いてくれないじゃない！

お咲…不知火小僧！？

お文…お咲ちゃんったら、本物の源太さんですよ？

源太…へい。昨日は化けられちまったが、正真正銘、本物の疾風の源太でございやす！

それよりも、お二方、お千代に何とか言っつてやっつておくんない

お千代…違うんです！兄さんがわからずやなんです！

お文…あらあら、どうしたんですか？

源太…それが…お千代の奴がまだ旅に立ちたくないと言ひ出しやして…

お千代…だって、宝太郎さんにきちんとお礼も言えてないのよ？ それに、

私このまま旅に出たらきつと一生後悔すると思うの！

お咲…：あ、もしかしてあの話？

源太…あの話ってのはなんだ？

お千代…！！何でもないのよ

お咲…すみません、あたしったら余計な事言っちゃって…

源太…いやいや、兄ちゃんに隠し事か？ダメだぞ！ちゃんと言いなさい！

お千代…もう！子供扱いしないでよ！ お咲ちゃんと…その、恋のお話をただけで…

お咲…そうなんです！好きな人の話を…

源太…恋？…好きな人…？

お千代…やだ、ちよつと兄さん？ 顔がひきつつてるわよ

お文..もしかして、宝二郎のこと？

源太..何ですって！？若旦那が！？

お千代..兄さん目が怖い！

お咲..源太さん！お千代さんだって、年頃の娘さんなんです！恋の一つや二つ

したっておかしくありません！

源太..でもだからって..

お千代..若旦那様のそばにいと、とても暖かい気持ちになれるの..

今まで生きて来てこんな気持ち初めてだったわ。それに、作った簪を

私にくれたのよ

お文..まあ、それは..

源太..女将さんもご存じなんですかい？

お文…ええ、あの子は平ちゃんに憧れて見様見真似で、簪を作っていたんです。

でも、決して誰かに渡したりはしなかった。いつか本当に大切な人ができたとき

その人に一番最初に渡したいんだって

お咲…素敵…お千代さんはその最初の人ってことですよね？

源太……お千代、おめえ本当に若旦那が好きなのか？

お千代…ええ、兄さん。私、宝二郎さんが好きよ

お文…源太さん、たった一人の妹さんですもの。心配なのはわかります。でも…

清水屋を、いえ、私の息子を信用してもらえませんか？

お咲…私からもお願いです！

源太…いつかはこんな日がくるんじゃないかねえかと思っております…

お千代…兄さん…

源太.. 気が付かねえうちに、随分と大人になったんだな.. 妹離れできてねえのは

どうやら、あっしだけのようで... へい、それじゃあお千代のこと、

よろしくお願いいたしやす。

新吉とお光がやってくる

お咲.. ご出立ですか？

新吉.. はい、江戸に戻ろうと思います！

お文.. 昨夜は騒ぎに巻き込んでしまい、申し訳ありませんでした。

お光.. いえ、貴重な体験ができました。ね、新吉さん

新吉.. ああ、殺されるかもしれないと思ったら、猛烈に死にたくないって思えてきて...

不思議ですよ、心中するためにここまでやってきたっていうのに

お咲.. 心中！？そんなダメです！命は大事にしてください！

新吉.. そうですよね！！あなた方の親子の情愛、感動しました！！

お光.. 親子の絆って本当に素晴らしいです！私も親子の絆を信じてもう一度、

お父つつあんをお願いしてみようと思います。

新吉さんと一緒にさせてくれって.. ね？

新吉.. ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ.. 生きていけば、何度だって

やり直せる..

お光.. これはほんのお礼です。

お光、包みをお文に渡す

お文..ありがとうございます

新吉..本当にありがとうございます。さあ、おみっちゃん、おいらと一緒に

行こうじゃねえか

お光..ええ。

仲睦まじく出ていく二人

お文..あら..五両も！お客様、いけませんこんなに頂けません！

源太..いいじゃありませんか、あの二人にしてみりゃあ、命を買ったような

もんですから。

お文..そうですか？じゃあ、ありがたく..

お咲…女将さん。お千代さんの持ってきた五十両に、不知火小僧のくれた五十両

そしてこの五両で、えーと、えっと…

お千代…百五両ですよ

お咲…そうです！清水一泊百五両です！

お文…まあ、本当だわ…

鈴の音がする

源太…何の音だ？

お文…宝ちゃんだわ！枕元に、すぐならせるように鈴を置いておいたの！

宝ちゃんの目がさめたのよ！宝ちゃん！

お文 奥へ行く 見送る三人

源太…：そうか、宝太郎さん目が覚めたんだな。

お千代…：良かった、これでお礼がいえるわ

お咲…：旦那様、きつと驚くでしょうね！だって、助けた娘さんが倒れている間に

息子の嫁になろうとしてるんですから

源太…：いや！嫁とか、そういうのはまだ早えような…でも、お千代も年頃だし…

あんまり言い過ぎて嫌われても兄として…

一人、悶々と悩む源太。こっそり出て来る宝二郎に連れられて

奥へ行くお千代

お咲…：あのー源太さん？

源太…!!

お咲…お千代さんなら行っちゃいましたよ

源太…なっ…まで！俺もいく！！こら！手をつなぐんじゃねえ！！まだ早い！！

怒りながら奥へいく源太

お咲…ふふ、お千代さんはお兄さんにたくさん愛されてる…あたしも、父ちゃんと、母ちゃんと

おつかさん、みんなに愛されてるんだ…

深呼吸して大きくうなづくお咲(木)

草履をそろえたりして奥へ 徐々に暗転

エンディング【あ】嗚呼、喧嘩するほど仲が良いEND 佐吉

登場人物

平太郎・お静・お咲・佐吉・お豊・新吉・お光

板付きの平太郎一家とお豊

お咲：お豊さん、いろいろとお世話になりました。

お豊：こちらこそ、ありがとうね。またいつでも清水屋にきてちょうだい

平太郎：それにしても、俺が出たって時に入ってきた新人女中が、今じゃ、女中頭とはなあ

お静：二十年ぶりだものね、本来なら宝太郎さんにも、会ってお話があったけど

今日は帰ります。また便りをかきますから

お豊：お願いします！ きつとみんなも喜びますんで

お咲：あれ？そういえば若旦那様は…？

お豊：お千代さんたちをお見送りしているので、もしかしたら途中で会うかもね

平太郎：見送りって、何だよ。俺達の見送りはねえのか？

お咲：仕方ないよ、だって若旦那様はお千代さんが好きなんだから

驚いてる平太郎夫婦、新吉とお光がやってくる

お豊：ご出立ですか？

新吉：はい！江戸にもどろうと思います！

お豊：昨晚は騒ぎに巻き込んでしまつて、申し訳ありませんでした。

お光：いえ！貴重な体験ができました、ね、新吉さん

新吉…殺されるかもしれないと思ったら、猛烈に死にたくないと思えてきて…不思議ですよ

心中するためにここまでやってきたっていうのに

お豊…心中！？…なるほど！それで怪しかったんだ！

平太郎たちのところへ行つて

新吉…あなた方の親子の情愛、感動しました！！

お光…親子の絆って本当に素晴らしいです！私も親子の絆を信じてもう一度、

お父つつあんにお願いしてみようと思います。

新吉さんと一緒にさせてくれって…ね？

新吉…ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ…生きていけば、何度だって

やり直せる

お光..改めて思いました、生きているって素晴らしい事なんだって

佐吉がやってくる

佐吉..おうごめんよ！邪魔するぜ！

平太郎..佐吉！？おめえ本物か！？

佐吉..よしてくれよ平太郎さん、十手持ちが不知火小僧に化けられたって、番屋でも

笑われちまってるんだからさ！

お豊..本当に？ この面をこうやってめくれば..

佐吉..いてててててて！！無茶すんなって！

一同笑う

お光：これはほんのお礼です！

お光、宝二郎に包みを渡す。

新吉：本当にありがとうございました、さあ、おみっちゃんおいらと一緒にいこうじゃねえか！

仲睦まじく去っていく新吉とお光

お豊：これ、五両も入ってますけど…

お咲：そんなに！？

お静：昨夜でたくさんのお金がこの清水屋にきたんですね

佐吉：ああ、お千代さんのもってきた五十両に、不知火小僧の五十両、そして

その五両で、清水一泊百五両ってわけだ

平太郎…：贖金なんて作らねえで、本当によかったよ

佐吉…：まったくだ、そんなことをしてりゃあ、おめえさんもお縄になっていた。

何にしても、宝太郎さんを刺したのが平太郎さんだと疑っちゃったのも

俺だし、その噂のせいで、清水屋は傾いちゃったんだ…：本当に申し訳ねえ…

お豊さん、ごめんな？

お豊…：！！ 佐吉の親方に頭下げられたら、何だか調子狂うじゃないですか

平太郎…：もう二度と博打には手を出さねえ、仕事一本で頑張っていくぜ

お静…：お前さん、その言葉信じてるよ。きつとお兄さんだって喜んでくれるはずさ

目が覚めたら、ちゃんと仲直りするんだよ。

平太郎…：でもよう、二十年だぜ？ 今更どんな顔して会えばいいか…

お豊…笑っても、泣いても、怒っても、別にどんな顔だっていいんです！

旦那様の顔を見たら、きつとわかります。だって、ずっと弟さんのことを心配してきたんですから

平太郎…：兄貴が…

お咲…そうだよ、そうじゃなきゃ、いいなり地蔵に大金をもっていったりしないはずだもん

佐吉…平太郎さん、雨降って地固まるって言葉もあるんだぜ

平太郎…わかった、そうだよな。もう意地張ったりしねえ。

お静…うん、約束だよ

指切りをするお静と平太郎 鈴の音が鳴る

お咲…この鈴の音…

お豊…旦那様です！枕元に鈴が置いてあって、目が覚めたらすぐにならせるように

してあるんです！

佐吉…それじゃあ、宝太郎さんの目が覚めたんだな！

平太郎…：

寄り添うお静とお咲

平太郎…お静…お咲…

お静…いっておいでよ、たった二人きりの兄弟なんだ。

お咲…大丈夫だよ、父ちゃん、きつとうまくいく！

平太郎…：

お静…やれやれ、ほんと世話のかかる人だこと。ほら、一緒に行こうよ

お咲…連れてってあげる！

平太郎…すまねえ…

平太郎、お静とお咲に連れられて 奥へ行く

お豊…いいなあ…家族ってやっぱりいいもんですね

佐吉…確かにな

お豊…あたしもいつか、素敵な人と所帯を持って、幸せな家庭を築いてみたいもんです！

佐吉…いいかもな、おめえさんならいいおかみさんになれそうだ

お豊…

佐吉…何だよ

お豊…もしかして佐吉の親方って、あたしのこと好きなんですか？

佐吉…!! な、何馬鹿なこといつてんだ! 誰がおめえさんみたいなへちやむくれ!

お豊…はあ? 誰を捕まえていつてんだい! そういうお前さんこそ、何だよその顔!

佐吉…俺の顔が何だつてんだよ! こちとら、十手もちだぞ! 目明しだぞ!

お豊…目明しだか夜明かしだか知らないけどね! あたしは清水屋の女中頭なんだよ!

佐吉…だから何だつてんだ!

お豊…このやろう! やるか?

佐吉…やつてやるよ!

お豊…やれるもんならやつてみる!!

二人 喧嘩 宝二郎とお千代が仲裁しながら 徐々に暗転

エンディング【さ】 さよなら兄さん END 竹庵

登場人物

お豊・源太・竹庵・宝二郎・お千代・新吉・お光

清水屋店先 竹庵がやってくる

竹庵…ん？おや、誰もおらんのか？

お豊 奥から走って来て草鞋を竹庵に渡す

お豊…ちよつとこれ持っててください！！

竹庵…何じゃこりや草鞋？

源太…あれー？おかしいなあ？ここに置いておいたはずなんだが…

源太 上手前から入り

源太…あ！お豊さん、あつしの草鞋知りませんか？

お豊…さあ？ 知りませんよ

源太…えー。どこ行っちゃまったんだ？あれ、竹庵先生

竹庵…源太さんや昨日は大変じゃったな

源太……本物か？それとも…

竹庵…おいおい、そんな怖い顔で睨むんじゃないわい。昨日は不覚だったが、正真正銘

わしは本物の竹庵じゃ

源太…大泥棒不知火小僧じゃねえってなら、その手に持つてる草鞋はなんでい

竹庵…へ？そりゃあ、お豊さんが

竹庵、源太に草鞋を渡す

お豊…だって、だって…これを返してしまつたら源太さん、行ってしまふんでしょ？

源太…へい、お世話になりやした。

お豊…一目見た時から、私はあなたに心を奪われていました。お願いです！

あたしも一緒に連れて行ってください！

源太…お豊さん…申し訳ねえがそいつは、かぶりを縦に振ることはできやしねえ…

清水屋さんにとって、おめえさんはなくてはならない存在だ。

それに、おめえさんは堅気、俺は渡世人だ。住む世界が違ふんです、

どうかあきらめてやっておくんなさい。

竹庵…源太さんや、お豊さんがここまで思っていないさるんじや前向きに考えてやっても

いいんじゃないのかい？

源太…そう言われましても…

べそかくお豊 お千代と宝二郎入り

草鞋をはく源太

宝二郎…あの、お千代さん…！

お千代…若旦那様…

二人見つめあうが何も言い出せない宝二郎

新吉…お世話になりました！

新吉とお光がやってくる

お豊：ご出立ですか？

新吉：はい、江戸に戻ろうと思えます！

お豊：昨夜は騒ぎに巻き込んでしまい、申し訳ありませんでした。

お光：いえ、貴重な体験ができました。ね、新吉さん

新吉：ああ、殺されるかもしれないと思ったら、猛烈に死にたくないって思えてきて…

不思議ですよね、心中するためにここまでやってきたっていうのに

お豊：そうなんです…心中…心中！？やっぱり何か怪しいと思ってたんですよ！

お千代たちのそばに駆け寄る新吉お光

新吉..あなた方のお互いを思う心、感動しました!!

お光..命がけで相手を思う強さ..私たちに足りないものがわかりました。

新吉..身分や育ちなんて、関係ない、今まで生きてきた世界が違ってたって

そんなことはどうでもいいんだ。だって、こんなに好きなんだから..!

お光..もう一度、お父つつあんにお願いしてみようと思います。

新吉さんと一緒にさせてくれって..ね?

新吉..ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ..生きていれば、何度だって

やり直せる..

お光..これはほんのお礼です。

お光、包みをお豊に渡す

お豊…ありがとうございます。

新吉…本当にありがとうございます。さあ、おみっちゃん、おいらと一緒に行くじゃねえか
お光…ええ。

仲睦まじく出ていく二人

お豊…お幸せに…あらやだ、五両も入ってるじゃない！ お千代さんの持ってきた五十両に

不知火小僧がくれた五十両、そして、この五両…昨夜一晩でこんな大金が…

竹庵…清水一泊百五両じゃな？

宝二郎…源太さん！ 私はお千代さんが好きです！意気地のない、気の弱い気性の私ですが

お千代さんと一緒にいたら強くなれる気がするんです！…必ず幸せにします。

どうか、一緒にさせてください！

お千代…私も！若旦那様のそばにいと暖かい気持ちになれるの…このまま離れるなんて嫌

ずとずっと一緒にいたいわ。

お豊…いやいやいやいや、それはどうなんでしょうかねえ

宝二郎…お豊さん！

お豊…お千代さんは渡世人の妹、若旦那は堅気、住む世界が違ふんです。

一緒になんてなれるわけありません。

竹庵…おいおい…お豊さんや、そりゃあまりにも八つ当たりつてもんじゃ…

お豊…もう！竹庵先生だけはあたしの味方だと思つてたのに！！もういいです！

口出さないでください！

竹庵…わかったわかった！それじゃあ宝太郎の様子を見て来るでな

竹庵奥へ行く

お豊…お千代さん、残念ですが諦めてください。

お千代…そんな…私、若旦那様と一緒に出来ないくらいなら、死んだ方がはるかに

ましよ！

宝二郎…私だって…諦める事なんてできません！

源太…ちよつと待ってくれよ！何もダメだなんて言つてねえだろ！

お千代…え、それじゃあ…

源太…若旦那、お千代の事よろしくお願いいたします。

宝二郎…任せてください。

お豊…源太さん、ほんとにそれでいいんですか？

源太…：へい、かわいい妹の幸せのためだ、お千代が幸せならそれでかまいやせん。

ただ、兄妹二人で旅をしてきたんだ。寂しくないと言ったらウソにならあな。

お豊…：寂しくないですよ、だってあたしがいますから

源太…：お豊さん、おめえさんがいなくなったら清水屋が困るんじゃないやありませんか？

お豊…：痛い所を

源太…：おめえさんは店想いの立派な女中さんだ、清水屋を見捨てる事なんてできねえでしょ

お豊…：もう、源太さんずるいですよー

源太…：お千代。今まで散々苦勞してきたんだ…必ず幸せになるんだぞ。

お千代…：うん！

源太…：兄ちゃんとの約束だ…

お千代…：兄さん…

二人指切りをする。竹庵がやってくる

竹庵…大変じゃ!!宝太郎の目がさめたぞ!

源太…なんですって!

宝二郎…お父つつあんが…すぐにいきます!さあ、お豊さんも早く!

お豊…はい!

宝二郎…お千代さんや源太さんもすぐに来てくださいね!

奥へ行く宝二郎とお豊と竹庵

源太…良かったな…おめえの命の恩人なんだろ?

お千代…ええ、宝太郎さんがいなかったら、今頃私はどうなっていたか…

源太…兄ちゃんもういくよ、皆さんによろしく伝えてくんね

お千代…待って！宝太郎さんに挨拶を…

源太…でもよ、俺はこの通り渡世人だ…嫌がらねえかな？

お千代…宝太郎さんが言ってくれたの、妹を守る為に握っている刀なんだって、渡世人で

いる事は何も恥ずかしいことじゃないんだって

源太…そうか…出来たお人だ。安心しておめえを任せられるよ

お千代…：兄さん、我儘でごめんね

源太…おう

お千代…兄さんいないと何もできなくて、いつも兄さんには甘えてばかり…

私、兄さんとの旅すごくすごく楽しかったわ

源太 お千代を抱きしめる 宝二郎の声が聞こえる

宝二郎…お千代さーん

お千代…あ…

源太…いってこい。このまま、旅に立たなきゃ…兄ちゃん足がにぶっちゃまわあ

お千代…うん、兄さん…近いうちにまた会いに来てちょうだいね

源太…当たり前だ、いいかお千代。これから先、辛い事や苦勞する事もあるかもしれねえ

でもな、宝二郎さんや周りの人を信じて素直におめえらしく生きるんだ

どこにいたってこの疾風の源太、おめえの幸せを(木)祈っているからな

お千代見送り ゆっくりと暗転

エンディング【き】気付いた親のありがたみEND 源太

登場人物

お咲・権蔵・源太・お千代・新吉・お光

お咲板付き 権蔵がやってくる

お咲..あ、浜名湖の権蔵親分さんいらっしやいませー。

権蔵..おう、昨日は大変だったな

お咲..はい...でも、父ちゃんやおつかさんがあたしを女郎に売ろうとしたわけじゃないって

知れたし、怖かったですけど、いい経験になりました！

権蔵..頼もしいやな。おめえはそのまんま、親と帰るかと思ったが清水屋に残る事にしたんだな

お咲..はい！ まだまだ清水屋は大変だと思いますし、せっかくお仕事も覚えましたので！

権蔵…そうか、あんまり無理はすんじゃないやねえぞ。ところでよう、文ちゃんいるかい？

お咲…女将さんなら、いいなり地蔵へお参りにいきましたよ。旦那様がよくなりますようにって

権蔵……そうか。ほんと、宝太郎はつくづく幸せもんだよな。早く、起きて安心させて

やりやあいいのに。

そこへ源太とお千代がやってくる 少しふてくされてるお千代

源太…おい、いい加減にしろよ？ 何もダメだって言ってるわけじゃねえんだ

お父つつあんを探すことが先だって言ってるのがわからねえのか！？

お千代…別に、清水屋さんにいたって探すことはできるじゃない！若旦那様も同じ気持ちだって

言ってくれて、心を込めた簪だって私にくれたのよ？

その様子を心配そうにみているお咲と権蔵

源太…だから、それが我儘だつていつてんだ！ いいからいくぞ！

お千代…いやよ！ 私、宝太郎さんにお礼も言えてない。このまま、旅立つなんて絶対いや！

権蔵…おめえ、不知火小僧だな！？

お千代…親分さん、違うんです！この人は私の兄さんで…

権蔵…あ！よくみりやおめえ、極悪な渡世人じゃねえか

お咲…極悪非道！？

源太…あつしはただの渡世人です！

権蔵……何だかよくわからねえが、悪い奴じゃねえんだな？ でも、さつきその娘に

デカイ声出してやがっただろ！

源太…いやそいつは…

お千代…そうなんです！聞いてください！ひどいんですよ！

権蔵…何だって！？

源太とお千代で権蔵に話をしている

そこへ、新吉とお光がやってくる

お咲…あ、ご出立ですか？

新吉…はい！江戸にもどろうと思います！

お咲…昨晩は騒ぎに巻き込んでしまつて、申し訳ありませんでした。

お光…いえ！貴重な体験ができました、ね、新吉さん

新吉..殺されるかもしれないと思ったら、猛烈に死にたくないと思えてきて...不思議ですよね

心中するためにここまでやってきたっていうのに

お咲..心中!?!だめです!そんな、早まらないでください!

お光..大丈夫です、もう生きて行こうって心に決めましたから

新吉..自らを犠牲にし家族を守ろうとする愛情を目の当たりにして、目が覚めました。

そう、あなたのご両親の覚悟、痺れました!

お咲..ありがとうございます、父ちゃんも、おっかさんもあたしを死ぬ気で

助けようとしてくれて...なんでもっと信用しなかったんだらうって

すごく自分が情けなくなりました。

お光..そんな事ありませんよ! だって私たちはまだまだこれから、色んな事を

知っていくんですもん。

新吉.. そうだね、躓いたり転んだりして、前に前に進んでいくんだ..

お光.. 私、お父つつあんにお願ひしてみようと思います。新吉さんと一緒にさせてくれって.. ね？

新吉.. ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ.. 生きていれば、何度だって

やり直せる..

お光.. これはほんのお礼です。

お光、包みをお咲に渡す

お咲.. ありがとうございます

新吉.. 本当にありがとうございます。さあ、おみっちゃん、おいらと一緒に行くこうじゃねえか

お光.. ええ。

仲睦まじく出ていく二人

権蔵…：あいつらが不知火小僧か？

源太…：そんなわけねえでしょ！

お咲…：これ…：五両も入ってます！こんな大金…

権蔵…：いいじゃねえか、今は物入りなんだ。ありがたくもらったときな

お咲…：お豊さんや女将さんに伝えます！あれ？お千代さんのもってきた五十両に、

不知火小僧のくれた五十両。そしてこの五両で、清水一泊百五両になります！

源太…：百五両たあ、随分と豪華な宿代だ

鈴の音がする

権蔵…：何の音だ？

お咲…旦那様です！ 枕元に鳴らせるように鈴を置いてあるんです！

お千代…じゃあ、宝太郎さんの目が覚めたんですね！

お咲…はい！すみません！どなたか女将さん呼びにいつてもらえますか？

私、いいなり地蔵様の場所がわからなくて…

お千代…じゃあ私が…

源太…かまわねえ、俺が行ってくらあ。…少しでも早く女将さんには知らせたいだろうし

俺もいいなり地蔵さんにはお参りしてえからな。

お千代…兄さん、有難うお願いね。

お咲…すみませんがお願いします！

源太…おう、任せときな！

源太 出ていく

権蔵…じゃあ、俺もそろそろいくよ

お千代…親分さんどちらへ？

権蔵…宝太郎の目が覚めたんだ、大福断ちも終わりだろうからな。買ってきてやろうと

思つてよ。

お咲…親分さんは、女将さんが大好きなんです

権蔵…へへ。まあな

照れ笑いをして権蔵 出ていく

お咲…お千代さん、いきましょ！

お千代…宝太郎さん驚かないですかね…

お咲…今頃、お豊さんや若旦那様が対応してくれてるとは思いますけど…

お千代さんは一度会ってるじゃありませんか。

お千代…まあ…助けていただきましたけど

お咲…私なんて、はじめまして、平太郎の娘のお咲です、あと、新人女中ですって

盛りだくさんな挨拶をしないといけないんですから

お千代…わ、宝太郎さんびつくりしちゃいますね

お咲…しかも、助けた旅の娘と自分の息子が好き同士になってるなんてね

お千代…そうですね。うふふ…え？

お咲…ほら、いきましょお千代さん

手を出すお咲 恥ずかしさをごまかしながら、その手を握るお千代(木)

二人 クスクスわらいながら 奥へ 暗転

エンディング【ゆ】夢にまでみた親子対面END 佐吉

登場人物

宝二郎・お亀・お千代・源太・佐吉・新吉・お光

清水屋店先 お千代と宝二郎板付き そこへお亀がやってくる

お亀…何してんですか？こんなところで

宝二郎…お亀…

お亀…あれ、お千代さんのさしている簪…どこかで見たような…

お千代…若旦那様がくださったんです。

源太がやってくる

源太…ここにいたのか、お千代…もう旅に立たなきやいけねえ、支度をしてきな

お千代…兄さんまってちょうだい！私、若旦那様の事が好きなの！お願い、二人の仲を

許してちょうだい！

源太…馬鹿な事言ってるんじゃないねえ！ そんなことできるわけねえだろ！

お亀…源太さん、ちょっと待ってください。大切な妹さんですから…心配なのはわかります

でも、二人の話も聞いて上げた方がいいんじゃないですかねえ？

源太…お亀さん…ですが

宝二郎…源太さん！私はお千代さんが好きです、弱きで意気地のない私ですが

お千代さんといると強くなれる気がするんです、どうか、一緒に

させてください！お願いします！

源太…

新吉とお光がやってくる

お亀…ご出立ですか？

新吉…はい、江戸に戻ろうと思います！

お亀…昨夜は騒ぎに巻き込んでしまい、申し訳ありませんでした。

お光…いえ、貴重な体験ができました。ね、新吉さん

新吉…ああ、殺されるかもしれないと思ったら、猛烈に死にたくないって思えてきて…

不思議ですよ、心中するためにここまでやってきたっていうのに

お亀…うお、まさかの展開…

新吉…あなた方のお互いを思い守り合う姿感動しました！

お光..愛し合う二人は、命をかけてでもお互いを思い合うんですよね！私、もう一度、

お父つつあんにお願ひしてみようと思います。

新吉さんと一緒にさせてくれって...ね？

新吉..ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ...生きていれば、何度だって

やり直せる...

お光..これはほんのお礼です。

お光、包みをお亀に渡す

お亀..ありがとうございます

新吉..本当にありがとうございます。さあ、おみっちゃん、おいらと一緒に

行こうじゃねえか

お光…ええ。

仲睦まじく出ていく二人

お亀…ありや…五両も入ってる！

宝二郎…そんな大金が？

お亀…いやあ、お千代さんの持ってきた五十両に、不知火小僧のくれた五十両そしてこの五両で

百五両…清水一泊百五両ですね！

お千代…兄さんお願い、私、若旦那様が好きなの…

宝二郎…源太さん、お願いします！

源太…

佐吉がやってくる

佐吉…ごめんよ！

お亀…あ！不知火小僧だ！

佐吉…よせやい、俺はれっきとした本物の佐吉だよ

宝二郎…親方さん、今日はどうしてこちらに？

佐吉…今話に出ていた不知火小僧だ。源太さんにお千代さん、おめえさん方の

お父つつあんなんだってな？

源太…なんでそれを…

お亀…へへ、地獄耳のお亀たあ、あたしのことです！

お千代…親方さん、お父つつあんは確かに泥棒かもしれませんが。でも、困ってる人を助ける

義賊なんです！

佐吉…ああ、わかってるよ。それに、おめえさん方を大事に思ってるってこともな

源太…あつしらを？ですか…？

佐吉…ああ、危険を承知でわざわざ、目明しである俺に成りすましてまで、清水屋と

おめえさん方兄妹を助けたかったんだろうさ

お亀…なるほど…：てつきり佐吉の親方がおまぬけだから、化けやすかったのかと

佐吉…うるせえよ！！

宝二郎…佐吉の親方はちよつと暑苦しいだけで、別にまぬけじゃないよ

佐吉…暑苦しいか？オレ…

お千代…親方さん…、私たちからお父つつあんの居場所を聞こうとしているんなら

それは諦めてください。未だに巡り合える事ができないんです。

源太…今回はさすがに会えると思ったが、また案の定逃げられちゃった…

お亀…どうして、会わずに逃げ回ってるんでしょね？

佐吉…親心つてもんを考えると…苦勞をかけたくねえからだろうな

源太…今更じゃござんせんか！ おつかさんが亡くなってから、もう何年も何年も

探し続けて…もう、いい加減疲れましたよ

お千代…兄さん…

宝二郎…源太さん、渡世の道はいばらの道と聞きます。今日あつて明日ないその命…

貴方たち兄妹の父親探しは、帰る場所がある方がいいんじゃないでしょうか？

源太…帰る…場所？

宝二郎…清水屋は、いつだって待っています。もちろん、お千代さんを守ってくれと言われれば

私は喜んで守りましょう、頼りないかもしれませんが、清水屋の跡取りとして

必ず約束いたします！

鈴の音がする

佐吉…何の音だ？

宝二郎…お父つつあんだ！枕元に、すぐならせるように鈴を置いておいたんです！

お亀…旦那様の目が覚めたってことですね！！こうしちゃいられねえや！んじゃ。

いってめいりやす！

佐吉…おい、亀！どこいくんだ？

お亀…そりゃあ、もちろん瓦版屋でさあ！！号外！号外！！！！

お亀 外へ行く

佐吉…：そうか、宝太郎さんが目が覚めたんだな。よかったよかった

源太…親方さん、おめえさんはこの宿場の平和を守る十手持ちだ…その守る宿場の人間に

俺の妹をくわえてもかまいませんかい？

佐吉…任せときな

宝二郎…それじゃあ…源太さん！

源太…若旦那、お千代の事、お願いいたしやす！

宝二郎…はい！任せてください！

源太…お千代、必ず幸せになるんだぞ？兄ちゃんとの約束だ

お千代…ええ、兄さん…

源太…ほら、若旦那といってこい。

お千代 宝二郎 奥へ行く

佐吉…源太さん、今から追いかけるのかい？

源太…へい、不知火小僧を探しにめいりやす…まるで雲をつかむようだが、諦めやしねえ…

おれと親父の根競べだ。それじゃあ、ごめんなすって…待ってるよクソ親父

夢にまでみた親子の対面、必ずはたしてやらあ、俺が行くまで死ぬんじゃねえぞ！

源太 決め 佐吉見送り 暗転

エンディング【め】芽吹く幸せEND 竹庵

登場人物

お豊・竹庵・平太郎・お静・お咲・新吉・お光

清水屋店先 お豊が板付きで掃除をしてる

竹庵…ひひひ

竹庵がやってきてお尻をさわる

お豊…！！

竹庵…おお、このたるんだ感じ、お豊さんじゃ！

お豊…竹庵先生！ん？待てよ…懸賞金…五十両…

竹庵…ん？、どうした？

お豊…不知火小僧！！覚悟ー！！

竹庵…は？ こりゃ！落ち着かんか！わしじゃ！竹庵じゃ！

お豊…昨日も竹庵先生にばけてましたからね！もう騙されませんよ！！

竹庵…おいおい、冗談はよしとくれ！

お豊…待てー！！

お豊が竹庵を追いかけまわす　そこへ平太郎一家がやってくる

お咲…あれ？お豊さん？

平太郎…何だか騒がしい事になってんなあ…

お静…追いかけてらるの、竹庵先生じゃないかい？

竹庵…：はあはあ、お豊さんいい加減にしてくれ

お豊…いやいや！！不知火小僧なんでしょう！！白状しなさい！

竹庵…何をいうとるんじゃ、ほれ、桃栗三年、柿八年！はいすーいすい！どうじゃ！

お咲…間違いありません、この踊りと歌は竹庵先生ですよ！

平太郎…いやあ、懐かしいなあその歌！

お豊…んー、でも怪しいような…ちよつと息があがってませんか？

お静…それはさつきから走ってたからだと思えますよ

お豊…そうですかあ？　じゃあ、竹庵先生か。なーんだ

竹庵…なんだとはなんじゃ！

新吉…あの一

新吉とお光がやってくる

お豊：おはようございます。

新吉：おはようございます！

お豊：昨夜は騒ぎに巻き込んでしまい、申し訳ありませんでした。

お光：いえ、貴重な体験ができました。ね、新吉さん

新吉：ああ、殺されるかもしれないと思ったら、猛烈に死にたくないって思えてきて…

不思議ですよ、心中するためにここまでやってきたっていうのに

お豊：はあ？心中！？…まさかそんな事になっていたなんて…いや、でも何か怪しいとは

新吉：死ぬんじゃない、二人で生きて行こうと決めました。

お静：あのー、そもそもどうして駆け落ちなんてしたんですか？

お光：私、江戸の料亭水月の一人娘なんです。新吉さんはそこで働いていた手代で…

平太郎…身分違いの恋ってやつか、燃えるねえ！

新吉…旦那様に話をして許してもらえず、どうせ一緒になれないなら、一緒に逃げよう
そして、二人死のうって決めたんです。

お豊…何もその死に場所にうちを選ばなくたっていいでしょうに…

新吉…おいら、幼い頃にここに泊った事がありまして思い出がたくさんあるんです。

それに心中岬と呼ばれるところもあると聞きました…

お咲…もしかして、裏口の先のところですか？あ、だから、やたらとあっちに行こうと

してたんだ！

お光…でも、今は死のうなんて考えていません。二人で精一杯生きて行こうと思います！

竹庵…それじゃあ、料亭に帰るのかね？

新吉…それは…

お光.. いやです！あんなわからずやなお父つつあんのところになんか、帰りたくありません！
お静.. でも、きつといなくなったりしてとても心配してると思えますよ。

平太郎.. そうだぜ、江戸に帰った方がいいんじゃないかねえのか？

新吉.. いえ！昨日二人で考えたんですけど、その、清水屋で二人働かせてもらえませんか？

一同 驚く

お光.. お仕事、ちゃんと覚えます！だから、お願いします！

お豊.. まあ、そうなんですか？大丈夫です！仕事のことなら、この女中頭のお豊さんが

教えてあげますからね！！

竹庵.. 待ちなされ、よく考えてみんかね

新吉…なんですか！いいじゃありませんか！ここなら、二人でずっと一緒にいられるし

仕事もできるんですから

お豊…そうですよ！ただでさえ、奉公人がいないんだから、茶々入れないで下さい！

竹庵…：新吉さんと、お光ちゃんじゃったかな？あんたらは、ゆくゆくは夫婦になって

二人の間に子供ができたりもするじやろう

照れながら嬉しそうな二人

竹庵…それが可愛いらしい女の子で、よちよち歩いたり、お父っちゃんとか、おっかちゃんと

たどたどしく喋ったりして…年頃になったら、会ってもらいたい人がいる、

好きな人ができたから一緒にになりたいといってきたら、どうする？

新吉…それは…

平太郎…いやだああああ!!!!

お咲…父ちゃん痛いよ!抱き着かないで

平太郎…お咲!!!おめえはまだ嫁になんか行かせねえからなあ!!!

お静…お前さん落ち着いておくれよ

新吉…でも、おいらも同じ気持ちです!

お光…そうです、とても大切な娘を誰かわからない男になんて、あげられるわけありません!

竹庵……そうじゃろ?きつと、あんたのお父つつあんも同じ気持ちだったんじゃないやと思うよ

お光…あ…

お静…大丈夫ですよ。話せばきつとうまくいきます。そう思えばそうなんですって

新吉…そう思えばそう…

お豊…うちの女将さんの言葉ですな

お光…：私、もう一度お父つつあんにお願ひしてみようかしら

新吉…：そうだね、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ…：生きていれば、何度だって

やり直せる…

お光…：そうね、生きて行こうって決めたんだもの。…：これはほんのお礼です。

お光、包みをお豊に渡す

お豊…：ありがとうございます

新吉…：本当にありがとうございます。さあ、おみっちゃん、おいらと一緒に

行こうじゃねえか

お光…：ええ。

仲睦まじく出ていく二人

平太郎…お咲い！おめえもいつか嫁に…うう…

お静…お前さん気が早いっての

お豊…やだあのお客さん五両もくれましたよ！

お咲…そんな大金を！？

お豊…いやーこれで百五両か…ってことは、清水一泊百五両ですね！

平太郎…どういこうった？

お豊…お千代さんの返しにきた五十両と

お静…不知火小僧の返しにきた五十両がありますから。今の五両と合わせて百五両です。

お咲…やっぱり世間の噂通り、不知火小僧は困ってる人を助ける義賊だったんだね

平太郎…ああ、俺は偽物の口車にまんまと乗せられてたってわけか…つくづく情けねえよ

竹庵…平太郎や、お前は昔つかからそそつかしいからなあ。これに懲りて、二度と博打なんてするんじゃないぞ？

平太郎…：へい、博打はしません！もう二度と！金輪際！

お咲…本当？

平太郎…おうさ、賭けたっていいぜ！

お豊…じゃあ、ダメな方にうどん一杯！

お咲・お静・佐吉…調子にのるんじゃない！

平太郎・お豊…へへへ

お静…これからは親子三人力合わせて生きて行こうね

平太郎…ああ

お咲…父ちゃん、いつかあたしにも飾りや簪の作り方、教えてネ

鈴の音が鳴る

平太郎…なんだ？何の音だ？

お豊…旦那様です！ 枕元に鳴らせるように鈴を置いてありまして、きっと旦那様の

目が覚めたんですよ！

お静…お前さん、よかったね…

平太郎…ああ、これでちゃんと謝る事ができらあ

竹庵…良かったなあ、本当に良かった…

お静…竹庵先生…いろいろとありがとうございます。

竹庵…なあに、また困った事があつたらいつでも頼っておくれ。

お咲…でも、もうお尻はさわらないでくださいね？

竹庵…いやー、久々に若い子のハリのあるお尻が…

平太郎…おい、どういうこった？まさか先生…

お豊…ほら！みんなで旦那様に会いに行きましょうよ！

竹庵…そうじゃな！ほれ、平太郎いくぞ！

平太郎…おう！兄貴！！！！

竹庵 お静 平太郎 奥へ

お豊…ほら、お咲ちゃんもいかないの？

お咲…あの、お豊さん。ごめんなさい…まだまだこれからお店が大変なのに

でも…どうしても心配で…

お豊…うん、大丈夫よお咲ちゃん。だって家族が一番だもん。あたしはもちろん

女将さんも旦那様もきつとわかってくれるわよ

お咲…：これからお店の為に頑張ろうと思ったのに、我儘いって本当にごめんなさい

お豊…我儘なんかじゃないよ、だから気にすることなんてないんだ

またいつでも、清水屋で働きたくなったらきたらいいからね

お咲…お豊さん…ありがとうございます！

お豊…不知火小僧のおかげで、色んな事が芽吹いてきた…あたしもそろそろ、

本気を出すつきやないね

お咲…お豊さんの本気？

お豊…そりゃそうさ、女中の中の女中だもの。清水屋をきつと元々通りの(木)宿にしてみせるよ

徐々に暗転

エンディング【み】みんなで会いに行こうEND 源太

登場人物

お文・平太郎・お静・お咲・新吉・お光

板付きのお文

平太郎一家がやってくる

お咲..あ、女将さん、おはようございます！

お文..皆さん、おはようございます。平ちゃん、手の怪我は大丈夫？

平太郎..竹庵先生がすぐに治療をしてくれたおかげでだいぶよくなりました。

お静..利き手を切られた時は本当に驚きましたよ。

お文…そうですね…でも、無事で本当に良かったです。今日は、これから三人で島田へ

帰るの？

平太郎…ああ、また改めて顔を出そうかと…

お咲…父ちゃん！、ごめん、やっぱりいろいろ心配だし、あたし、清水屋に残ろうと思うよ

お文…お咲ちゃん…帰らなくていいの？

平太郎…お咲ー なんでだよ！三人で暮らせばいいじゃねえか！ まさかおめえやっぱり…

お咲…違うよ、おっかさんが気まずいとかそういうんじゃないんだ。あたしが、清水屋さんの

ために頑張りたいって思っただけ、おっかさん、いいかな？

お静…大丈夫、おっかさんはちゃんとわかってるよ、新人女中として、いろんな仕事も覚えたん

だつてね？…頑張るんだよ

お咲…うん！

そこへ、新吉とお光がやってくる

お文：ご出立ですか？

新吉：はい！江戸にもどろうと思います！

お文：昨晩は騒ぎに巻き込んでしまつて、申し訳ありませんでした。

お光：いえ！貴重な体験ができました、ね、新吉さん

新吉：殺されるかもしれないと思ったら、猛烈に死にたくないと思えてきて…不思議ですよ

心中するためにここまでやってきたっていうのに

お文：え？心中！？そんな…

平太郎たちのところへ行つて

新吉..あなた方の親子の情愛、感動しました!!

お光..親子の絆って本当に素晴らしいです!私も親子の絆を信じてもう一度、

お父つつあんにお願いしてみようと思います。

新吉さんと一緒にさせてくれて..ね?

新吉..ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ..生きていれば、何度だって

やり直せる

お光..改めて思いました、生きているって素晴らしい事なんだって

これはほんのお礼です!

お光、お文に包みを渡す。

新吉..本当にありがとうございます、さあ、おみっちゃんおいらと一緒にいこうじゃねえか!

仲睦まじく去っていく新吉とお光

お文…まあ！五両も…いけません！お客様…

平太郎…もらつときやあいじゃねえか、生きる希望を与えられたんだからさ

お文…そう？…じゃあありがたく…

お静…一晩でたくさんのお金がこの清水屋にきたんですね

お文…ええ、お千代さんのもってきた五十両に、不知火小僧の五十両、そして

その五両で、清水一泊百五両です。

平太郎…：贖金なんて作らねえで、本当によかったよ

お咲…元はといえば父ちゃんが博打なんかするからいけないんだからね？

不知火小僧にちゃんとお礼いわないと！

お文…ほんと、不知火小僧のおかげね。

平太郎…まったくだぜ。あれ？ところで、不知火小僧が化けてたあの渡世人はどこ

いったんだ？

お文…源太さんとお千代さんなら、宝二郎と一緒にいいなり地蔵にお参りにいったわ。

宝ちゃんがよくなりますようにって、それと…お父つつあんに早く会えるようにって

お静…まあ、あのお二人はお父つつあんを探して旅をしていたんですね

平太郎…そりゃあ、一日も早く巡り合えりゃあいいもんだな…まあ、離れていったって

親子は親子だ、肉親の絆ってもんはそう簡単に切れやしねえさ

お文…平ちゃん、それって兄弟でも同じだと思わない？

平太郎…へ？

お咲…そうだよ、旦那様が気が付いたらちゃんと仲直りしなきゃだめだからね？

お静…家族のために頑張れるお前さんなんだから、きっと大丈夫だよ

平太郎…ああ…そうだな。兄貴には、きちんと礼もいいてえし…何より、久しぶりに会うんだ

あの頃に戻って話がしてえよ

鈴の音が鳴る

お咲…この鈴の音…

お文…宝ちゃんだわ！枕元に鈴が置いてあって、目が覚めたらすぐにならせるように

してあるの！

お静…それじゃあ、お兄さんの目が覚めたんですね

お文…ええ、宝ちゃん！！！！

お咲…よかった、旦那様の目が覚めて

はけるお文

お咲…ほら、一緒にいこ？

お静…大丈夫だよ、お前さん、きつとうまくいく…仲直りできるさ、そうしたいって気持ち

伝わるはずだろ？ ね？ お文さんが言ってたんだ、そう思えばそう。って

平太郎…そう思えばそう…そうだな、うん、そうかもしれないねえな。へへ

お咲…父ちゃん？

平太郎…よし、お静、お咲、オレと一緒に【木】きてくれるか？

お静…ええ

お咲…うん！

平太郎一家 奥へ行く 徐々に暗転

エンディング【し】不知火小僧からの最後の手紙END 佐吉

登場人物

お亀・宝二郎・お千代・源太・新吉・お光

板付きのお亀

奥から宝二郎がやってくる

宝二郎…お亀おはよう、清水屋に戻る事にしたんだね

お亀…ええ、いろんな職を転々としましたが、旅籠の女中が性にあってるようでして

あ、これ見てくださいよ、すごくないですか？

宝二郎…なんだいこれ、瓦版！？ え、昨日のことがもう瓦版でとりあげられてるのかい！？

お亀…義賊を騙る半人前な巾着切り半次、偽の小判で賭場荒らし 闇の中の清水屋騒動！

うーん、昨晚はほんとてんやわんやでしたからねえ

宝二郎…でも、誰の命も失われずに済んでよかったよ、平太郎おじさんの腕は心配だけど…

お亀…まあ、そばに竹庵先生もいたし、大丈夫ですよ！あと、この瓦版なんですけどー

この一文がどうしてもひつかかるんですよ…

宝二郎…どれどれ？ 明け五つ 鴉と千鳥 願い事 なかずとばずで 振り向き笑え

お亀…なーんか不知火小僧の予告みたいじゃないですか？

宝二郎…確かに、言われてみれば…でもどういう意味なんだろう？佐吉の親方に

聞いてみようか？

お亀…ダメですよ！また不知火小僧かもしれません！

宝二郎…いやいや、昨日は変装してただけじゃないか

お亀…そうかなあ？あ！ それより、お千代さんに思いは伝えたんですか？

宝二郎…いや、それがまだ…って、何で知ってるんだよ！

お亀…このお亀は何だってお見通しですからねえ。うじうじしてないで、男らしく

好きだああ！！って言うてしまえばいいのに。

宝二郎…そんな事ができたら苦労しないよ！

お亀…ダメですねえ、よし、じゃあちよつと練習しましょう！練習？

宝二郎…練習？そんなの無理だつて

お亀…甘ったれるんじゃない！ほら、情熱的に想いをこめて！好きだあああ！！どうぞ

宝二郎…うう、す、好きだあ

お亀…へたくそ！！風呂の中で屁こいてんじゃないですよ！？もつと、想いをこめて！！

宝二郎…好きだ！！

お亀…もつともつと!!

宝二郎…好きだあああああ!!

そこへ、新吉とお光がやってくる

新吉…!! すみませんが、おいらにはおみっちゃんがいるので!

宝二郎…え? あ! いえ、その!

お亀…ご出立ですか?

新吉…はい! 江戸にもどろうと思います!

宝二郎…昨夜は騒ぎに巻き込んでしまい、申し訳ありませんでした。

お光…いえ、貴重な体験ができました。ね、新吉さん

新吉.. ああ、殺されるかもしれないと思ったら、猛烈に死にたくないって思えてきて…

不思議ですよね、心中するためにここまでやってきたっていうのに

お亀.. 心中！？そりゃまた、ぶっそうなこと…

源太とお千代がやってくる

新吉.. あなた方兄妹の絆、感動しました！！

お光.. そして、若旦那様の身を挺してかばう姿…とても愛を感じました！

新吉.. 生きて来た世界が違っても思いは通じ合うんですね！

お光.. 私、もう一度、お父つつあんにお願いしてみようと思います。

新吉さんと一緒にさせてくれって…ね？

新吉…ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ…生きていけば、何度だって

やり直せる…

お光…これはほんのお礼です。

お光、包みをお亀に渡す

新吉…本当にありがとうございました。さあ、おみっちゃん、おいらと一緒に

行こうじゃねえか

お光…ええ。

仲睦まじく出ていく二人

宝二郎…これ、五両も入ってるよ！

お亀…太つ腹ですなあ

源太…いいじゃありませんか、清水屋に泊まった事であの二人には希望が見えたんだ
お亀…ですね、それにお千代さんが持って来てくれた五十両に、不知火小僧がくれた

五十両、そしてこの五両！一晩でこんなに大金が集まったんですから

源太…へい。清水一泊百五両でござんすね。

宝二郎……あの！本当にもう、行かれるんですか？

源太…へい、お世話になりやした。

源太…それじゃあ、ごめんなすつて。

宝二郎…源太さん！ちよつと待つてください！

お千代…若旦那様…

宝二郎…私は、お千代さんの事が好きです。今まで、弱気で自分に自信の持てなかった

私が、初めて強くなりたいたいと思っただけです。お千代さんを守るには

まだまだ頼りないかもしれませんが、どうか一緒にさせてもらえませんか？

お千代…兄さん私からもお願い！ 若旦那様のそばにいと、暖かい気持ちになって

とても幸せなの、このまま離れるなんて嫌…でも、そんな我儘言ったりしたら

兄さんが独りぼっちになってしまう…

宝二郎…お千代さん…

お亀…別にいいじゃないですか！今生の別れじゃあるまいし！

お千代…でも、ずっと二人で旅をしてきたんです。お父つつあんを探すために

私だけ幸せになるなんて…

源太…馬鹿だな…おめえの幸せが兄ちゃんの幸せに決まってるじゃねえか

お千代…兄さん…

源太…いつかはこんな日がくるんじゃないかねえかと思ってたんだ…ちよいと早いような

気もしたが、いつの間にかおめえも大人になったって事なのかもな

お亀…源太さん、お二人のお父つつあんって…

源太…今さら隠したって仕方ねえか、へい、不知火小僧と呼ばれておりやす

お亀…え！！あの義賊と言われた！？ひえ、寝耳に水とはこのことですかあ

宝二郎…あああああ！！！！

お亀…なんですか！大きい声出して

宝二郎…瓦版の！予告状！！ほら、これ見てください！

源太…明け五つ 鴉と千鳥 願い事 なかずとぼずで 振り向き笑え…こいつは、明け五つに

鴉と千鳥、こいつは間違いない俺とお千代のことだ

お千代…え…じゃあ、これは…もしかしてお父つつあんからの？

源太…おそろくな。まだ遠くにはいかねえだろ、いくぞ！

お亀…願い事ってことは、きつといいなり地蔵のことだと思えます。

宝二郎…なかずとぼずは、泣かない、泣かせない、そして旅に立たない…

お千代…：

お亀…なんか、ぜーんぶお見通してみたいですね。

源太…若旦那、お千代のこと、お願いいたしやす！

宝二郎…任せてください！必ず、幸せにしてみせます！約束します！

鈴の音がする

お千代…この鈴の音…

お亀…旦那様だ！枕元に、すぐにならせるように鈴をおいてあるんです！

旦那様の目がさめたんですよ！

源太…そいつはよかった、さあ、早くいってやっておくんなさい！

宝二郎…はい！お千代さん、気をつけて…お父つつあーん！！

お亀…旦那様！！！！

宝二郎とお亀はける

源太…よし、それじゃあ行くか？

お千代…うん、待ってもしかして兄さん、いいなり地藏の前でそのまま旅立つつもりなの？

源太……ばれたか

お千代…そんな…

源太…おい、べそかいてちや会ってくれねえぞ？

お千代…：うん

源太…心配すんな、俺も親父もおめえの幸せを願ってる…：さあ、明け五つにはもう間がねえ
お千代…わかったわ。：ねえ、兄さん。兄さんはいつだって、強くてかつこよくて、

私の自慢の兄さんよ

源太…おめえだって、オレの自慢の妹だよ

お千代…うん…：そしてお父つつあんもね？(木)

兄妹 顔を見合わせて店を出ていく 暗転

エンディング【る】笑顔の花END 竹庵

登場人物

お咲・源太・お文・権蔵・佐吉・竹庵・新吉・お光

清水屋店先 権蔵が店にやってくる

権蔵..おう、ごめんよー。誰かいねえか？

奥からやってくるお咲

お咲..はい..あ、浜名湖の親分さん

権蔵..おめえ、新人女中のお咲だったか？ なんだ、平太郎と一緒に帰ったかと思ったが

まだここで働いてるのか？

お咲…はい！ いろいろありましたけど、父ちゃんやおつかさんに話をして、もうちょっと

頑張ってみようかと思ひまして、えへへ…これからもよろしくお願ひします！

権蔵…ありがとうな、清水屋のために尽くしてくれてよ…ところで宝二郎はいるかい？

お咲…いえ…若旦那様でしたら、今お客様とお話中でした…

権蔵…何だよ、この浜名湖の権蔵がきてるつてのに、それよりも大事な客つてことかあ？

お咲…んー…そう、ですね。おそらく…

権蔵…まあいいや。文ちゃんはどうしてる？

お咲…女将さんは旦那様につきつきりです。

権蔵…まあ、そうだよな…

お咲…あの！親分さんて女将さんのこと、いつから好きなんですか？

権蔵…！！ なんだおめえするどいな！ いや、いつからつてその…

新吉とお光がやってくる

お咲..ご出立ですか？

新吉..はい、江戸に戻ろうと思います！

お咲..昨夜は騒ぎに巻き込んでしまい、申し訳ありませんでした。

お光..いえ、貴重な体験ができました。ね、新吉さん

新吉..ああ、殺されるかもしれないと思ったら、猛烈に死にたくないって思えてきて..

不思議ですよね、心中するためにここまでやってきたっていうのに

権蔵..心中なあ？ そいつはおだやかじゃねえなあ..

新吉..それくらいの覚悟をもって飛び出してきたので..

お光..新吉さん..

新吉..おみっちゃんは江戸の料亭水月の一人娘で、おいらは、その奉公人で

身分が違うから、一緒にはさせてもらえなくて、だからここまで

駆け落ちしてきたんです。

お咲..そうなんです..人を好きになるってそこまで強い思いなんだ..あたしはまだ

わからないですけど、いつかそんな恋を試してみたいです!えへへ

権蔵..駆け落ちまでしてるんだ、それだけ強い思いなんだろう..おめえら、

故郷へ帰ったら必ず幸せになるんだぜ?

新吉..もちろんです!ありがとうございます!

お光..私、一生新吉さんについていきます!

権蔵.. なんだか、勇気をもらったような気がするぜ。これなら、俺もうまく言えそうな

気がするよ。文ちゃんに、ずーっと前から伝えたかったことをな…

お咲.. それでそれで、いつから好きなんですか？

権蔵.. いや、それは…

そこへ源太とお文がやってくる

源太.. それじゃあ女将さん、お千代の事お願いいたしやす

お文.. 任せてください。あら権ちゃん

権蔵.. 文ちゃん、今日も可愛いな

お咲.. あれ？お千代さんと若旦那様はどうされたんですか？

源太.. 急なことで申し訳ありやせんが、お千代はこの清水屋に残ることになりやした。

お咲…そうなんですか！？ 嬉しいです！私、お千代さんと友達になれたので！

源太…へい、お千代も言っておりました、よろしくお願いいたしやす！

お咲…はい！あれ？そういえば、お豊さんってどこいったんです？

お文…恋が成就しますようにって、いいなり地蔵様にお参りにいってるわ

佐吉がやってくる

佐吉…ごめんよ、邪魔するぜ！

源太…佐吉の親方、昨晚はいろいろとありがとうございます。

お文…私からも言わせてください。源太さん、親方さん、それに奥で宝ちゃんを

見てくれている竹庵先生…そして、権ちゃん。清水屋を守ってください

本当にありがとうございます。

権蔵…文ちゃん…当たり前だろ、オレは文ちゃんのためなら、例え火の中の中

どこにだって駆けつけるんだからよ。

佐吉…あつしもこの宿場の平和を守る十手持ちなんでね、頼っておくんない！

新吉…やっぱり清水はいいなあ…最後に泊るところをこの旅籠にして本当によかったよ

お光…もう最後じゃないでしょ？

お文…最後？

新吉…ああ、そうだったね。皆さん、本当にありがとうございました。

お光…私たちに足りないものがわかりました。もう一度、お父つつあんに

お願いしてみようと思います。新吉さんと一緒にさせてくれって…

新吉…ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ…生きていけば、何度だって

やり直せる…

お光…これはほんのお礼です。

お光、包みをお文に渡す

お文…ありがとうございます。

新吉…本当にありがとうございます。さあ、おみっちゃん、おいらと一緒にいきましょうねえか
お光…ええ。

仲睦まじく出ていく二人

お文…まあ五両も！　こんなにいただけません！お客様！

お咲…女将さん、あのお二人…駆け落ちして心中するつもりで泊まりに来たらしいですよ。

源太…何ですって！？そんな風には見えなかったが…

権蔵…昨晚の騒動で、もう一度生きてみようと思えたんだろう。文ちゃん、その銭はあの二人の

命の代金だ。きちんと受け取ってやるといいさ

お文…そうね…、有難く頂戴します。あら？という事は…お千代さんの持ってきた五十両に

不知火小僧さんがくれた五十両、そして、この五両…合わせて百五両だわ！

佐吉…清水一泊百五両ってわけだな

奥から竹庵の声

竹庵…おーい！大変じゃ！宝太郎の目が覚めたぞ！！

驚く一同

お文…宝ちゃん…宝ちゃん！！！！

権蔵…文ちゃん、良かったな…俺は、昔からおめえの笑顔が大好きだ。

これですーっと安心して笑っていられるな。

お文…：権ちゃんありがとう

お文奥へ行く

源太…宝太郎さんが無事で本当に良かった…

佐吉…まったくだ…平太郎さんの疑いも晴れたし、いいことづくめだ、なあ、権蔵さん

権蔵…：そうだな

お咲…昔からずーっと好きだったんですよね？なんで、もっと早く好きだったって

言わなかったんですか！

佐吉…おいおいお咲ちゃん…

権蔵..なあ、おめえら花は好きか？

源太..まあ、それなりに

佐吉..俺も嫌いじゃねえよ

お咲..大好きです！

権蔵..そこに咲いても花は花だ、俺は摘むのが怖かったんだよ。風が吹いたら、守って

水だってやってきた..でもな、その花に毎日話しかけて陽の光を浴びさせてやったのが

宝太郎だったんだ..道に咲いていたって、誰かの家に飾られたって、おれにとっては

大事な大事な花なんだよ

源太..親分さん..

寂しそうに、でも笑顔で店の奥をみる権蔵 徐々に暗転

エンディング【ひ】陽だまりに照らされてEND 源太

登場人物

平太郎・お静・お咲・源太・お文・宝二郎・お千代・新吉・お光

板付きの平太郎一家とお文

お咲…女将さん、いろいろとお世話になりました。

お文…こちらこそ、いろいろありがとうお咲ちゃん。平ちゃんは腕の具合は大丈夫？

平太郎…へい、竹庵先生がすぐに手当てをしてくだすったんで…

お文…良かったわ。お咲ちゃんが行ってしまうのは寂しいけど、また遊びにきてくださいね

お静…勿論です。本当に色々とお迷惑をおかけしました。

お文…迷惑だなんて…とんでもありません。

お咲…あの、女将さん！お千代さんと若旦那様のことって何か聞いてますか？

お静…お千代さんって、あの旅の娘さんのことかい？

お文…不知火小僧を追いかけろんだって、朝からもう旅に立ってしまったのよ。

宝二郎もお見送りに出かけたわ。

お咲…そうなんですか…

お文…お二人のお父つつあんだったみたい、義賊と言われた不知火小僧は。

だから会いに行ったのかもしれないわね

平太郎…大泥棒の子供！？ 大丈夫かい？何も盗まれちゃいねえだろうな？

お咲…父ちゃん！源太さんやお千代さんがそんな事するわけないだろ！

お静…あの人たちにもきちんとお礼が言いたかったね…

新吉とお光がやってくる

お文：ご出立ですか？

新吉：はい！江戸にもどろうと思います！

お文：昨晩は騒ぎに巻き込んでしまつて、申し訳ありませんでした。

お光：いえ！貴重な体験ができました、ね、新吉さん

新吉：殺されるかもしれないと思ったら、猛烈に死にたくないと思えてきて…不思議ですよ

心中するためにここまでやってきたっていうのに

お文：心中！？…まあ、それはそれは…

平太郎たちのところへ行つて

新吉..あなた方の親子の情愛、感動しました!!

お光..親子の絆って本当に素晴らしいです!私も親子の絆を信じてもう一度、

お父つつあんにお願いしてみようと思います。

新吉さんと一緒にさせてくれて..ね?

新吉..ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ..生きていれば、何度だって

やり直せる

お光..改めて思いました、生きているって素晴らしい事なんだって

平太郎..そうだけ、生きていればこそ、掴める幸せもあるってもんだ。

新吉..はい!ありがとうございます!

お光..これはほんのお礼です!

お光、お文に包みを渡す。

新吉：本当にありがとうございました、さあ、おみっちゃんおいらと一緒にいこうじゃねえか！

仲睦まじく去っていく新吉とお光

お文：まあ、五両も！ いけません！お客様こんなにあただけません！

お咲：そんなに！？私、お返ししてきます！

受け取り、出ていくお咲とぶつかる源太

お咲：きや！

源太：すいやせん！

お静…源太さん！旅に出たんじゃなかったんですか？

源太…へい、清水屋にちよいと忘れ物をしちまいましたね…

平太郎…忘れ物？

源太…女将さん、あつしの妹のお千代を若旦那の女房としてもらってやっちゃあもらえませんか

お文…え…お千代さんを？

源太…礼儀作法も何もわからねえ…世間知らずな娘だが、心根だけはまっすぐな素直な

良い子だ…それに、陽だまりのような暖かなお人に照らされていた方が、裏街道を

歩くよりも幸せに決まってる、好きなもの同士一緒にさせてやりてえと思っております。

どうか認めてやっておくんませえ。

お文…何をおっしゃいますか。もちろんです、お千代さんの事は任せてください。

鈴の音が鳴る

お咲…この鈴の音…

お文…宝ちゃんだわ！枕元に鈴が置いてあって、目が覚めたらすぐにならせるように

してあるの！宝ちゃんの目が覚めたのよ！

お咲…良かった！行きましょう！！

奥へ行くお文

平太郎…お静…

お静…心配いらないよ、少しずつ、二十年の年月をうめていきやあいんだから

お咲…不知火小僧のおかげで、あたしたちちゃんと親子になれたんだもん。

きつと父ちゃんだって大丈夫だよ

平太郎…：

源太…あつしも宝太郎さんには、大事な妹をお願いしなきゃいけないえ…さあ、めいりやしよう！

お供いたしやすよ

平太郎…すまねえ…

平太郎と源太 奥へ行く

お咲…：よかった。父ちゃんと旦那様もこれで仲直りができるね。

お静…ああ。お千代さんたちもうまくいくし、これもみんな不知火小僧のお陰だよ。

お咲…おつかさんあたしたちも行くろう？

お静…お咲…ああ！

帰って来る宝二郎とお千代　そしてなぜか源太

宝二郎…只今帰りました！

お咲…若旦那様！旦那様の目が覚めましたよ！

宝二郎…お父つつあんが…！？お千代さん、行きましょ！

お千代…はい！ほら、兄さんも早く！

源太…：わかったわかった！

お咲…え、あれ？源太さん、さつき…

お静…どうなってるんだい？

奥へ行く三人　ぽかんとしてるお咲とお静　気が付いて笑う（木）

エンディング【も】もどかしい恋心の成就END 佐吉

登場人物

宝二郎・お豊・お千代・源太・新吉・お光

お豊と宝二郎が板付き

宝二郎…：昨日は、本当にいろんなことがあったね

お豊…：そうですね…：目まぐるしいほどでしたよ

宝二郎…：まさか清水屋に不知火小僧が現れるだなんて思ってもみなかったよ。

お豊…：たしかに！本当にいるんだ！って驚きましたし…：でも、世間の噂通り、

困ってる人を助ける立派な義賊でしたね

宝二郎…：そうだね…

お豊…若旦那様？どうしたんです？浮かない顔して

宝二郎…ねえ、お豊さん。…お豊さんから見ても、私はどんな男だろう？

お豊…なんですか？急に

宝二郎…いつも、お父つつあんみたいに商売もうまくないし、自信もない、気弱な

気性が本当に嫌だったんだ…どこか逃げているような…

お豊…旦那様と比べちゃいけませんよ、あの方は特別ですからね。いくら親子だからって

同じようにならなきゃいけないわけではありませんから

宝二郎……同じことを言われたよ。

お豊…ほう、もしかや…お千代さんにですか？

宝二郎……ああ。

お豊…やっぱり、若旦那様のあんな姿初めて見ましたもん。命をかけてでも守りたいって

思った相手なら、きちんと思いは伝えた方がいいですよ！じゃないと後悔しますから

宝二郎…でも、うまくいくか…

お豊…そうなんですよねえ…あたしも、この恋が実るかどうか…

宝二郎…お豊さんも恋をしてるのかい？

お豊…ええ、ですからお互い頑張りましょう！

宝二郎……そうだね。頑張りよう！

源太とお千代がやってくる

お豊…もう行かれるんですか？

源太…へい。いろいろとお世話になりました。

宝二郎…お千代さん！…私は貴女の事が好きです。気弱で意気地のない私ですが
あなたといると強くなれる気がするんです…、どうか、私と一緒に
もらえませんか？

お千代…若旦那様…私も、若旦那様のそばにいと暖かい気持ちになれるんです。
このまま離れたくなくてありません。ずっと、ずっとそばにいたいんです。
でも…

お豊…源太さん、私からもお願いです。二人を許してあげてもらえませんか？
そして、一緒にこのお豊のことももらってくれないませんか？

源太…お豊さん、すいやせんが妹をお願いいたしや…え？

お豊…え？

源太…えーと、お千代の事をお願いしやす。

お豊…はい！そして、このお豊も源太さんの女房にしておくんさい！

源太…いや、そいつは…勘弁しておくんさい。お豊さん、おめえさんは清水屋には

なくてはならない存在だ。この話は諦めてやっておくんさいまし

お豊 そんなあと半べそ

お千代…ありがとうございます！

宝二郎…ありがとうございます！

新吉とお光がやってくる

お豊…ご出立ですか？

新吉..はい、江戸に戻ろうと思います！

お豊..昨夜は騒ぎに巻き込んでしまい、申し訳ありませんでした。

お光..いえ、貴重な体験ができました。ね、新吉さん

新吉..ああ、殺されるかもしれないと思ったら、猛烈に死にたくないって思えてきて..

不思議ですよね、心中するためにここまでやってきたっていうのに

お豊..心中！？そりやまた、ぶっそうな..

お千代たちのそばに駆け寄る新吉お光

新吉..あなた方のお互いを思う心、感動しました！！

お光..命がけで相手を思う強さ..私たちに足りないものがわかりました。

新吉..身分や育ちなんて、関係ない、今まで生きてきた世界が違ってたって

そんなことはどうでもいいんだ。だって、こんなに好きなんだから…!

お光..もう一度、お父つつあんにお願いしてみようと思います。

新吉さんと一緒にさせてくれって…ね?

新吉..ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ…生きていれば、何度だって

やり直せる…

お光..これはほんのお礼です。

お光、包みをお豊に渡す

お文..ありがとうございます。

新吉…本当にありがとうございました。さあ、おみっちゃん、おいらと一緒に

行こうじゃねえか

お光…ええ。

仲睦まじく出ていく二人

源太…知らない間に、人助けをしてたってことですね

お豊…ええ。あらまあ大変！五両も入ってるわ。

宝二郎…そんな大金が…

源太…いいじゃありませんか、命をもらった分だとすりゃあ安いもんですよ

お豊…そうですね…、あ、お千代さんが持って来てくれた五十両と、不知火小僧の

くれた五十両、それにこの五両で…一晩で百五両ものお金が清水屋に入ったことになり
ます。いわば清水一泊百五両！ってことですね

お千代…お父つつあん、私たちを助けてくれたんだもの…捨てられたわけじゃないのよね？

宝二郎…お父つつあん？

源太…へい…実はあつしらは、お父つつあんを探して旅をしてめいりやした。

大泥棒で義賊、七化けと異名をもつ、不知火小僧があつしらの親父なんでさあ

お豊…まあ、そうだったんですね。

宝二郎…あ、ということは昨晚、佐吉の親方に化けていたのが…

源太…へい、まさか目明しに化けるたあ、舐めたまねしてやがりますよね。

佐吉がやってくる

佐吉…その通りよ！ 今度こそは逃がしやあしねえ！

お千代…親方さん！…本物、ですよね？

佐吉…当たり前前よ！なんせオレは十手持ちだぜ？ そう簡単に不知火小僧の畏にかかるはず…

お豊…よくいうよ、まんまとひっかかってたくせに

宝二郎…お豊さん！

源太…：佐吉の親方、昨夜はいろいろとご迷惑をおかけいたしやした。

佐吉…なあに、いいってことよ。だが…おめえさん方が子供なら、いつかは不知火小僧と

巡り合えるかもしれねえ、どうでい？しばらく旅に同行させちゃくれねえか？

源太…へ？ 親方がですかい？

佐吉：おうよ。

お千代：でも、ごめんなさい！ 私は今日から清水屋に残ることにしたんです。

佐吉：そうなのかい？

宝二郎：はい、一緒になることになりました。

照れ笑いの宝二郎とお千代

佐吉：そりゃあめでてえじゃねえか、よし、それじゃあ源太さん、男二人旅と行こうじゃねえか

源太：え…いや、そいつは…

お豊：なんですか！ ずるいですよ！！ だったら、あたしも連れてってください！

わいわいしてるところ

源太…あ！不知火小僧だ！！

と下手を指さす そのすきに逃げる源太

佐吉…なんだって？どこだどこだ？

お豊…懸賞金が五十両！！

佐吉…あれ？ あ！おい、源太さん！！

お豊…逃がすもんですか！！

佐吉…おい！

追いかける佐吉とお豊

宝二郎…まったく、相変わらず騒がしい二人だ…

鈴がなる

お千代…この音は…

宝二郎…お父つつあんだ！枕元にすぐ鳴らせるように鈴を置いておいたんです！

お千代…よかった。これできちんと宝太郎さんにお礼が言えます。

宝二郎…お千代さん、改めて…私の女房になってくださいますか？

お千代…若旦那様、いえ、宝二郎さん…こんな私で良かったら、よろしくお願い

いたします。

宝二郎…必ず、幸せにしますからね

お千代…えええ！

二人 笑い合って奥へいく ゆっくりと暗転

エンディング【せ】精魂こめた簪END 竹庵

登場人物

お亀・権蔵・竹庵・お静・平太郎・お咲・新吉・お光

清水屋店先 権蔵が店にやってくる

権蔵..おう、ごめんよー。誰かいねえか？

奥からやってくるお亀

お亀..はーい、あ！親分！

権蔵..お亀、なんだおめえ清水屋に戻ったのか？

お亀..へい！　せつかく盃もらって子分にしてもらったのにすいやせん…

権蔵..盃も何も、一緒に茶飲んだだけだろうよ。まあ、こっちの方がおめえには
会ってるのかもしれないねえがな

お亀..旅籠で女中をしていたら、いろんなお客様に出会えますからねえ

権蔵..それで、昨日から何か変わりはあったか？あの、捕まってた不知火小僧は
捕まっただら？

お亀..いやいや、ですから！あいつは不知火小僧じゃなくて、不知火小僧を騙ってた
悪い奴なんですよ。

権蔵..おお！何だかわからねえが、やっぱり悪いやつだったんだな！

お亀..まあ、いいです。それで今日はどうしたんです？

権蔵..おお、文ちゃんいるかい？

お亀…女将さんなら旦那様に付きっ切りですけど…あれ？もしかしてそれ…

権蔵…おう、大福は断ってるって聞いたからよ、団子買ってきたんだ！

平太郎一家がやってくる

権蔵…おお。平太郎腕の怪我は大丈夫か？

平太郎…へい、まあ…暮らしていくに平気ですが…

お静…もう細かい作業はできないだろうって…

お亀…もしかして、あの場にいたのが本物の竹庵先生じゃなかったから…？

平太郎…まあ、仕方ねえよ！腕一本で家族が守れたならいいと思わなきや

やってらんねえしな！

権蔵…竹庵先生が不知火小僧だったのか？

お亀..いや、ええと..親分いると話がややこしくなるんだよな..

お咲..とにかく、父ちゃんの腕が治るまであたしが、仕事手伝うよ!

それに絶対治らないってわけじゃないでしょ?

お静..そうだね、お文さんも言ってたんだ。そう思えばそうだって、だから、治るって

信じていようじゃないか

新吉とお光がやってくる

お亀..ご出立ですか?

新吉..はい、江戸に戻ろうと思います!

お亀..昨夜は騒ぎに巻き込んでしまい、申し訳ありませんでした。

お光..いえ、貴重な体験ができました。ね、新吉さん

新吉…ああ、殺されるかもしれないと思ったら、猛烈に死にたくないって思えてきて…

不思議ですよ、心中するためにここまでやってきたっていうのに

お亀…心中って！…うそでしょ！まさかそんな事が…

新吉…おみっちゃん、ほらお話したいことがあるんだろ？

お光…ええ…あの、この簪に見覚えありませんか？

平太郎…これは…間違いねえ、昔俺が作った簪だ！

お亀…平太郎さんが！？でも、お光さんって江戸の料亭の娘さんなんですよ？

お光…この簪は、おっかさんの形見なんです。私が生まれる前に、お父つつあんから

行商の方から買ったもので…作ったのは遠州の旅籠の方だって聞きました。

権蔵…おお！平太郎のことじゃねえか！

平太郎…忘れもしねえ、二十年前のことだ…兄貴と喧嘩してこの清水屋を

飛び出していった日のことだからな

権蔵…娘っこのつけてる簪、綺麗だと思うぜ？　なあ？

お咲…そうだよ、やっぱり父ちゃんの作る簪は日本一なんだ！

平太郎……まさか、大切にされているなんて思いもしなかったよ…

お光…ごめんなさい、随分使っていたから、装飾もとれてしまつて…

お亀…それでも十分綺麗ですよ。ね？

お静…ええ、さすがはうちの人の作った簪です。

平太郎…ありがとう、本当にありがとうございやす…

新吉…お礼をいうのはおいらたちの方です！お互いを思い合う二人の絆、深い親子の愛情、

昨日のことで本当に感動したんです。

お光.. 私たちに足りないものがわかりました。もう一度、お父つつあんに

お願いしてみようと思います。新吉さんと一緒にさせてくれって..

新吉.. ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ..生きていれば、何度だって

やり直せる..

お光.. これはほんのお礼です。

お光、包みをお亀に渡す

お亀.. ありがとうございます。

新吉.. 本当にありがとうございます。さあ、おみっちゃん、おいらと一緒に行くこうじゃねえか

お光.. ええ。

仲睦まじく出ていく二人

お亀..わ！ 五両も入ってる！あれ？という事は…お千代さんの持ってきた五十両に

不知火小僧がくれた五十両、そして、この五両…合わせて百五両ですよ！

権蔵..おお、清水一泊百五両だな

奥から竹庵の声

竹庵..おーい！大変じゃ！宝太郎の目が覚めたぞ！！

お亀..聞きましたか！？

権蔵..おう！宝太郎の目が覚めたんだ！こうしちゃいられねえ

お亀..親分！？どこいくんですか！

権蔵..決まってるんだろ！粒あんの大福買って来るんだよ。ほれ、この団子はおめえらで

食っちゃいな。

エンディング【す】 全てはお豊が何とかしますEND 源太

登場人物

お豊・源太・お千代・竹庵・宝二郎・新吉・お光

清水屋店先 お豊と竹庵が板付き

竹庵.. しかしまあ.. 昨日は大変じゃったなあ

お豊.. 明かりが消えてそこにいたはずの源太さんがいないんですもん。

びっくりしちゃいましたよ。

竹庵.. 予告通りに明かりが消えたという事は、油に何か仕掛けがあったのかもしれない

お豊…たしかに…！でも、みんな無事で本当に良かったですよ。

まあ、平太郎さんの手は心配ですけど…職人なのに利き手を怪我するなんて、

大丈夫ですかね？

竹庵…ああ、傷は深かったが、いずれよくなるじやろう。わしがすぐに手当てを

してやったから心配はいりやあせんよ。

お豊…それなら良かったです。お咲ちゃんが辞めちゃったのは清水屋としては厳しいですけど…

お千代と宝二郎がやってくる

宝二郎…あの、お千代さん…！

お千代…若旦那様…

二人見つめあうが何も言い出せない宝二郎

新吉：お世話になりました！

新吉とお光がやってくる

お豊：ご出立ですか？

新吉：はい、江戸に戻ろうと思います！

お豊：昨夜は騒ぎに巻き込んでしまい、申し訳ありませんでした。

お光：いえ、貴重な体験ができました。ね、新吉さん

新吉：ああ、殺されるかもしれないと思ったら、猛烈に死にたくないって思えてきて…

不思議ですよ、ね、心中するためにここまでやってきたっていうのに

お豊.. そうなんです.. 心中.. 心中! ? やっぱり何か怪しいと思ってたんですよ!

お千代たちのそばに駆け寄る新吉お光

新吉.. あなた方のお互いを思う心、感動しました!!

お光.. 命がけで相手を思う強さ.. 私たちに足りないものがわかりました。

新吉.. 身分や育ちなんて、関係ない、今まで生きてきた世界が違ってたって

そんなことはどうでもいいんだ。だって、こんなに好きなんだから..!

お光.. もう一度、お父つつあんにお願いしてみようと思います。

新吉さんと一緒にさせてくれって.. ね?

新吉.. ああ、ダメだと言われても何度も何度も頼めばいいんだ.. 生きていれば、何度だって

やり直せる..

お光…これはほんのお礼です。

お光、包みをお豊に渡す

お豊…ありがとうございます。

新吉…本当にありがとうございます。さあ、おみっちゃん、おいらと一緒に

行こうじゃねえか

お光…ええ。

仲睦まじく出ていく二人

お豊…お幸せにー…あらやだ、五両も入ってるじゃない！

竹庵…何じゃと！それじゃあ、お千代さんの持つてきた五十両に不知火小僧がくれた五十両、

そして、この五両で清水一泊百五両じゃな。宝二郎や、これで清水屋を

やり直す事もできるな。

宝二郎…：はい、本当に皆さんに支えられてばかりで。私は一人じゃ何もできません

つくづく情けない男です…

お豊…もう！若旦那様、気の優しいのはいいところかもしれませんがね！

俯いてばかりいないで、ちゃんと前を見ないと進む事はできないんですよ？

源太…お豊さんの言うとおりで。

源太 出て来る

お千代…兄さん…本物、よね？

源太…当たり前じゃねえか。

お豊…いや怪しいので抱き着いたり嗅いだり、舐めたりして確認を…

源太に頭を押さえられるお豊

源太…若旦那、おめえさんがそんな弱気じゃ、あつしだって安心して大事な妹を託すことは

できやしねえ。どうか、男を見せてやっておくんない。

竹庵…宝二郎。しつかりせんか！

宝二郎…源太さん！ 私はお千代さんが好きです！意気地のない、気の弱い気性の私ですが

お千代さんと一緒にいたら強くなれる気がするんです！…必ず幸せにします。

どうか、一緒にさせてください！

お豊…それじゃあ私も女を見せて源太さんに想いを…

勢い余って転び竹庵にたしなめられるお豊

お千代…私も！若旦那様のそばにいと暖かい気持ちになれるの…このまま離れるなんて嫌

ずとずと一緒になりたいわ。でも、私が残ったら兄さん一人になってしまう…

源太……かわいい妹のためだ、兄ちゃんのことなんて気にするな。まあ、ずっと

兄妹二人で旅をしてきたんだ。寂しくないと言ったらウソにならあな。

お豊……だったらあたしが一緒に…

源太…お断りします

お豊……そんなあああ！！！！

泣き崩れるお豊を慰める竹庵

源太…若旦那…妹をお願いします。

宝二郎…任せてください。

源太…竹庵先生…おめえさん、本物の竹庵先生で間違いござんせんか？

お千代の事、くれぐれもよろしくお願いいたしやす。

竹庵…ああ、頼まりましたぞ

源太……くれぐれも、しりなんて触れねえように

竹庵…わかつとるわかつとる！源太さん、あんた目が怖いぞ

源太…お豊さん、おめえさんは清水屋にはなくてはならないお人だ。何たって

女中の中の女中でござんしょ？お千代のこと、お願いいたします。

お豊……わかりました。

源太…お千代。今まで散々苦勞してきたんだ…必ず幸せになるんだぞ。

お千代…うん！

源太…兄ちゃんとの約束だ…

お千代…兄さん…

二人指切りをする。

鈴の音が聞こえる。

源太…なんだ？

宝二郎…お父つつあんだ！ 枕元に鳴らせるように鈴を置いてあるんです！

お豊…目が覚めたんですね！

宝二郎…源太さん、お千代さんきてください。

源太…あつしもいいんですかい？

宝二郎…ええ、お二人はもう清水屋の家族ですから

お千代…ありがとうございます。兄さん、行きましょ

源太…ああ

奥へ行く宝二郎・源太・お千代

お豊…さてと、竹庵先生はいいんですか？

竹庵…ああ、わしゃもう少ししてからな…

お豊…それじゃあ、あたしも…

竹庵…お豊さんや。あんたのおかげで清水屋はまわつとるんじゃ…これからも頼んだよ

お豊…やだ、何ですかいきなり…やめてくださいよ。あたしは褒められるのには

なれてないんですから！

竹庵…明日は明るい日とかく、きっとあなたの明日はいつだって明るいことじやろうて

お豊…まあ、雲ってようが雨だろうが、全てはこのお豊さんが晴れ模様にしてあげますからね

何たってあたしは、清水屋の女中頭ですから！（木）

竹庵 お豊 笑い合って 暗転